

地理論略	全	一冊	明治十二年八月	荒井都之助譯述	文部省
歷史之部					
神皇正統記	卷之一	一冊		北島准后親房撰	
皇朝史略	自一至六	六冊	明治八年五月	青山延子著	
續皇朝史略	自一至三	三冊	明治十年十一月再版	全前	青山勇 東京本郷區弓町一丁目十三番地
續々皇朝史略	自一至五	五冊	明治七年八月	石村貞一纂輯	不詳
通鑑集要	自一至十一	十三冊	明治十四年一月	諸變理齋編輯 林厚德校點	石川治兵衛 東京日本橋區馬喰町二丁目一番地
清史攬要	自一至六	六冊	明治十年七月	増田貢著	龜谷行 東京下谷區御徒町一丁目八番地
巴來萬國史	上下	二冊	明治十年十一月	牧山耕平譯	小笠原美治 東京神田五軒町
圖書之部					

大成普通書學本	第一篇自一至十 第二篇自十一至二十 第三篇自二十一至三十	十冊	明治十七年五月	守住勇魚著	水口龍之助 大坂横堀五丁目七番地
生理之部					
カクトル生理養生論	自一至四	四冊	明治十三年五月	小林義直譯	島村利助 東京日本橋區馬喰町二丁目
博物之部					
普通動物學	全	一冊	明治十六年八月	丹波敬三同譯 柴田承桂	丹波敬三 東京本郷區弓町二丁目廿番地
植物通解	全	一冊	明治十六年二月	矢田部良吉譯	文部省
金石學	全	一冊	不詳	和田維四郎譯	博物館
物理之部					
士都華物理學	全	一冊	明治十二年一月	川本清一譯	東京大學理學部
化學之部					
小學化學書	自一至三	三冊	明治十七年十二月	市川盛三郎譯	文部省
幾何之部					

幾何新論	完	一冊	明治九年八月	宮川保全譯	大村長衛 東京小石川金富町 卅一番地
代數之部	代數學	自一至四	四冊	明治十年十月	石川 粹譯 小林新兵衛 東京日本橋區通二 丁目十二番地
經濟之部	寶氏經濟學	自一至五	五冊	明治十年十月	永田健助譯 永田健助 東京牛込區揚場町 十七番地
記簿之部	帳合ノ法	初編一、二、三、四	四冊	明治六年六月 明治七年六月	福澤諭吉譯 慶應義塾出版局
農工商之部	簿記楷梯	上、下	二冊	明治十一年十月	森下岩楠 合著 森下岩楠 東京猿樂町二丁目 三番地
農業全書	● 農業全書	自一至十一	十一冊		宮崎安貞 編錄 原樂軒 刪補 前川善兵衛 大坂南久寶寺町四 丁目
養蠶新編	● 養蠶新編	坤乾	二冊	明治五年六月	田島彌平著 田島彌平 上野國佐位郡島村 廿二番地

農工商經濟論	自一至五	五冊	明治三年十一月	永田健助譯	永田健助 前出
● 百工新書	外、一、二、三	三冊	明治六年七月	宮崎柳條纂輯	泉屋善平 東京芝口一丁目
● 工業新書	一、二	二冊	明治十三年二月	全前	全前
商業入門	全	一冊		甲斐絨衛 纂輯 三原國一郎	中島精一 東京芝區三田四 丁目廿六番地
小學商業書	初篇 二篇	二冊	明治十三年五月 明治十六年七月	塚原苔園著	塚原苔園 東京四谷坂町百 六番地
百工百工儉約訓	全	一冊	明治九年	高橋達郎譯	文部省
本邦法令之部	● 類聚法規	自明治元年 至明治十六年 目録共	廿一冊	司 法 省	博 東京銀坐四丁目
心理之部	心理新說	自一至四	四冊	明治十五年九月	井上哲次郎譯 青木輔清 東京日本橋區濱町 二丁目十一番地
教育之部	教育學	上、下	二冊	明治十六年二月	伊澤修二著 森遠重 東京小石川區小日向 森町三丁目廿三番地

●日本教育史略	全	一冊	明治十年八月	大槻修二編	文部省
●平民學校論略	全	二冊	明治十三年二月	村岡範為翻譯	全前
學校管理法 第三版	全	一冊	明治十六年十一月	伊澤修二著	森前重遠
改正教授術	自一至三	二冊	明治十六年六月	若林虎三郎編纂 井毅	辻敬之 東京下谷區仲徒 町二丁目四番地
体操之部					
●新制体操法	全	一冊	明治十五年六月	体操傳習所印行	体操傳習所
●新撰体操書	全	一冊	全前	全前	全前

一表中●印ヲ附スルモノハ口授ノ用書トス
 一地理ノ部輿地誌略ハ歴史ノ部ヲ省キテ教授ス
 一歴史ノ部皇朝ノ史略ハ神代ノ記ヲ缺クカ故ニ神皇正統記卷ノ一ヲ以テコレヲ補フ
 一教育ノ部平民學校論略ハ宗教ニ關スル事項等本國ニ適セサルモノハ斟酌シテコレヲ用ユ
 一代數之部代數學ハ書中誤謬不勘ニ付講習ノ際注意シテコレヲ用ユ
 第千二百二十二 明治十七年三月十一日
 丙 第百三十號
 富山師範學校 富山女子師範學校
 今般其筋達之趣モ有之候條自今其校教諭助教諭ノ内第一類并ニ第二類講習場ノ教授ニ從事スル者

ヒ新々ニ其校長教諭助教諭ニ任用スル者共其都度履歷等左ノ書式ニ照準シ開申可致此旨相違候事
 但本文ニ關スル本年一月已降新任ノ者ハ此際取願ノ開申スヘシ
 (書式)

現職 (其學校長(準監等) 何等教諭) 俸領 族姓 年 名 齡

- 一證書 學位記卒業證書免狀享受ノ年月日及ヒ場所等ヲ詳記スヘシ
- 一學業 修業ノ場所教師年限學科目等ヲ詳記スヘシ
- 一職務 官仕職業等ノ經歷ヲ詳記スヘシ
- 一賞罰

第千二十三 明治十八年二月七日

丙 第七十七號 師範學校 中學校
 公私立學校生徒ニシテ多衆集合シ躁暴危險若クハ奇異ノ行爲有之候テハ教育上弊害不勘候條右様之儀無之標其學校ニ於テ嚴敷取締可致旨其筋ヨリ達ノ趣有之候ニ付今後若シ右様ノ舉動有之ニ於テハ其情狀ニ因リ生徒ハ公私立學校ニ入學スコルトテ禁シ學校長教員等ハ官吏懲戒例ニ依リ處分候條此旨相違候事
 但運動等ノ爲メ多衆生徒集合スルトキハ其教員等ヲシテ必ス監視取締ヲナサシムヘシ
 第千二十四 明治十九年四月八日

甲 第三十三號

師範學校ノ卒業者ニシテ教職ニ從事スル者ハ自今毎六ヶ月其服務ノ狀況ヲ該學校ニ報告スヘシ
但既設ニ係ル官立師範學校ノ卒業者ハ東京師範學校ニ同府縣立師範學校ノ卒業者ハ其學校ノ在リシ地方ノ所屬府縣立師範學校ニ報告スヘシ
右布達候事

第千二十五 明治十九年十二月二十三日

縣令第三十二號

本縣師範學校ヲ富山縣尋常師範學校ト改稱シ該校規則左ノ通相定ム

富山縣尋常師範學校規則

第一章 總則

- 第一條 本校ハ小學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成シ順其信愛威重ノ三氣質ヲ備ヘシムルヲ主トス
- 第二條 學科ハ之ヲ四級ニ分チ每級修學ノ年限ハ一ケ年トシ滿四ケ年ヲ以テ完了スルモノトス
- 第三條 生徒ノ定員ハ文部省令第十號尋常師範學校生徒募集規則第九條ニ據ル
- 第二章 入學、退學、
- 第四條 入學期ハ毎年(四)一回學年ノ始メニ於テシ其員數及ヒ期日ハ二十日以前之ヲ廣告スヘシ
但時宜ニ由リ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ
- 第五條 入學志願者ハ在學中家事ニ係累ナキモノタルヘシ
- 第六條 入學試験ニ於テ合格ノ者募集定員ニ超過スルコトアルハ合格者ノ内ニ就キ選拔ス
- 第七條 入學許可ノ命ヲ得タル者ハ其當日ヨリ一週間以內ニ左式ノ誓約書ヲ認メ保證人同道本校
ヘ持參スヘシ

誓約書

二十六年六月
令第七十四號
ヲ以テ第二條
ヲ削除シ第三
條以下繰上ク

某(入學者名)儀小學校教員志願ニ依リ入學御許可相成候ニ付卒業後文部省令第十一號尋常師範學校
卒業生服務規則ヲ遵守スヘキハ勿論在學中一切御校則ニ悖戻致間敷候依テ保證人連署此段相誓候
也

年 月 日

姓 名 印

富山縣越中國何郡何町村何番地居住誰方同居

富山縣士族平民戶主誰長男女弟妹等

富山縣越中國何郡何町村何番地居住

富山縣士族平民戶主

保證人 姓 名 印

富山縣尋常師範學校長某殿

第八條 保證人死亡若クハ 住旅行等ニテ其義務ヲ盡ス能ハサルトキハ速カニ代人ヲ選定シテ届
出ヘシ

第九條 入學許可ノ命ヲ得ルト雖モ第八條ノ手續ヲナサハルトキハ如何ナル事情アルモ入學ヲ許
サス

第十條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ事故何タルヲ問ハス一切退學ヲ出願スルヲ得ス

第十一條 入學試験ノ評點ハ試業規則ノ例ニ據ル

第十二條 入學志願者ハ募集廣告ニ從ヒ其手續ヲ經テ願書正副二通ヲ出スヘシ

第十三條 第五條ヨリ第十三條マテノ外ハ文部省令第十號尋常師範學校生徒募集規則ニ據ル

第十四條 病氣其他事故アリテ數々遅刻欠課スルコト多ク到底成業ノ目途ナシト認ムルモノ又六

ケ月以上連續欠課スル者ハ退學セシム
 第十五條 第五章試業規則第三十二條學年試業評點標準表中退學ノ項及第三十二條ニ該當スル者ハ退學ヲ命ス

第三章 學年、學期、授業時間、休業、

第十六條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月卅一日ニ終ル

第十七條 學年ヲ分チテ三學期トス第一學期ハ四月一日ニ始マリ七月十五日ニ終ル(十五週一日)

第二學期ハ九月十日ニ始マリ十二月二十四日ニ終ル(十五週一日)第三學期ハ翌年一月八日ニ始マリ三月廿四日ニ終ル(十週六日)

第十八條 授業時間ハ一年四十一週一日、一週三十四時、一日六時、土曜日ハ四時トス但授業開始時ニ依リ之ヲ定ム

第十九條 年中休業日左ノ如シ

日曜日 神武天皇祭四月一日

夏期休業 七月十六日ニ始マリ九月九日ニ終ル

秋季皇靈祭 秋分日

神嘗祭 十月十七日

天長節 十一月三日

新嘗祭 十一月二十三日

冬期休業 十二月二十五日ニ始マリ翌年一月七日ニ終ル

孝明天皇祭 一月三十日

紀元節 二月十一日

春季皇靈祭

春分日

學年試業後休業

三月二十五日ニ始マリ同月三十一日ニ終ル

第四章 學科課程教科用書ノ配當

第二十條 學科課程及ヒ教科用書ノ配當ハ左ノ如シ

學科課程表

學年	學科	第一級		第二級		第三級		第四級	
		時間	科目	時間	科目	時間	科目	時間	科目
第一	倫理	一	人倫道德ノ要旨	一	同上	一	同上	一	同上
第二	教育	二	總論智育	八	德育ノ原理 體育ノ原理	四	學校ノ設置編 制管理ノ方法 教育ニ關スル 本邦教育令 本邦教育史 外國教育史	二	八 實地授業
第三	國語	三	文法 日本ノ文學詞ノ活 用 漢字交リ文 消息文	一	同上	二	同上	二	同上
第四	漢文	二	支那ノ文法 支那ノ要略	二	同上	二	同上	二	同上

二十一年十月
 令第百十一
 號ヲ以テ追加
 ス

博物學	地理歷史	簿記	數學	英語
植物學 總論根莖枝葉花實 形論及其官能論	地理 日本地理 製圖法 日本歷史		算術 命位 分數 比例 乘除 開平 開立 求自	綴字、讀法、習字
植物學 採集分類記述 解集諸法 形論及隱花植物 動物學 總論無脊椎動物 目及主要動物 初歩	外國地理 製圖法 外國歷史		代數 釋義 合數 分式 幾何 直線 線形	讀法、文法
動物學 有脊椎動物 及無脊椎動物 之解剖生理 要旨	地理 歷史 同上		代數 自乘法 法指式 二次 比例 何積 面立 角平	讀法、文法、翻譯
礦物學 總論 及物理化學 性質 質等 鑛類 石類 鑛類 通鑛物 概略		二 單記 複記		三 讀法、翻譯

物理化學	農業手工	家事	習字圖書	音樂	體操
物理 總論 力學 物質論	手工 木工具 金工具 種類 用法等	住居 衣服 洗濯 整理 裁縫 金銀 出納 及 衣服 裁縫 等 實業	習字 楷書 行書 草書 帶影書 幾何 帶影書	音樂 上等 名稱 記號 單音 唱歌 及 輪 絃 法	普通 體操 準備 法 矯正 術 徒
物理 音響學 光學 非金屬	手工 同上 及 工業 上 要 務	同上	習字 草書 帶影書 幾何	單音 唱歌 及 輪 絃 法	普通 體操
物理 越學 磁氣	農業 土壤 肥料 成分 法	同上	帶影書	旋律 和聲 拍節 及 複 彈	普通 體操
化學 有機物 化學 實習	農業 器具 用法 耕作 撰擇 保護 等	同上	透視 書法 寫	複音 及 三 重 音	普通 體操

英	漢	國	教	倫	學		通計	普通
					科	年		
ウエブストル綴字書 ナショナル讀本 一二 スペインセル習字書		讀書 和文讀本全 和文軌範 二 語彙別記 語彙活語指掌 詞ノ入術 詞ノ玉緒		フランク脩身原論 道義學 大學 論語	第一	第一	三四	女三 普通 準備法 矯正術 徒手
	讀書 正文章軌範全	同上	如氏教育學	同上	第二	第二	三四	女三 普通 徒手 球竿 啞鈴
ナショナル讀本三四 コックス文法書 一		同上	如氏教育學 改正教授術 幼稚園記	同上	第三	第三	三四	女三 普通 球竿
ナショナル讀本五 コックス文法書 二	讀書 謝選拾遺全 孟子 二 再刻日本文章軌範 唐宋八大家文讀本 春秋左氏傳		同上	同上	第四	第四	三四	女三 普通 豆莢
					第一	第一	二八	
					級	年	一	

教科用圖書各級配當表

家	農	物	博	地	簿	數	代	
							代	代
裁縫書 小學家事經濟訓蒙普通	手工 工場用具論	物理 士都華氏物理學 正物理全誌	植物 普通植物學 植物通解 植物解明圖	地理 改正日本地誌要略 新撰中地理書 一三四 新刻日本暗射圖 歷史 日本文明史略 皇朝史畧續續々共	簿記	算算 算算摘要算術教科書 珠算精法 一三三	代數 代數教科書 幾何 幾何教科書	同上
必讀 婦女家事要訓	同上	同上	動物 動物學 動物解明圖	地理 新撰中地理書五六七 萬國暗射地圖 歷史 十八史畧 新刻元明清史畧			同上	馬耳蘇氏 記簿法
同上	農業 農理學初步 勸業理財學	同上	動物 同上 弗氏生理書	地理 藤氏地文學 歷史 正萬國史畧				
同上	農業 農用家畜論	化學 同上	礦物 金石學 金石一覽					

習字圖書 楷書千字文 小學習畫帖	習字 行書千字文 草書千字文 圖畫 小學習畫帖 用器畫法并圖式	圖畫 小學習畫帖	圖畫 同上 用器畫法并圖式
音樂 小學唱歌集 唱歌掛圖 初編	同上	小學唱歌集 唱歌掛圖 音樂問答 二編	小學唱歌集 唱歌掛圖 樂典 三編
體操 新制體操法 新撰體操書 步操教範 步兵操典 野外演習軌典	全上 射的教程	同上	同上
教科用圖書著譯者名			
倫理 修身原論 道義學 刊行中 論語 大學 教育 譯如氏教育學 註如氏教育學 學校管理法			
河津祐之譯 ベイン著 福富孝季譯 朱熹集註 朱熹章句 有賀長雄譯 シヨセフランドン原著 外山正一譯補			

日本教育史略 巴氏教育史 刊行中 改正教授術 幼稚園記 國語 和文讀本 和文軌範 語彙別記 語彙活語指掌 詞の八衢 詞の玉緒 漢文 正文章軌範 謝選拾遺 孟子 再刻日本文章軌範 唐宋八大家文讀本 春秋左氏傳 英語 綴字書	大槻修二編 那珂通高訂 平山成信譯 若林虎三郎編纂 白井 毅 關 信三譯 稻垣千穎輯 里見義著 文部省編輯寮編纂 文部省編輯寮編纂 本居春庭著 本居宣長著 謝枋得批選 賴 襄選 朱熹集註 石川鴻齋批選 沈德潛評點 杜預集解 ウエプストル著
---	---

ナシヨナル讀本

習字書

文法書

算術教科書

新撰珠算精法

筆算摘要

代數教科書

幾何教科書

簿記

馬耳記簿法

蘇氏地理歷史

改訂日本地誌要畧

新撰中地理書

新刻日本暗射圖

萬國地圖

蒙氏地文學 刊行中

皇朝史畧

續皇朝史畧

續々皇朝史畧

スベンセル著

コックス著

田中矢德編

駒野政和著

神津道太郎譯

田中矢德編輯

田中矢德編輯

小林儀秀譯

大槻修二著

山田行元編述

大槻文彦等製

ジョンストン製

富士谷孝雄譯

青山延子著

青山延子著

石村貞一纂輯

曾先之編次

石村貞一編次

西村茂樹編輯

矢田部良吉譯

丹波敬三

高橋秀松同譯

柴田承桂

宮原直堯纂譯

和田維四郎譯

和田維四郎譯

ジョンストン

ヘンスロー

坪井爲春譯

川本清一譯

宇田川準一譯

太田雄寧譯纂

磯野德三郎編述

久原躬政譯

十八史略

明治元明清史畧

新刻元明清史畧

校正萬國史畧

博物

植物通解

普通植物學

中學動物學

金石學

金石一覽圖

博物解明圖

植物解明圖

弗氏生理書

物理化學

士都華氏物理學

改訂物理全誌

新式化學

中學化學書

農業手工

農理學初歩

- 農用家畜論
 - 勸業理財學
 - シエー氏 工場用具論 刊行中
 - 家事
 - 小家事經濟訓蒙
 - 家事經濟論
 - 婦女必設家事要訓
 - 普通裁縫教授書
 - 習字圖書
 - 一學習書帖
 - 用器書法并圖式
 - 小學幾何書法
 - 音樂
 - 小學唱歌集
 - 唱歌掛圖
 - 音樂問答
 - 樂典
 - 新體操法
 - 體操
 - 制體操法
- 大内 建譯
 - 今井秀之助 譯
 - 高橋是清 譯
 - 山田要吉 譯
 - 日下部三之介 編纂
 - 藤田久道 編述
 - 前田寅七郎 編述
 - 渡邊辰五郎 編輯
 - 文部省編輯局 編
 - 平瀬作五郎 纂譯
 - 山田昌邦 譯
 - 文部省音樂取調掛 編
 - 文部省音樂取調掛 編
 - 瀧村小太郎 譯
 - 神津元 譯
 - 文部省體操傳習所 編

- 新體操書
 - 體操教範
 - 野外演習軌典
 - 步兵操典
 - 射的教程
 - 第五章 試業卒業證書
 - 第二十一條 試業ヲ分チテ入學試業學期試業學年試業ノ三種トス
 - 第二十二條 入學試業ニ入學志願者ノ品行年齡身體等ヲ檢定セシ後之ヲ施行シ本縣小學教則高等科ノ程度ニ據リ各學科ヲ試驗スルモノトス
 - 第二十三條 學期試業ハ每學期ノ終リニ施行シ一學期間履修ノ學力ヲ試驗スルモノトス
 - 第二十四條 學年試業ハ學年ノ終リニ施行シ其學級ニ於テ履修セシ學科ノ全體ヲ試驗スルモノトス
 - 第二十五條 各學科試業評點ハ問題ノ難易ニ應シテ定點ヲ配當ス但倫理ノ一科ハ平素ノ行狀ヲ按檢シテ合配スルモノトス
 - 第二十六條 各學科評點ハ一百ヲ以テ最高點トナス
 - 第二十七條 入學試業評點ハ各學科ノ得點ヲ定メ更ニ之ヲ合計シ學科ノ數ヲ以テ之ヲ除シ平均點數六十各學科五十以上ノモノヲ及第トシ以下ヲ落第トス
 - 第二十八條 學期試業評點ハ各學科ノ得點數ニ一學期間日課平均點ノ二倍ヲ加入シ三除シテ之ヲ定ム
 - 第二十九條 學年試業評點ハ各學科ノ得點數ニ三學期評點平均點ノ二倍ヲ加入シ三除シテ之ヲ定ム
- 文部省體操傳習所 編
 - 陸軍省 編
 - 陸軍省 編
 - 陸軍省 編
 - 陸軍省 編

其總平均數ハ各學科ノ評點ヲ合シ學科數ヲ以テ除シ之レテ定ム但各學科ノ授業一學期乃至二學期中ニ終リタルモノ、計算法モ之レニ同シ

第三十條 生徒ノ坐次ハ學年試業ノ成績ニ據リ之ヲ定ム其卒業ノ期ニ當ルモノハ四ヶ年間ノ學年評點平均數ニ據ル

第三十一條 學年試業ニ於テ生徒ノ及落第及ヒ退學ヲ定ムルハ左表ニ據ル

學年試業評點及落第標準表

學年評點總平均數	學科ノ數	學年評點		及第	落第	退學
		六十點以下	六十點以上			
六十點以上	一課目	五十點以下	五十點以上	及第	落第	退學
六十點以上	二課目	三十點以下	三十點以上	及第	落第	退學
六十點以上	三課目	二十點以下	二十點以上	及第	落第	退學
六十點以上	四課目	十點以下	十點以上	及第	落第	退學
六十點以上	五課目	十點以下	十點以上	及第	落第	退學
六十點以上	六課目	十點以下	十點以上	及第	落第	退學

落第 二課目以上ナレハ及第
六十點以上ナレハ及第
六十點以下ナレハ及第

落第 一課目以上ナレハ及第
六十點以上ナレハ及第
六十點以下ナレハ及第

落第 一課目以上ナレハ及第
六十點以上ナレハ及第
六十點以下ナレハ及第

落第 一課目以上ナレハ及第
六十點以上ナレハ及第
六十點以下ナレハ及第

落第 一課目以上ナレハ及第
六十點以上ナレハ及第
六十點以下ナレハ及第

落第 一課目以上ナレハ及第
六十點以上ナレハ及第
六十點以下ナレハ及第

落第 一課目以上ナレハ及第
六十點以上ナレハ及第
六十點以下ナレハ及第

第三十二條 學年試業ニ於テ引續キ落第二回ニ及フモノハ退學ヲ命ス

第三十三條 第四年期ノ學年試業ニ及第シタル生徒ニハ左式ノ證書ヲ授與ス

卒業證書

校印

尋常師範學科卒業候事

年月日

族籍

姓名

年 齡

富山縣尋常師範學校校長某 印

番號

第三十四條 卒業證書ヲ毀損若クハ紛失シタルトキハ事由ヲ詳記シ其所轄郡長ノ與印ヲ得テ書換又ハ再與テ本校ヘ願出ヘシ

第六章 服務

第三十五條 服務規則ハ文部省令第十一號ニ據ル但卒業後就職退職及轉籍等其都度本校ヘ届出ヘシ

第七章 生徒心得

第三十六條 廉耻ヲ勵ミ節操ヲ磨キ常ニ信愛恭順ヲ專ラトシ忍耐力行敢爲勇往ノ氣象ヲ存シ學業ニ勉勵シ攝生ニ怠ルヘカラス

第三十七條 教室ニアリテハ潜心課業ニ從事シ毫モ教師ノ指令ニ違フ可ラス

第三十八條 每始業時間ニハ號音ニ由リ教室ニ出席シテ坐位ニ就キ教師臨室セハ敬禮ヲ表スヘシ
終業ノ際亦敬禮退室スヘシ

第三十九條 課業時間ノ始終其外渾テノ號音ハ喇叭ヲ以テ報ス

第四十條 教室ヲ出入スルトキハ座次ニ從フヘシ

第四十一條 教師ノ問ニ答ヘ又ハ質問セント欲スルトキハ起立スヘシ

第四十二條 教室内ハ生徒互ニ問答スルヲ禁ス教師ニ向テ問テ起シ教師ヲ經テ答フヘシ

第四十三條 教室ニ在リテハ書籍器械標本等教師ノ許可ナクシテ手ヲ觸ルハ不得ス

第四十四條 始業時間ニ後レタル者ハ受持教師ノ許可ナクシテ濫リニ教室ニ入り就席スヘカラス

第四十五條 課業時間中病氣又ハ已ムヲ得サル事アリテ欠課セントスルトキハ受持教師ノ許可ヲ得テ退クヘシ

第四十六條 授業時間ノ外ハ妄リニ教室ニ出入スルヲ禁ス

第四十七條 放課時間タリトモ楷梯ノ昇降廊下ノ往來等渾テ喧噪ノ行爲ヲナスヘカラス

第四十八條 外出ハ休日ノ外毎水曜日正課時間後トス

第四十九條 病氣ニテ欠課セシ者ハ外出ヲ許サス但醫員ノ診斷ニ由リ外出ヲ要スルモノハ此限ニアラス

第五十條 外出スルトキハ門信ヲ門番ニ出シ歸舍スルトキハ之ヲ收ムヘシ

第五十一條 外出中病氣ニ罹ルモノハ其所在ノ主人ヨリ其姓名時刻等ヲ詳記捺印シ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ即時届出ヘシ

第五十二條 凡ソ揭示シタル事項ハ一日ヲ過グレハ一般領知スルモノトス

第五十三條 外來人ノ應接ハ舍監ノ許可ヲ受ケ應接所ニ於テスヘシ

第五十四條 生徒病氣ノ節ハ富山病院ノ醫員ヲシテ診斷施療セシム其病症ニ依リ下宿歸郷ヲ命スルコトアルヘシ

第五十五條 疾病ニテ欠課セントスル者ハ舍監ニ申出指揮ヲ受クヘシ

第五十六條 父母ノ病氣及忌辰ニテ下宿又ハ歸郷ヲ願フモノハ先ツ其日數ヲ豫定シ其事故ヲ詳記セル父兄若クハ保證人ノ願書ニ在籍戸長ノ與印アル證書ヲ添ヘ出願スヘシ但歸舍延期ノ追願ヲ出スモ亦之ニ同シ

第五十七條 前條ノ外冬夏季休業中ト雖モ歸郷ヲ許サス但平常ノ品行學業ヲ檢査シ夏季休業中ト雖モ亦之ニ同シ

第五十八條 總テ生徒ヨリ差出ス願届等ハ伍長什長組長舍監ヲ經由スヘシ

第五十九條 事故ノ何タルヲ問ハス建議請願ヲ要スル時ハ各自ニ之ヲ爲スヘシ數人團結シテ建議請願スルヲ許サス

第六十條 許可ヲ得ルニアラサレハ校内ニ於テ會同スルヲ許サス

第六十一條 物品ヲ携出スルトキハ品目ヲ記セル書面ニ舍監ノ捺印ヲ受ケ之ヲ門番ニ出スヘシ

第八章 男生徒編成ノ定則

第六十二條 本校ノ諸定則ヲ保ツニ便ナルガ爲メ諸生徒ヲ編成シ之ヲ學生團ト稱ス

二十一年四月
縣令第五十四號
ス以テ改正

第六十三條 學生團ヲ四分シテ中團トナシ中團ヲ二分シテ小團トナシ小團ヲ二分シテ分團トナス
第六十四條 學生中團ハ第一ヨリ第四ニ至ル小團ハ第一ヨリ第八ニ至ル分團ハ第一ヨリ第十六ニ
至ル各團其番號ヲ付ス

第六十五條 學生團ノ役員ハ學生團長ヲ置カス各中團ニ組長一名小團ニ什長一名分團ニ伍長一名
ヲ置ク

第六十六條 體操演習ノトキハ學生團ヲ中隊ニ編成シ總テ歩兵中隊ノ式ニ準ス

第九章 敬禮服從ノ定則

第六十七條 敬禮ハ上下ノ順序ヲ正クスル道ナレハ之ヲ忽ニスヘカラス總テ長上ニ對シテハ皆ニ
外貌ニ止ラス中心尊敬ノ意ヲ存スヘシ

第六十八條 敬禮ヲ行フニハ正面直立シテ姿勢ヲ正クシ被禮者ニ注目シ少シク體ノ上部ヲ前ニ傾
クヘシ若帽ノトキニ在リテハ右手ヲ以テ眼庇ヲ把リテ之ヲ脱シ右方ニ伸ハシ稍下方ニ垂レテ敬
禮シ又進行中ニ在リテスル者ハ被禮者ヨリ三步前ニ止リテ敬禮シ被禮者ノ通過スルヲ待テ若
帽歩行スヘシ但禮帽ノ際裏面ヲ外方ニ
顯サハルヲ注意スヘシ

第六十九條 物品ヲ兩手ニ携フトキハ被禮者ニ對シ直立不動ノ姿勢ヲナシ以テ敬意ヲ表スヘシ

第七十條 校ノ内外ヲ問ハズ學校長教頭教官幹事等總テ上位ノモノニ對シテ敬禮ヲ行フハ前條ニ
據リテスヘシ但同等相互ノ禮ニ於テハ
ルモ姿勢等之ニ同シ

第七十一條 敬禮ヲ行フニ當リ椅子ニ倚リタルトキハ椅子ヲ離レ他人ト談話スルトキハ談話ヲ止
メ禮ヲ行フヘシ

第七十二條 學校長教頭教官幹事等上位ノ者ト對話スルトキハ姿勢ヲ正シクスヘシ上位ノ者ヨリ
若帽ヲ許スニ非レハ之ヲ着ス可ラス

第七十三條 室内ニ入ラントスルトキハ先ツ室外ニ於テ帽ヲ脱スヘシ

第七十四條 室内ニ在リテ禮ヲ行フニハ先ツ被禮者ニ對シ正面直立シ以テ體ノ上部ヲ傾クヘシ

第七十五條 室内ニ來ル者上官若クハ己レヨリ上級又ハ同級ナルトキハ其坐ヲ離シ上文ノ如ク禮
ヲ行フヘシ若シ下級ナルトキハ坐ヲ離スシテ答禮スルモ妨ナシ

第七十六條 上官上級ノ者室内ニ來ルトキハ其所用アル本人ノ外傍ラニ在リテ勉學又ハ事務ヲナ
ス者ハ一旦禮ヲ行フ後各其事ニ從フヘシ

第七十七條 凡ソ上タル者命令ヲ出シ下タル者命令ニ從フハ社會ヲ治ムルノ要領ナリ故ニ上下尊
卑ノ分ヲ亂サス共ニ心ヲ公平ニシ上タル者ハ下タル者ヲ愛シ下タル者ハ上タル者ニ順從シ諸事
穩當ニシテ威迫粗暴ノ舉動ヲナスヘカラス

第七十八條 上タル者下タル者ヲシテ定則ヲ遵奉シ勇氣ヲ振起シ耻ヲ知り譽ヲ求ムルノ意ヲ起サ
シムルノミナラズ萬般ノ事己ニ敬服セシムルニ平常注意スヘシ

第七十九條 下タル者上タル者ニ服從スルハ階級ヲ逐フテ嚴重ナルヲ要スト雖阿諛ノ言行ナク規
則ニ從ヒ各其本分ヲ盡スヘシ

第八十條 學友ハ伍長ニ服從シ伍長ハ什長ニ服從シ什長ハ組長ニ服從シ組長ハ舍監ニ服從スヘシ

第八十一條 學友中ニ於テモ上級ノモノニハ勿論同級中ト雖モ上席ノ者ニ服從スヘシ

第八十二條 命令アルニ當リ直ニ施行スヘキモノハ直ニ之ヲ施行シ事ノ可否論議スヘカラス蓋シ
命令ノ可否ハ之ヲ出スモノノ責ニシテ之ヲ行フモノノ責ニ非レハナリ

第八十三條 命令アルニ當リ其原因主旨等ノ辨明ヲ求ムルヲ許サス若シ旨意ノ了解シ能ハサル所
アレハ謹テ疑義ヲ質スハ妨ケンナシ

第八十四條 命令アルニ際シ現ニ受クル所ノモノ前ニ受クル所ノモノト組語セリト思惟スルトキハ丁寧ニ其趣旨ヲ陳述スヘシ許可ナクシテ恣ニ決行スルヲ得ス

第八十五條 規則ニ抵触スル等ノコトアリテ其處罰方假令不當ナリト認ムルモ強辯スルヲ得ス

第八十六條 上タル者ノ取扱ニ於テ不條理ナルモノアリト思惟スルトキハ爭論スルコトナク其手續ヲ經テ之ヲ訴フヘシ

第十章 室内起居ノ定則

第八十七條 寄宿舎ハ生徒ヲ紀律節制ノ下ニ監督シ教室内ノ訓養ト相須テ育成スルモノナレハ下條ニ定ムル條項ヲ格守スヘシ

第八十八條 生徒ハ晨起ノ號音ニテ速カニ臥床ヲ離レ窓戸ヲ開キ服裝ヲ正シテ廊下ニ整列シ人員檢査ヲ受ケ寢具ヲ收メテ後盥嗽梳髮身體ヲ清潔ニシ書籍器具及衣服ヲ整頓スヘシ

第八十九條 室内ニ入ルニハ靴ノ泥土ヲ靴拭ニテ丁寧ニ拂拭ヘシ

第九十條 室内ニ於テ唱歌吟詩又ハ音讀高談ヲナスヘカラス且鳥獸ヲ飼養シ玩具ヲ取扱フヘカラス

第九十一條 室内及廊下窓前ハ痰唾ヲ吐キ烟草ノ吹殻ヲ棄テ又ハ安リニ流動物ヲ撒シ物品ヲ擲出スル等其他汚穢ノコトヲナスヘカラス且濕滯シタル物品衣服等ヲ窓前ニテ垂下乾燥スヘカラス

第九十二條 制定外ノ場處ニ於テ銃器等ノ掃除ヲナシ或ハ喫煙シ湯水ヲ飲ミ又ハ物品ヲ取亂シ掛ケ置ク等ヲ禁ス

第九十三條 起床時限ヨリ就寢時限マテハ猥リニ他室及ヒ寢室ニ出入スルヲ許サス

第九十四條 柱壁窓戸机腰掛煖室爐等ヲ傷汚樂書等ヲナシ或ハ諸器具及窓ノ縁等ニ於テ物品ヲ裁截シ又ハ机ニ腰ヲ掛クル等ヲ禁ス

第九十五條 總テ廊下ノ點燈ニ手ヲ附クヘカラス又其火ヲ喫烟他用ニ供スヘカラス

第九十六條 食時ヲ報セハ遲滯ナク食堂ニ會同シ指定ノ禮ヲ行フノ後食ニ就クヘシ且就食中ハ舉止靜肅ヲ旨トシ食物ノ精粗豐否等一切談話ヲナスヘカラス又直接ニ賄方ヲ叱責スルヲ得ス

第九十七條 身躰ノ不潔ナルハ尤モ養生ニ害アレハ時時顔面手足ヲ洗ヒ爪ヲ剪リ齒ヲ磨キ浴湯スル等忽諸ニスヘカラス

第九十八條 頭髮ハ頭腦ヲ保護スルニ緊要ノモノナレハ適宜ニ延長セシムヘキモ前頭二寸後頭一寸ヨリ長クスヘカラス

第九十九條 襦袢ハ時々洗濯スヘシ其他ノ衣類モ晴天ノ時ニ於テスヘシ

第一百條 疾病ニ罹リ飲食起居ノ定規ヲ履ム能ハサル者ハ醫員ノ診斷ニヨリ病室ニ入ラシム又重症ノモノハ病院ニ入ラシメ或ハ外宿セシムルヲアルヘシ

第十一章 服裝ノ定則

第一百一條 生徒ハ教室講堂及體操總テ授業ノトキハ勿論校ノ内外子問ハス常ニ制服ヲ着スヘシ但許テ得タル者若クハ給與未濟ノ者ハ此限ニアラス

第一百二條 制服ヲ着シタル時ハ制帽及ヒ靴ヲ用ヒ一切襟卷傘足駄草履等ヲ用ユルヲ禁ス又安リニ「フック」ヲ外シ袴裏ヲ外面ヘ表ハス等容儀ヲ亂スヘカラス

第一百三條 校外遊歩ノ時ハ襟ヲ用ヒ手套ヲ穿ツハ妨ケナシト雖校内ニ在リテハ之ヲ用ユルヲ許サス

第一百四條 雨雪天ノ時外出ヲ要スルモノハ外套ヲ着シ脚絆ヲ穿用スヘシ若シ校内ニ於テ用ユヘキトキハ指命スルモノトス

第百九條 袴ハ尾錠ヲ以テ腰部ニ留ムヘシ袴鈞又ハ帶ヲ用ユヘカラス
第百六條 夏服ヲ着シタルトキハ帽ノ日覆ヲ用ユヘシ若シ外套ヲ着シタルトキハ夏服ノトキト雖
日覆ヲ除クヘシ

第百七條 帽ノ紐ハ前部ニ纏メ置クヘシ指命ナクシテ垂下スルヲ禁ス
第十二章 物品裝置ノ定則

第百八條 書籍被服類等左ノ順序ヲ以テ寢室ノ棚内ニ裝置スヘシ

- 上段 右側 書籍
- 全 左側 紙類
- 中段 右側 帽冬衣袴
- 全 左側 外套及日覆夏衣袴
- 下段 右側 冬夏襦袢及袴下
- 全 左側 襟手套背囊脚絆及靴下類

第百九條 上衣ハ裏面ヲ外ニシ左右ノ胸部ヲ内ニ折リ之ヲ縱ニ疊收シ殆ト棚ノ半幅ニ等フシ領部ヲ棚ノ右ニナシ下部ヲ左ニス若シ其棚ノ半幅ヨリ長キトキハ領ト下部ヲ内ニ折リ曲クヘシ
第百十條 袴ハ裾ヲ一様ニ揃ヒ半ニ折リ疊ミ殆ト棚ノ半幅ニ等フシ裾ヲ下ニ廻廻リノ部ヲ上ニシ其折リ曲リタル部ヲ棚ノ左ニスヘシ若シ半折セシ袴棚ノ半幅ヨリ短キトキハ裾ノ部ヲ短ク折リ廻廻リノ部ヲ下ニ棚ノ半幅ニ等フスヘシ若シ棚ノ半幅ヨリ長キトキハ廻廻リノ部ヲ下ニ折リ曲クヘシ

第百十一條 外套ハ常ニ頭巾ヲ付シ裏ヲ外ニシ兩胸ノ部ヲ内ニ折リ上部ト下部トテ内方ニ疊收シ尙再ヒ該部ヲ内ニ折疊シ又之ヲ半折シテ棚ノ半幅ニ等フスヘシ

第百十二條 手套ハ一雙ヲ合シ手首ノ口ヲ疊收スヘシ又脚絆ハ片足毎ニ革ヲ裏面ニ入レ足頭ノ方ヨリ折リ曲ケテ脛口ヲ翻シテ其裏ヲ表ハシ日覆ハ半折シテ夏服ト共ニ置キ又靴下ハ脚絆ト同シク疊收シテ備置クヘシ

第百十三條 帶革及靴等ハ棚下ノ折釘ニ掛クヘシ

第百十四條 寢具ハ起床後直ニ之ヲ整理シ其寢床ヲ裝フハ夕飯後ニ於テスヘシ

第百十五條 書籍器具等用ユル毎ニ制定ノ場處ニ整理シ錯亂スヘカラス且汚穢ノ物品ヲ臥褥又ハ寢臺ノ下等ニ隠シ置クヘカラス

第百十六條 靴ニ足以上ヲ有スルモノハ交互ニ之ヲ用ヒ目下所用ノ外ハ常ニ手入ヲナスヘシ但靴入ハ能ク泥土ヲ拂拭シ水氣ヲ乾カスヘシ

第百十七條 帽衣袴其他ノ被服類ハ時々刷毛ニテ能ク塵ヲ拂ヒ置クヘシ

第十三章 檢査ノ定則

第百十八條 檢査ヲ分チテ清潔檢査細密檢査武裝檢査ノ三種トス

第百十九條 清潔檢査ハ毎土曜日ノ午後之ヲ行フモノニシテ生徒ハ各室ノ掃除方及ヒ書籍武器衣服背囊革具ノ手入ヲナシ諸物品ヲ整理シ舍監ノ檢査ニ備フヘシ

第百二十條 細密檢査ハ毎月一回乃至二回舍監ノ定ムル期日ニ之ヲ行フ生徒ハ每室ヲ清潔ニシ武器背囊革具ヲ分解シ小部分ニ至ルマテ悉皆手入ヲナシ寢臺上ニ排列シ其他書籍物品ハ定則ノ如ク裝置シ舍監ノ檢査ニ備フヘシ但時宜ニ依リ校長ノ檢査ヲ受クルコトナシ

第百二十一條 武裝檢査ハ校長ノ定ムル期日ニ之ヲ行フ生徒ハ武裝執銃シ演習場ニ整列シ校長ノ檢査ニ備フヘシ但室内ノ掃除及ヒ物品ノ整理ハ細密檢査ニ異ルコトナシ

第百二十二條 細密武裝ノ兩檢査ニ於テ校長或ハ舍監ヨリ生徒ヲ指名シ手銃ノ分解等ヲ檢査シ其

部分ノ名稱ヲ試問スルコトアルトキハ順序ニ從ヒ分解シテ検査ニ供スヘシ
第二百二十三條 前條検査ニ當リ頭髮ヲ梳理シ且被服裝具ヲ清潔ニシテ綻裂ナキ様注意シ又該検査
ヲ受ケサルニ先ダチ組長什長伍長ハ其部下ノ下検査ヲナスヘシ

第十四章 室内掃除ノ定則

第二百二十四條 自習室寢室ハ各室毎ニ生徒輪番ニ當直ヲ設ケ毎朝人員検査後清潔ニ掃除スヘシ
第二百二十五條 自習室寢室ノ清潔ト否トハ専ラ當直者ノ責タルヘシ
第二百二十六條 舍監ニ於テ自習室寢室ヲ巡視シ不潔ト認ムルトキハ當直者ヲシテ更ニ掃除セシム
ルコトアルヘシ

第二百二十七條 自習室寢室ノ當直者ハ二名以上ヲ設ケ日々交代スヘシ

第二百二十八條 毎土曜日終業後生徒總員ニテ自習室寢室ノ大掃除ヲナシ銃架窓硝子棚等能ク淨拭
スヘシ

第二百二十九條 組長什長伍長ハ自習室寢室ノ當直ヲナサハルモノト雖モ當直ヲ指揮シテ清潔ニ掃
除セシムルノ任ヲ負フヘシ故ニ各室ノ不潔不整頓ハ其責ヲ免カル、ヲ得ス

第二百三十條 階上階下ノ廊下ハ總テ校夫ヲシテ掃除セシムルモノトス

第十五章 銃器彈藥取締ノ定則

第二百三十一條 銃器彈藥ハ兵式操練ノ外使用スルヲ許サス

第二百三十二條 銃器及其屬具ノ管守掃除ハ各自ノ責任タルヘシ

第二百三十三條 銃器ハ日々怠ラス手入ヲナシ背囊屬具ト共ニ制定ノ場處ニ掛ケ置クヘシ其鐵具ニ
係ルモノハ錆蝕セサル様油ヲ以テ之ヲ拭ヒ後チ布巾ニテ油氣ヲ拭ヒ去ルヘシ其銅具ニ係ルモノ
ハ油ヲ用ユヘカラス

第二百三十四條 發火セシ所ノ銃器先込ナラハ蓋ヨリ外ヲ取り水ニテ洗淨スヘシ

第二百三十五條 屬具ヲ使用スルトキハ能ク注意シテ破損紛失等ナカラシムヘシ

第二百三十六條 彈藥ハ發火演習又ハ射的演習ノ際其數量ヲ定メテ之ヲ交付シ演習終ル後主任者之
ヲ検査ス

第二百三十七條 冬夏期休業ノ際ハ銃器及屬具ハ其主任者之ヲ検査シテ納收ス

第二百三十八條 銃器ノ貸與及ヒ返納等ノ手續ハ貸與規則ニ據ル

第十六章 組長職務章程

第二百三十九條 組長ハ校内一般ノ定則ヲ遵奉シ己レ先ツ部下ノ模範トナリ什長伍長ヲ指揮シテ不
規則ノ行爲ヲキ様注意スヘシ故ニ部下ノ不行届アルトキハ其責ヲ受クルモノトス

第二百四十條 什長伍長ノ勤務ヲ監視シ兼テ部下生徒ノ各室ヲ巡察シ其行狀ヲ監視スヘシ且備付諸
物品ノ保存ニ注意シ什長ニ指揮シテ常ニ手入等ヲナサシメ定規ニ違ハサル様裝置シオカシムヘ
シ

第二百四十一條 部下生徒ノ備付諸物品等破損紛失ヲ伍長ヨリ什長ヲ經テ申立ルトキハ綿密ニ其所
以テ糾シ什長ニ指揮シテ其破損ニ屬スルモノハ修理申立簿ニ筆録セシメ紛失ニ屬スルモノハ其
旨ヲ書面ニ認メサセ點檢シテ之ヲ舍監ニ出スヘシ

第二百四十二條 部下生徒ノ衛生上ニ注意シ身體衣服ヲ清潔ニセシメ病患ヲ醸ス等ノコトナカラシ
ムヘシ其他生徒ノ爲メニ有益ト認ムルモノアラハ速カニ舍監ニ申告スヘシ

第二百四十三條 一己ノ存意ヲ以テ部下ノ生徒ヲ罰スルノ權ナシト雖モ之ヲ舍監ニ申告シ或ハ不行
届ノコトアルハ之ヲ教戒スヘシ他部下ノ生徒ト雖モ不行届ト認ムルモノハ之ヲ其所屬組長ニ通
報スヘシ

第二百四十四條 一己ノ存意ヲ以テ部下ノ生徒ヲ罰スルノ權ナシト雖モ之ヲ舍監ニ申告シ或ハ不行
届ノコトアルハ之ヲ教戒スヘシ他部下ノ生徒ト雖モ不行届ト認ムルモノハ之ヲ其所屬組長ニ通
報スヘシ

第四百四十四條 晨夕人員檢査ニハ之ニ臨ミ什長伍長ヲシテ部下ノ生徒ヲ點檢セシメ病氣又ハ不在

シ者アレハ什長ヲシテ之ヲ週番組長ニ通報セシム但什長病氣又ハ不在ノ時ハ伍長ヲ以テ之ニ代フ

第四百四十五條 部下生徒ノ人員異動賞罰等ノ條件ハ其旨由顛末ヲ明記シ置クヘシ

第四百四十六條 部下生徒ノ願訴等其手續ヲ經テ申立ルトキハ其事由ヲ糺シ之ヲ舍監ニ申告スヘシ

又犯則者アルトキハ其顛末ヲ訊問シテ事實ヲ舍監ニ具申スヘシ

第四百四十七條 清潔細密武裝ノ檢査ニハ部下ノ下檢査ヲナシ週番組長ニ通知スヘシ

第十七章 什長職務章程

第四百四十八條 什長ハ校内一般ノ定則ヲ遵奉シ命令示達ヲ伍長ニ傳達シ且己レ部下ノ模範トナリ

部下ヲシテ不規則ノ行為ナキ様注意スヘシ故ニ部下ノ不行届ハ其責ヲ受クルモノトス

第四百四十九條 伍長ノ勤務ヲ監視シ兼テ部下生徒ノ各室ヲ日々巡視シテ備付諸物品ノ保存及ヒ室

内ノ掃除等ニ注意シ伍長ニ指揮シテ手入清潔方ニ怠ラサシムヘシ

第四百五十條 部下生徒ノ備付諸物品等破損紛失ヲ伍長ヨリ申出ルトキハ其事由ヲ糺シテ之ヲ組長

ニ申告シ指揮ニ從フヘシ

第四百五十一條 什長ハ左ノ帳簿ヲ保管スヘシ

修理申立簿

修理申立簿ハ被服雜具ト武器トハ記載スヘキ場處ヲ區別シ備付品ニ非ル分團中ノ破損品ハ伍長

ニ移シテ筆記セシメ點檢シテ之ヲ組長ニ出スヘシ

第四百五十二條 晨夕人員檢査ニハ之ニ臨ミ伍長ヨリ部下生徒ノ病氣又ハ不在者ヲ申出ル時ハ之ヲ

組長ニ申告シテ指揮ヲ受クヘシ

第四百五十三條 部下生徒ノ願訴等伍長ヨリ申立ルトキハ其事由ヲ糺シ之ヲ組長ニ出スヘシ又犯則

者アルトキハ其顛末ヲ訊問シテ事實ヲ組長ニ具申スヘシ

第四百五十四條 清潔細密武裝ノ檢査ニハ部下ノ下檢査ヲナシ組長ニ申告スヘシ

第十八章 伍長職務章程

第四百五十五條 伍長ハ校内一般ノ定則ヲ遵奉シ上官ノ命令示達ハ逐一之ヲ部下ニ傳達シ且己レ部

下ノ模範トナリ先之ヲ行ヒ然ル後部下ヲ督正シ職權ヲ失ハサル様注意スヘシ

第四百五十六條 伍長ハ部下學友ノ行狀ヲ觀察シ備付諸物品ノ保存及ヒ室内掃除等ニ注意シ部下ヲ

シテ手入清潔方ニ怠ラシムヘカラス

第四百五十七條 部下學友ノ備付諸物品破損紛失ヲ學友ヨリ申出ルトキハ其事由ヲ糺シテ之ヲ書面

ニ認メ什長ニ出スヘシ但破損品ハ現品ヲ添フヘシ

第四百五十八條 晨夕人員檢査ニハ部下ノ生徒ヲ點檢シ什長ノ來檢ヲ待ツヘシ若シ病氣又ハ不在者

アルトキハ之ヲ什長ニ申告スヘシ

第四百五十九條 病氣又ハ不在者ノ書籍武器被服等ノ諸物品ハ其學友ヲシテ保護手入ヲナサシ

ム

第四百六十條 部下生徒ノ願訴等アレハ其事由ヲ糺シ受理スヘキモノハ直ニ什長ニ出シ其受理スヘ

カラサルモノハ懇篤ニ戒諭ヲ加フヘシ若シ犯則者アルトキハ直ニ什長ニ申告スヘシ

第四百六十一條 清潔細密武裝ノ檢査ニハ部下ノ檢査ヲナシ什長ニ申告スヘシ

第十九章 週番ノ定則

第四百六十二條 週番ハ組長一名什長二名伍長二名トス其勤務ハ一週日トシ土曜日夕食後ニ始マリ

次週土曜日ニ終ルモノトス但時宜ニ由リ日直トナスコトアリ

第四百六十三條 週番ノ順序ハ學生團ノ番號ニ從ヒ首位ノ者ヨリ之ヲ始ム若事故アリテ其勤務ヲナ

シ能ハサルトキハ次位ノ者之ヲ務ムヘシ但舍監ノ指揮ヲ受クヘシ

第百六十四條 週番中ハ外出ヲ許サス若シ已ムテ得サル事故アリテ外出ヲ要スルトキハ代務ヲ依頼シ其事由ヲ舍監ニ願出許可ヲ得ルニアラサレハ門外スヘカラス

第百六十五條 週番室ハ寄宿舎内ニ設置シ事務ヲ執ラシム他室ニ於テスルヲ禁ス

第二十章 週番組長ノ勤務定則

第百六十六條 週番組長ハ舍監ノ命ヲ受テ週番什長伍長ヲ指揮シ舎内ノ靜謐及規律ヲ保テ命令ヲ傳達シ之カ施行ノコトニ關シテハ組長以下ヲ督責スルノ權ヲ有スルモノトス

第百六十七條 週番組長ハ週番ノ什長伍長ヲ指揮シテ各室諸物品ノ整理ヲ監視シ又諸物品ノ配與ヲ掌ルモノトス

第百六十八條 晨夕人員檢査ノ號音アレハ生徒ニ號令シテ各自番號ヲ唱ヒシメ人員ヲ檢査シ若シ欠員者アリテ各部組長ヨリ通告スルトキハ其姓名ヲ什長ニ筆記セシメ點檢シテ之ヲ舍監ニ届出ヘシ

第百六十九條 生徒疾病ニ罹リ醫師ノ診斷ヲ乞フモノアレハ其容態ヲ聞糺シ相違ナキニ於テハ其旨ヲ舍監ニ申告スヘシ

第百七十條 週番組長ハ左ノ帳簿ヲ保管スヘシ

一 通知簿

二 診察簿

三 學生團人名簿

通知簿ハ時々ノ命令及組長什長伍長ノ勤務割ヲ通知スルモノニシテ命令ト勤務割トハ其場處ヲ區別シ逐次明了ニ記載シ週番伍長ニ付シテ通知セシムヘシ

診察簿ハ伍長ヨリ罹病者ノ診察ヲ受クヘキ人名ヲ申告スルトキハ自ラ之ヲ筆記シ舍監ニ出スヘシ

學生團人名簿ハ生徒ノ増減出入等其都度調査シ晨夕人員檢査ノ時之ヲ攜帶シテ實員ト照合スヘシ

第百七十一條 諸檢査ノ時ハ各小分團ノ用意整理セシテ各組長ヨリ通知シ終レハ一巡シテ後舍監ニ申告スヘシ

第百七十二條 諸檢査ノトキ及諸官巡視ノトキハ隨行シ質問アラハ具サニ答辨スヘシ

第百七十三條 罰科ニ處セラレタル者アルトキハ週番ノ什長伍長ニ指揮シテ之カ取扱ヲナサシム

又罰科ノ終リタル當日週番什長ヨリ其旨申告スレハ之ヲ舍監ニ報スヘシ

第二十一章 週番什長ノ勤務定則

第百七十四條 週番什長ハ週番組長ノ命ヲ受テ週番伍長ヲ指揮シテ舎内ノ靜謐及規律ヲ保テ命令ヲ傳達シ之カ施行ノコトニ關シテハ什長以下ヲ督責スルノ權ヲ有スルモノトス

第百七十五條 週番什長ハ週番組長ノ命ヲ受テ週番伍長ヲ指揮シテ各室諸物品ノ整理ヲ監視シ又諸物品ノ配與ヲ掌ルモノトス

第百七十六條 晨夕人員檢査ノトキ各部組長ヨリ欠員ヲ通告スレハ週番組長ノ命ヲ受テ之ヲ筆記スヘシ

第百七十七條 諸檢査ノトキ各組長ヨリ用意整理セシテ通知シ來レハ一巡シテ週番組長ニ申告スヘシ

第百七十八條 罰科ニ處セラレタル者アルトキハ週番組長ノ命ヲ受テ週番伍長ヲ指揮シテ之ヲ取扱ハシムヘシ又罰科ノ終リタル當日週番伍長ノ申告ニ從ヒ其旨ヲ週番組長ニ報スヘシ

第二十二章 週番伍長ノ勤務定則

第十四類 學校

二六六五

第百七十九條 週番伍長ハ週番組長什長ノ命ヲ受ケ舍内ノ靜謐及規律ヲ保チ命令ヲ傳達シ之カ施行ノコトニ關シテハ伍長以下ヲ督正スルノ權ヲ有スルモノトス

第百八十條 週番伍長ハ週番組長什長ノ命ヲ受ケ各室諸物品ノ整理ヲ監視シ又諸物品ノ配與ヲ掌ルモノトス

第百八十一條 毎土曜日修理申立ノ諸物品ヲ生徒ヨリ取纏メ週番組長什長ノ指揮ニ從ヒ舍監ニ出スヘシ

第百八十二條 諸檢査ノトキ各組長ヨリ用意整理セシテ通知シ來レハ週番什長ニ隨ヒ巡視スヘシ

第百八十三條 罰科ニ處セラレタル者アルトキハ週番組長什長ノ命ヲ受ケ之カ取扱ヲナスヘシ又罰科終リタル當日ニハ其旨週番什長ニ報スヘシ

第二十三章 給與

第百八十四條 生徒ニ給與スヘキ學資ハ食物被服日用品修理浴湯一週間手當ノ六種トシ總テ現品ヲ以テ給與ス

第百八十五條 食物ハ一ヶ月ノ費額ヲ定メ賄方ヲシテ請負ヲ爲サシム

第百八十六條 自己ノ疾病父母ノ病氣又ハ止ムヲ得サル事故アリテ歸郷下宿スル者ニハ日割ヲ以不在中ノ食料ヲ給セス

第百八十七條 被服ハ左表ニ據リテ之ヲ給與ス

品目	給與年月												計			
	第一	第一	第一	第一	第二	第二	第二	第三	第三	第三	第四	第四				
冬衣袴	滿	一	年	一	年	一	年	一	年	一	年	一	年	一	年	五

夏衣袴	滿	一	年	二	年	二	年	二	年	二	年	二	年	二	年	五
冬下袴	滿	一	年	二	年	二	年	二	年	二	年	二	年	二	年	五
夏下袴	滿	一	年	二	年	二	年	二	年	二	年	二	年	二	年	五
冬觀衣	滿	一	年	二	年	二	年	二	年	二	年	二	年	二	年	五
夏觀衣	滿	一	年	二	年	二	年	二	年	二	年	二	年	二	年	五
外套并 頭巾	滿	四	年	一	年	一	年	一	年	一	年	一	年	一	年	一
帽子	滿	二	年	一	年	一	年	一	年	一	年	一	年	一	年	二
同日覆	滿	二	年	一	年	一	年	一	年	一	年	一	年	一	年	二
短靴	滿	一	年	一	年	一	年	一	年	一	年	一	年	一	年	八
脚絆	滿	一	年	一	年	一	年	一	年	一	年	一	年	一	年	八
靴下	滿	半	ヶ月	四	一〇	一四	一〇	一四	一〇	一四	一〇	一四	一〇	一四	一〇	九六

第百八十八條 被服ノ保存期限ヲ終リタルモノハ其都度之ヲ返納スヘシ若シ保存期限内ニ損傷シ更ニ交付ヲ要スルトキハ其費用ハ本人ヨリ辨償セシム

第百八十九條 卒業者ニハ被服等一通リ之ヲ本人ニ附與シ返納セシメスト雖モ退學又ハ放校ヲ命スル時ハ悉皆返納セシム

第九十條 日用品ハ左ノ種目ニ據リ之ヲ給與ス但消耗ノ度ヲ計リ實際之ヲ増減スルヲアルヘシ

眞書筆	一ヶ月ニ付キ二本
水筆	二本
八寸中折紙	七帖
蓄學用紙	四枚
全鉛筆	一本
常用鉛筆	二本
ペン先キ	二個
野入洋紙	拾二枚
インキ	一瓶
墨	一挺
ペン軸	一本
薪炭油	

第九十一條 修理ハ被服ノ洗濯及靴器具等ノ拂拭ニシテ汚損ノ度ニ由リテ之ヲ爲サシム
第九十二條 一週間手當ハ毎土曜日ニ於テ在學生徒一人ニ付金拾錢ヲ給ス但シ冬夏期休業中ハ土曜日ニ應ジ本文ノ金額ヲ前給ス

第二十四章 貸與定則

第九十三條 教科用書籍器具及机腰掛履具等ハ本校所藏品ニ就キ之ヲ貸與ス
第九十四條 書籍器具等ノ貸與ヲ乞フモノハ其品目個數及ヒ姓名ヲ記載シタル借用證ヲ主任者ニ出シ指揮ヲ受クヘシ

第九十五條 前條ニ據リ其物品ヲ借用シ得タル者ハ番號ヲ記入シ捺印スヘシ
第九十六條 貸與ノ物品ハ丁寧ニ取扱ヒ點汚毀損紛失スル等ノコトアルヘカラス又私ニ貸借スルヲ許サス

第九十七條 貸與ノ物品ヲ紛失毀損スル等ノコトアルトキハ直ニ其旨ヲ主任者ニ届出指揮ヲ受クヘシ但事情ニ依リ修理或ハ賠償セシム又其現品ヲ得カキ時ハ相當ノ代金ヲ納メシム

第九十八條 貸與ノ物品ヲ返納セントスル時ハ其當初差出シタル借用證ト交換納附スヘシ
第九十九條 夏期休業ノ外連續闕席ニヶ月ニ至ルモノハ貸與ノ物品ヲ返納スヘシ

第二十五章 罰則

第一百條 生徒ノ校則及訓誡ニ違ハサルモノハ之ヲ罰科ニ處ス

第一百一條 罰科ヲ分チテ譴責禁足放校ノ三種トス譴責ハ學校長之ヲ説諭譴責ス禁足ハ校外ニ出ルヲ禁シ放校ハ學校ヨリ放逐ス

第一百二條 左ノ項ニ該當スル者ハ之ヲ譴責ニ止ム
一 過誤失錯ニ出ツル犯則者

第一百三條 左ノ項ニ該當スル者ハ二日以上二週間以下ノ禁足ニ處ス
第一項 室内ニ於テ輕躁懶惰ノ所業アル者

第二項 室内ニ於テ規定外ノ物品或ハ飲食物ヲ取扱フ者

第三項 校給品及私物ノ別ナク常ニ手入整頓ニ怠ル者

第四項 校給品ヲ私ニ貸借スル者

第五項 金錢ノ貸借及猥リニ金談スル者

第六項 無届ニテ欠課スル者

品定狀

富山縣尋常師範學校卒業生

何 某

右ハ在學中ノ學業及ヒ操行ヲ審按シ學力優等(尋常)人物優等(尋常)ト品定ス

年號月日

富山縣尋常師範學校幹事 何 某某印
富山縣尋常師範學校教頭 何 某某印
此品定ヲ適當ナルモノト認認ス 富山縣尋常師範學校長 何 某某印

第千二十七

明治十九年十二月二十三日

縣令第三十三號

文部省令第十號尋常師範學校生徒募集規則第十條及第十二條ニ據リ郡長ニ於テ薦舉スヘキ生徒ノ員數及其方法ヲ定ムルト左ノ如シ

尋常師範學校薦舉生徒員數及其方法

第一條 本縣尋常師範學校生徒定員中郡長ニ於テ薦舉スヘキ生徒ノ員數左表ノ如シ

郡名	男	女	計
上新川郡	十六人	十人	二十六人
婦負郡	六人	四人	十人

郡名	男	女	計
下新川郡	九人	七人	十六人
射水郡	十三人	九人	二十二人
礪波郡	十六人	十人	二十六人
合計	六十八人	四十八人	百人

第二條 郡長ノ薦舉スヘキ生徒ノ年齡ハ十七年以上二十七年以下トス但女子ニ限リ十六年以上

第三條 郡長ハ尋常師範學校生徒募集廣告ニ據リ其郡當リ募集人員ヲ薦舉シ當人ハ薦舉書文部省令

第四條 被薦舉人ハ募集廣告日限内ニ於テ願書ヲ認メ其郡役所ヲ經テ尋常師範學校ヘ願出ヘシ

第五條 尋常師範學校ニ於テハ薦舉生徒ノ入學ヲ許可シタルトキハ其人名ヲ郡役所ヘ通知スヘシ

第千二十八 明治十九年十二月二十三日

縣令第三十四號

文部省令第十一號師範學校卒業生服務規則第六條ニ據リ細則ヲ定ムルコト左ノ如シ

尋常師範學校卒業生服務細則

第一條 本縣尋常師範學校卒業生モノニシテ服務ノ義務ヲ盡ス能ハサル事故アリテ當廳ノ指揮ヲ

請フモノハ第一號書式ニ據リ願出ヘシ

第二條 本縣尋常師範學校卒業生モノニシテ服務ノ義務ヲ終リタルモノハ第二號書式ニ據リ願出ヘシ

第三條 本縣尋常師範學校卒業生モノニシテ改姓名或ハ轉居シタルモノハ其都度願出ヘシ

第十四類 學校

二六七三

第四條 書式ヲ定ムルコト左ノ如シ
第一號書式

教職服務免除願

某儀何年何月何日本縣尋常師範學校ニ於テ卒業證書受領(何年何月何日ヨリ何郡何小學校ニ奉職
罷在) 何年何月何日マテ向何年何ヶ月間教職ニ從事可致處別紙縣立何病院診斷書ノ通何疾病ニ罹
リ(何々ノ事故ニ依リ)奉職致シ兼候間(來ル何年何月マテ何年何ヶ月間)服務御免除被成下度尤モ
期限内病氣平癒(事故止ミ)候節ハ直ニ御届致スヘク此段相願候也

年月日

族籍住所

姓 名 印

知事宛

前書ノ事實相違無之候依テ與書候也

年月日

何郡何町(村)外何ヶ町(村)

戶長 姓 名 印

第二號書式

教職服務終了届

某儀何年何月何日本縣尋常師範學校ニ於テ卒業證書受領本年何月何日マテ都合十ヶ年間教職ニ從
事シ服務ノ義務ヲ終ヘ候條別紙履歷書相添ヘ此段御届ニ及候也

年月日

族籍住所

姓 名 印

知事宛

履歷書式

履歷書

住所

族籍戶主誰長男女弟妹等

姓 名 印

一生所何府縣何國何
郡區何町村

一何年何月何日本縣尋常師範學校へ入學(何郡)何年何月何日卒業證書受領

生年月日

一何年何月何日何郡何學校何職拜命

一何年何月何日何郡何學校何職へ轉任

一何年何月何日依願免職

一何年何月何日何所ニテ何廉ニ付何賞或ハ何罰ヲ受ク

一何々

年月日

第千二十九 明治二十年五月十一日

達第四百貳拾三號

郡役所

戶長役場

尋常師範學校

小學校

自今本縣尋常師範學校教員ヲシテ小學校ヲ巡視セシムル節ハ小學校督業訓導ノ資格ヲ兼帶セシメ候
條小學校職員ニ於テハ左ノ諸項ハ其指示監督ニ服從スヘシ

一授業法及管理法ニ關スル件

一學校風儀ニ關スル件

一學業ノ進否及試業ニ關スル件

一諸表簿ニ關スル件

一圖書器械及校舍ニ關スル件
一學校衛生上ニ關スル件

第一千三十 明治二十年五月二十三日

告示第五十八號

今般泰西幼稚保育ノ方法ニ倣ヒ本縣尋常師範學校構内ニ於テ幼兒保育場ヲ設ケ該場假規則別紙ノ通相定メタリ

富山縣尋常師範學校幼兒保育場假規則

一設置ノ目的

本場ハ釋倫道德ヲ本トシテ幼兒ヲ保育シ家庭教育ヲ裨ケ小學教育ノ基礎ヲナスヲ以テ目的トス
一保育ノ課程

第一條 保育ノ課ハ會集修身ノ話庶物ノ話木積立板排ヘ箸排ヘ銀排ヘ豆細工珠繫キ紙織リ紙摺
ニ紙刺シ縫取リ紙剪リ書キ方數ヘ方讀ミ方書キ方唱歌遊嬉トス
第二條 保育ノ要旨左ノ如シ

本場ハ學齡未滿ノ兒童ヲ保育シ家庭ノ教育ヲ裨ケ學校教育ノ基ヲ成スモノナレバ務メテ天賦
ノ德性ヲ涵養シ固有ノ智能ヲ開導シ身軀ノ健全ヲ補翼センコトヲ主旨トス殊ニ保育ノ法寬嚴
其宜ヲ得テ暴慢ニ流シ怯懦ニ陷ラシメザルコトニ深ク注意シ又諸課ノ開闢ハ敏捷活潑幼兒ヲシ
テ倦マザラシメ務メテ問ヲ設ケ其觀察注意ヲ起シ事物ノ觀念ヲ得セシメ應答ニヨリテ言語ヲ
習ハシメ且自己ノ工夫ニ由テ成シ得ル者ハ唯其端緒ヲ示シ幼兒ノ工夫ヲ促シ自ラ成スノ良習
ヲ得セシム又幼兒ノ室外ニ出テ隨意ニ遊嬉スルハ己ノ意ヲ逞フシ稟性ノ偏倚スル所ヲ現ハ
スモノナレバ此際最モ注意ヲ加ヘ各兒ノ性質ヲ觀察矯正スルヲ要ス

會集 會集ハ毎日幼兒ヲ遊嬉室ニ集メ唱歌ノ復習ヲ爲サシメ且時々行儀等ニ就テ教誡ヲ加フル
者トス

修身ノ話 修身ノ話ハ和漢洋聖賢ノ教ニ基キ卑近ノ說話孝悌忠信ノ道ヲ知ラシメ務メテ善良ノ
氣習ヲ養成セシメテ要ス

庶物ノ話 庶物ノ話ハ專ラ日用什器禽獸草木等幼兒ノ知リ易キ物或ハ標本書圖ヲ示シ之ヲ問答
シ以テ觀察注意ノ力ヲ養ヒ兼テ言語ヲ習ハシメテ要ス

木ノ積立 木ノ積立ハ立方狀長方狀柱狀ノ木片ヲ與ヘテ門家橋等ノ形ヲ積立セシメ或ハ種々
ノ形ヲ排ヘシメ以テ構造ノ力ヲ養ヒ兼テ主トシ兼テ邊ノ角ノ形ノ觀念ヲ得セシム

板排ヘ 板排ヘハ彩色セル薄キ正方形正角形等ノ小板ヲ與ヘテ門家等ノ正面或ハ側面其他種々
ノ形ヲ排ヘシメ以テ美麗ヲ好ムノ心意ヲ養フテ主トシ兼テ角度大小等ノ觀念ヲ得セシム

箸排ヘ 箸排ヘハ大約一寸ヨリ五寸マテノ五種ノ細長ナル箸ヲ與ヘ梯机等ノ輪廓ヲ排ヘシメ以
テ工夫ノ力ヲ養成スルヲ主トシ兼テ長短ノ觀念ヲ得セシム

銀排ヘ 銀排ヘハ鐵或ハ真鍮全銀半銀大小ヲ交ヘ與ヘテ種々ノ形ヲ排ヘシム間々箸ヲ交ヘ與フ
ルコトアリ其目的大畧箸排ヘニ同シ

豆細工 豆細工ハ細ク削リタル竹ト水ニ浸シタル豆トヲ與ヘ豆ヲ以テ竹ヲ接合ハセ常燈籠等ノ
形ヲ造ラシメ以テ摸造ノ力ヲ養フ

珠繫キ 珠繫キハ始メ彩色セル麥稗ノ切レト孔ヲ穿テタル色紙ノ切トヲ交ヘ糸ニテ繫ガシメ終
ニハ南京珠ヲ繫カシメ以テ縫取リニ入ルノ楷梯トス

紙織リ 紙織リハ細ク截リタル色紙ヲ經筋緯筋トシ種々ノ模様ヲ編マシメ以テ配色ノ法ヲ知ラシム
紙摺ミ 紙摺ミハ色紙ヲ與ヘテ鶴蟹三方等ノ形ヲ摺マシメ以テ想像ノ力ヲ養フ

二十一年七月
告示第五十五
號及二十五
年十二月十一
日告示第十
九號正
以改正ス

問保育候事
年月日
番號

富山縣尋常師範學校幼兒保育場

第九條 年中休業日ハ日曜日、孝明天皇祭、紀元節、春季皇靈祭、神武天皇祭、夏季七月二十五日ヨリ、秋季皇靈祭、神嘗祭、天長節、新嘗祭、冬季休業十一月廿五日ヨリトス
一幼兒員數 大約三十人

第一千三十一 明治二十年七月五日

告示第六十六號

告示第六十一號ヲ以テ尋常師範學校内ニ於テ唱歌并ニ裁縫專修科授業開設ノ義告示候處該科規則左ノ通相定ム

唱歌裁縫專修科規則

- 第一條 本科ハ女子ニシテ唱歌裁縫兩科ノ小學校教員ヲラント欲スル者ヲ養成スルヲ主トシ本縣尋常師範學校内ニ之ヲ設ク
- 第二條 學科ハ之ヲ四級ニ分チ每級修學ノ年限ハ六ヶ月トシ滿二ケ年ヲ以完了スルモノトス但品正學業熟達ノモノハ指定ノ年限ニ拘ハラズ拔擢スルコトアルヘシ
- 第三條 生徒ノ定員ハ三十名トス但時宜ニヨリ増減スルコトアルヘシ
- 第四條 入學期ハ豫メ一定ノ年月ヲ置カス募集ヲ要スルトキハ其都度之ヲ廣告ス
- 第五條 本科ヲ修メント欲スル者ハ左ノ諸件ヲ具フルヲ要ス但官公私立ノ學校ヘ入學ヲ禁止セラルタル者ハ入學ヲ許サス

品行 端正ニシテ小學校ノ教員タルヲ得ヘキ者

學力 入學試験ニ合格スル者

年齡 十五年以上二十五年以下ノ者

身體 強健ニシテ在學中家事ニ係累ナキ者

第六條 入學志願ノ者ハ募集廣告ニ從ヒ郡役所ヲ經テ左式ノ願書正副二通ニ履歷書ヲ添ヘ差出ス

(入學願書式)

入 學 願

某(志願者)儀小學校唱歌并裁縫科教員志願ニ付御校ヘ入學仕度依テ別紙履歷書相添此段親戚連署相願候也

年月日

富山縣越中國何郡何町村何番地居住誰方同居
富山縣士族平民誰女妹等
入學志願者 姓 名 印

本月初何何ヶ月

富山縣越中國何郡何町村何番地居住
富山縣士族平民戶主
父兄或ハ
親戚 姓 名 印

富山縣尋常師範學校校長誰殿

右何某儀小學校教員品行檢定法ニ觸ル、廉無之候依テ與書候也

年月日

履歷書

富山縣越中國何郡何町村
戸長 姓 名

富山縣越中國何郡何町村何番地居住誰方同居
富山縣士族平民戸主誰女妹等
生所何町何郡何區 姓 名

本年何年何月

一何年何月ヨリ何年何月マテ何所何學校ニ於テ何科修業
一何年何月何所何學校ニ於テ何科卒業證書ヲ受領ス

卒業證書ノ寫

何々

一何年何月ヨリ何年何月マテ何所何誰ニ就キ何學修業
一何年何月ヨリ何年何月マテ何職ニ從事ス
一何年何月何所ニ於テ何廉ニ付何賞ヲ受ケ或ハ何罰ヲ受ク
一何々

年月日

第七條 入學試業ニ合格スルモノハ其初メ試驗生トシテ一少月假入學セシメ其資性品行等ヲ審察シ適當ト認ムルモノニ限り本入學ヲ許スヘシ

第八條 入學許可ノ命ヲ得タル者ハ其當日ヨリ一週間以内ニ左式ノ誓約書ヲ認メ保證人同道本校

(誓約書式)

へ持參スヘシ但保證人ハ本縣在籍ノ戸主ニシテ一家計ヲ立ル者ニ限ル若シ本校長ニ於テテ十分ト認ムルトキハ之ヲ易ヘシムルコトアルヘシ

某(入學者)儀小學校唱歌并裁縫科教員志願ニ依リ入學御許可相成候ニ就テハ御校則及ヒ達示ノ旨堅ク遵守可致候若シ御校則ニ悖戻シ退學命セラレ候カ或テ願ニ依リ退學候カ又ハ卒業後奉職義務年限内ニ於テ他途ニ就ク時ハ在學中ノ授業科一時ニ償還可致候右相誓候也

年月日

富山縣越中國何郡何町村何番地居住誰方同居
富山縣士族平民戸主誰女妹等 姓 名

前書ノ趣相違無之拙者保證人ニ相立本人身上ヨリ相起リ候事件ハ一切引請可申且償還金相滞候節ハ拙者ヨリ速ニ辨償可致候也

富山縣越中國何郡何町村何番地居住
富山縣士族平民戸主 姓 名

富山縣尋常師範學校校長誰殿

保證人 姓 名

右保證人何某儀ハ前書保証ノ責ニ任シ得ルモノト見認メ候依テ與書候也

富山縣越中國何郡何町村

第九條 學年ハ三月一日ニ始マリ翌年二月二十八日(閏年ハ)ニ終ル之ヲ分チテ兩學期トス即チ前學期ハ三月一日ニ始リ七月十五日ニ終リ後學期ハ九月十日ニ始リ翌年二月二十八日(閏年ハ)ニ終ル

第十條 授業時間及年中休業日ハ尋常師範學校規則ニ據ル

第十一條 學科課程左ノ如シ

學科	級	每週時數	名稱	上全	級	上全	級	上全
唱	歌	六	音樂上ノ名稱 記號等 單音唱 單音唱及輪 絃法	上全	第三級	上全	第二級	上全
裁	縫	六	裁縫具ノ用法 各種衣服裁縫 等ノ實業	上全	第一級	上全	第一級	上全
合	計	二		上全		上全		上全

第十二條 入學試業ハ左ノ程度ニ據リ之ヲ試驗ス

讀書 容易キ假名交リ文

算術 算數數字及容易キ加減法

唱歌 音聲ヲ發セシム

裁縫 運針

第十三條 定期試業ハ每學期ノ末ニ之ヲ施行シ其學級ニ於テ履修セシ全體ヲ試驗ス

第十四條 試業評點計算法ハ都テ尋常師範學校試業法ニ據ル

第十五條 生徒ノ坐次ハ定期試業ノ成績ニ據リ之ヲ定ム其卒業ノ期ニ當ルモノハ二ケ年間ノ定期試業評點平均數ニ據ル

第十六條 本科卒業ノモノニハ左式ノ證書ヲ授與ス

(卒業證書式)

卒業證書

族籍

姓

名

年 齡

校印

唱歌裁縫專修科卒業候事

年號月日

番號

富山縣尋常師範學校長何某

第十七條 卒業證書ヲ毀損若クハ紛失シタルトキハ事由ヲ詳記シ其所轄戶長ノ與印ヲ得テ書換又ハ再與テ本校ヘ願出ヘシ

第十八條 病氣其他事故アリテ數々遅刻欠課スルコト多ク到底成業ノ目途ナシト認ムルモノ又六ケ月以上連續欠課スル者ハ退學セシム

第十九條 本校ヨリ退學ヲ命スル者或ハ不得止事故アリ願ニ依リ退學スル者及卒業後教職ノ義務ヲ盡サ、ルモノハ在學中ノ授業料トシテ一ケ月金五拾錢宛テ一時ニ納メシム但學業進マサルノ故ヲ亡ノ者ハ此限ニアラス

第二十條 本科ヲ卒業シタル者ハ在學ト等シキ年月本縣内小學教員ノ職ニ從事スルノ義務ヲ有スルモノトス但本文年限ハ卒業證書ヲ受得ノ日ヨリ起算ス

第二十一條 教職義務年限中縣知事ノ命ニヨラスシテ他途ニ就クコト得ス

第二十二條 教職義務年限中不得止事故アリテ縣知事ノ許可ヲ經他途ニ就ク者ハ尙剩ル年月ニ該ル授業料ヲ一時ニ辨償セシム

第二十三條 本科ノ生徒心得方ハ尋常師範學校規則生徒心得中適合セサルモノ、外一切遵守スヘシ

第千三十二 明治二十年八月三日

訓令第百二十號

尋常師範學校

今般勅令第三十號ヲ以テ師範學校令第四條へ但書追加ノ義發令相成ニ付テハ取扱方左ノ通心得ヘシ

一 附屬小學校授業料ハ該校經費へ差繼拂ヲ以テ支出シ殘餘アルキハ翌年度へ繰越スヘシ

一 授業料ノ受拂帳ヲ設置シ及收支決算帳内譯證明等ノ手續ハ地方費出納規則ニ準據取扱ヘシ

一 一紙請求證書金額中師範學校費ト授業料トノ支出相跨分ハ其證書ヲ師範學校費へ編入シ一方ハ其

セシ代紙ヲ以テ
補填シ置クヘシ表紙合計金額ニ内譯ヲ附記スヘシ

第千三十三 明治二十年十二月廿六日

達第千五十八號

尋常師範學校

尋常中學校

其校兵式體操科用銃器并火藥取締方法別紙之通相定ム

(別紙)

尋常師範學校銃器及火藥取締方法

第一條 兵式體操科用銃器及火藥ハ正科用ノ外之ヲ使用セシムヘカラス

第二條 銃器ハ男子部生徒毎一人ニ一挺ヲ貸附シ該器保管ノ責ヲ負ハシメ舍監之ヲ監視スルモノトス

第三條 常ニ銃器ヲ陳列スルハ男子部寄宿舎各生徒ノ寢室トス

第四條 失火其他非常ノ節ハ生徒ハ舍監ノ指揮ヲ受ケ銃器ヲ保護シ嚴ニ紛亂ノ憂ヲ防クヘシ

第五條 火藥ハ使用セントスル都度所轄警察署ノ允許ヲ受テ買入レ演習地ニ携帶發火シ常ニ校内ニ備置クヘカラス

尋常中學校銃器及火藥取締方法

第一條 兵式體操科用銃器及火藥ハ正科用ノ外之ヲ使用セシムヘカラス

第二條 銃器ハ常ニ倉庫中ニ裝置シ使用レハ直ニ倉庫ニ容ルベシ

第三條 火藥ハ使用セントスル都度所轄警察署ノ允許ヲ受テ買入レ演習地ニ携帶發火シ常ニ校内ニ備置クヘカラス

第千三十四 明治二十一年四月七日

訓令第六十一號

郡 役 所 戶 長 役 場

本縣尋常師範學校生徒修學上ノ裨益ヲ企圖シ且監督上中絶ノ憂ヲ除ク爲メ今般該校規則第五十八條改正候ニ就テハ自今該校生徒修學中ハ容易歸郷ヲ許可セサル等ニ付同校規則第五十七條ニ依リ父母病氣又ハ忌辰ノ爲メ下宿若クハ歸郷ヲ願出ルモノ、證明書ハ戶長ニ於テ事故ノ當否ヲ查察シ事實正確ト認ムル上之ヲ付與スル操一層注意取扱フヘシ

第千三十五 明治二十一年四月七日

尋常師範學校

訓令第六十二號

今般縣令第五十四號ヲ以テ其校規則第七章第五十八條改正候ニ就テハ自今冬季休業中ハ修學旅行ヲ施行シ或ハ便宜學科温習ノ方法ヲ設クル等生徒ヲシテ徒然歸郷ノ念ヲ惹起セシメサル様取計フヘシ

第千三十六 明治二十一年五月三日

達第百三十三號

尋常師範學校

其校處務規程及服務心得左ノ通り相定ム但附屬小學校ニ係ル事務ハ小學校
關係ノ諸規則ニ準據取扱フヘシ

處 務 規 程

尋常師範學校ニ屬スル事務ヲ分テ上下ニ款トシ上款ハ校長其意見ヲ具シ裁可ヲ經テ之ヲ施行シ下

款ハ之ヲ專行スルヲ得但下款第一項乃至第六項ハ處分ニ先タク開申スヘシ

上 款

一卒業生徒へ證書ヲ交付スル事

但附屬小學校生徒ヲ除ク

一生徒募集ニ關スル事

但同上

一發火演習ニ關スル事

一生徒放校ニ關スル事

一放校生徒再入學ニ關スル事

一經費科目流用ニ關スル事

一校舍新築及模様替修繕ニ關スル事

一經費豫算外ニ生スル事件ニ關スル事

一以上各項ノ外下款ニ明文ナキ事件

下 款

一職員ニ出張ヲ命スル事

但教頭ノ出張ヲ除ク

一生徒入退學ニ關スル事

一修學旅行ニ關スル事

但發火演習ヲ除ク

一生徒歸休ニ關スル事

一授業始終時限ヲ定ムル事

一入學試業及學年試業ヲ舉行スル事

一學期試業ヲ舉行スル事

一生徒ノ歸郷下宿ニ關スル事

一學生團ニ關スル事

一服裝定則ニ依リ特許ヲ與フル事

一罰則ニ觸レタル生徒ヲ處分スル事

但放校處分ヲ除ク

一職員ニ除服ヲ命スル事

但教頭ノ除服ヲ除ク

一備員及小使ヲ進退スル事

一校舍ヲ修繕スル事

一圖書器具ヲ購入シ又ハ修理スル事

一定額ノ經費ヲ收入支出スル事

一授業料及其他雜收入ヲ出納スル事

一校務ニ付本縣部課署郡役所戸長役場并ニ學校病院等へ文書往復ノ事

服 務 心 得

一職員ハ始業時限前出校シ授業時限ヲ過キテ退校スヘシ尤モ授業時限外ト雖モ臨時校務ニ從事スルハ勿論トス

一職員日々出校スレハ先ツ出勤簿へ捺印シ然ル後其主務ニ從事スヘシ若シ病氣事故ノ爲メ出勤

シ又ハ始業時限迄ニ出勤シ能ハサルトキハ書面ヲ以テ其事故ヲ校長ヘ届出ヘシ但事故アリテ始業時限ニ過キ出勤シタルトキハ退室ノ旨

出勤簿ニ登録スヘシ

一職員出勤簿ハ毎翌月五日迄ニ校長ヨリ進達スヘシ

一授業時限外及休日ハ職員校長教頭舎監ハ毎ニ寄宿舎中ニ留置シ舎内ノ取締ヲナスコト勿論トス中一名宛交番宿直シ外來ノ受付校内警戒ノ事ヲ掌ルヘシ但

一職員派出巡廻等ノ節ハ日誌ヲ記シ歸校ノ時復命書ニ付シ校長ヘ差出スヘシ

一書籍器械公文類ハ毎日退校ノ時必筐中ニ收メ置キ非常ノ備ヲナシ散逸ナカラシムヘシ

一校内ハ勿論近傍ニ失火アルカ又ハ非常ノ事變ニ際シテハ職員一同參校シ防禦警戒スヘシ

一職員疾病ノ爲メ闕勤一週日ニ及フトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ校長ヲ經テ届出ヘシ

一職員身上ニ係ル願何届等ハ校長ヲ經テ進達スヘシ

一免職轉任等ノ節ハ取扱中ノ文書及處分未派ノ事件等ハ詳細演述書ヲ作り後任者ヘ引渡ヲナシ後任者ト連署校長ハ縣廳ヘ其他ハ校長ヘ届出ヘシ

第千三十七 明治二十一年九月十八日

訓令第百五十五號

其校職員ノ儀ハ殊ニ容儀ヲ正シ威重ヲ保ツコト職務上必要ニ付自今學校長教員幹事舎監ハ職務上一定ノ服ヲ着用セシムヘキ旨其筋ヨリ訓令ノ次第モ有之候ニ付其服制ハ職員會議ノ議定ヲ經テ上申スヘシ但本文改正一時ニ行届キ難キモノハ來ル明治二十一年六月迄猶舊スヘキニ付實施期限モ併テ上申スヘシ

第千三十八 明治二十一年九月二十日

達第百六十六號

自今郡長ノ薦舉ニ係ル生徒ニ本入學ヲ許サントスルトキ及ヒ本入學ヲ許シタル後之ヲ退學セシメ

第千三十九 明治二十一年十月十三日

訓令第百六十三號

自今郡長ノ薦舉ニ係ル尋常師範學校生徒ハ郡長ニ於テ預メ其人物學力ヲ檢定シ薦舉書ヲ付與スヘキ儀ニ相定候ニ付テハ該薦舉學生徒ハ入學試験ヲ須ヒス直ニ明治十九年五月文部省令第十號第五條ニ據リ假入學ヲ許シ試験生中ニ其人物學力ヲ檢定シ本入學ヲ許否スヘシ

第千四十 明治二十一年十月十三日

訓令第百六十四號

自今郡長ノ薦舉ニ係ル尋常師範學校生徒ハ入學試験ヲ須ヒス直ニ假入學ヲ許可スヘキ儀ニ相定候ニ付テハ明治十九年五月縣令第三十三號尋常師範學校生徒薦舉方法第二條ニ據リ郡長ニ於テ薦舉書ヲ付與セントスルトキハ預メ篤ト其人物學力ヲ檢定シ適當ト認ムルモノニ限り之ヲ付與スヘシ

第千四十一 明治二十一年十二月四日

訓令第百六十六號

其校生徒修學旅行ノ節其職員ニ旅費ヲ支給スルヲ要スルキハ自今生徒ノ旅費ニ均シキ金額ヲ支給スヘシ

第千四十二 明治二十二年一月二十八日

訓令第 十八 號

其校生徒授業料收入手續別紙之通相定ム

授業料收入手續

第一條 授業料ハ毎月五日尋常中學校出張爲替方ニ差出シ上納切符ヲ爲替方ヨリ受取り之ヲ書記

第十四類 學校

二六九一

尋常中學校

郡 役 所

尋常師範學校

尋常中學校

ニ差出スヘシ

第二條 定日後ニ授業料ヲ納ムル生徒ハ爲替方(第十二國立銀行)ニ就キ上納切符ト引換ヘ之ヲ書記ニ差出スヘシ現金ヲ以テ納付スルヲ許サス

第三條 書記ハ上納切符ニ捺印ノ上領收證ヲ納付者ニ交付シ爲替方ヘ預ケ入レノ手續ヲナスヘシ但定日以後ニ納メタル授業料ハ一時保管ノ爲メ校長并主任書記印ノ上宿直ニ預ケ置キ臨時爲替方ヲ召喚シ預ケ入レノ手續ヲナスヘシ

第四條 既納ノ授業料ハ上納書ヲ添付シ既納未納者等員數ハ左ノ書式ニヨリ翌月五日限リ縣廳ヘ届出ツヘシ

(書式)
明治何年何月分生徒授業料納附員數
一 生徒現員何名

内 何名 既納 未納

一 延期納附者何名
右之通ニ有之候也

明治 年 月 日

富山縣知事宛

尋常中學校長

第五條 生徒授業料ヲ息納スルコトニケ月ニ及フトキハ一時出校ヲ止メ其納附スルヲ待チ受業ニ就カシムヘシ

第千四十三 明治二十二年三月二十五日

訓令第八十五號

縣立學校

本年三月訓令第八十三號ヲ以テ文具支給規則相定候ニ付テハ其校記録及記簿專務定員各一名トス

第千四十四 明治二十二年三月二十一日

訓令第七十二號
高等小學校及尋常小學校教員ノ内手工科修學方ノ志望ヲ有スルモノ凡二十五名ヲ召集シ來ル五月十五日ヨリ向六十日間其校ニ於テ小學校手工科教員講習致サセ候ニ付教授方等諸事不指支様取計フヘシ

富山縣尋常師範學校

第千四十五 明治十七年六月三十日

甲 第六十九號

今般本縣廳下富山ヘ中學校ヲ設置シ富山縣中學校ト稱シ來ル明治十八年一月開校ス但校舍ノ位置并ニ進テ報告スヘシ

右布達候事

第千四十六 明治十七年九月十五日

甲 第七十七號

今般中學校師範學校教員免許規程左之通相定候旨文部省ヨリ達相成候條志願之者ハ每年十一月三十日限願書當廳ヘ差出スヘシ

中學校師範學校教員免許規程

第一條 中學校師範學校ノ教員ヲラント欲スル者ニハ品行學力等檢定ノ上文部省ヨリ免許狀ヲ授與スルモノトス

十八年甲第八十五號ヲ以テ改正ス

第二條 學力ハ左ノ一學科若クハ數學科ニ就テ檢定スルモノトス但該學科ノ授業法ヲモ併セテ檢定スルモノトス
 修身、和文、漢文、英語、佛語、獨語、算術、代數、幾何、三角法、代數幾何、重學、測量、天文、生理、動物、植物、金石、地質、物理、化學、地理、歷史、經濟、本邦法令、心理、論理、教育學、習字、圖書、記簿、唱歌、體操、農業、工業、商業、

第三條 學力ノ檢定ハ試驗ニ依ルモノトス但左ノ項ニ該當スル者ハ本文ノ例ニアラス
 一 碩學ニシテ著徳アリ修身科教授ノ任ニ適スル者
 一 多年教員ノ職ニ從事シ其學科教授ノ任ニ適スル者
 一 某學位記若クハ某學科ノ卒業證書ヲ有シ其教授ノ任ニ適スル者
 一 農業工業商業其他ノ學術ニ長シ其教授ノ任ニ適スル者

同上

同上ニテ第五條ヲ刪リ第六條以下採上ク

第四條 免許狀ヲ有スル者ハ中學校師範學校ニ於テ該免許狀ニ記載シタル學科ノ教員タルコトヲ得

第五條 免許狀ヲ受領セント欲スル者アルトキハ府知事縣令ニ於テ毎年十二月限り其願書履歷書ヲ取纏メ品行等ヲ審査シ意見ヲ付シテ文部卿ニ具申スヘシ

第六條 學力ノ試驗ハ試驗委員ヲシテ毎年三月東京ニ於テ執行セシムルモノトス但時宜ニ依リ他ノ地トアルハシ

第七條 免許狀ヲ有スル者品行不正ノ證據アルトキハ其免許狀ヲ沒收スルモノトス但府知事縣令ニ於テ本文ノ處分ヲ要スル者アリト認ムルハ文部卿ニ具申スヘシ

(免許狀書式)

免許狀

何府縣族籍

姓

名

省 印

何年何箇月

右ハ品行學力等檢定ノ上(中學校師範學校)(中學校)(師範學校)何學科ノ教員タルコトヲ免許スル者也

明治何年何月何日

文 部 省

番 號

第千四十七 明治十七年十一月十二日

甲 第百二十五號

本年甲第百七號ヲ以テ布達候中學校師範學校教員免許規程第五條ノ願書并ニ履歷書中ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

右布達候事

願書中ニ記載スヘキ事項

十八年十二月
甲第八十五號
ヲ以テ改正ス

同上

- 一 檢定ヲ受ケント欲スル學科
- 一 中學校若クハ師範學校ノ教員タラント欲スル志望
- 一 族籍、姓名、年齡等
- 一 履歷書中ニ記載スヘキ事項
- 一 學位記卒業證書、免許狀等ノ寫
- 一 修學ノ年月、場所、學科及其程度、師名、書名等
- 一 官仕、職業
- 一 賞、罰

第千四十八 明治十八年六月三十日

丙第三百九十一號

其校步兵操練科用トシテ別記ノ通銃器四十五挺并ニ附屬品トモ貸渡候條別紙銃器取扱要項ノ通可
相心得此旨相違候事

中 學 校

(別記)

- 一 エンヒール銃(操練用) 三十五挺
- 一 砲兵エンヒール銃(中學少年生用) 八挺
- 一 スナイドル銃(裝填法教授用) 二挺
- 合計四十五挺但願願負率トモ各四十五個附屬

(別紙略ス)

第千四十九 明治十九年十二月二十三日

縣令第三十八號

本縣中學校ヲ富山縣尋常中學校ト改稱シ該校規則左ノ通相定ム

富山尋常中學校規則

第一章 總則

第一條 本校ハ實用ノ業務ニ就クモノ又ハ高等ノ學校ニ入ント欲スル者ノ爲メニ須要ナル教育ヲナス所トス

第二條 修業年限ヲ五ヶ年トシ級ヲ五等ニ分チ每級ノ授業期限ヲ一ヶ年トス

第三條 學年ハ九月一日ニ始リ翌年七月十五日ニ終ル

第四條 一學年中休業日左ノ如シ

秋季皇靈祭

秋分日

神嘗祭

十月十七日

天長節

十一月三日

新嘗祭

十一月廿三日

冬期休業

十二月廿五日ヨリ翌年一月七日マテ

孝明天皇祭

一月卅日

紀元節

二月十一日

春季皇靈祭

春分日

神武天皇祭

四月三日

夏期休業

七月十六日ヨリ八月卅一日マテ

第五條 學科ハ倫理國語漢文英語獨語地理歷史數學博物物理化學習字圖書唱歌及ヒ體操トス其課

第五條

學科ハ倫理國語漢文英語獨語地理歷史數學博物物理化學習字圖書唱歌及ヒ體操トス其課

第十四類 學校

程左表ノ如シ但唱歌ハ當分コレヲ缺ク

倫理	一	數時授教週每	第五級年第一
國語及漢文	五	講讀 漢字交リ文 書取 漢字交リ文 及書版文 作文 漢字交リ文 及書版文	
英語	八	讀方及譯解 文書取會話及綴	
獨語			
地理	一	日本地理概略	
歷史	一	日本歷史	
倫理	一	數時授教週每	第四級年第二
國語及漢文	五	講讀 漢字交リ文 及漢文 書取 前級ニ全シ 前級ニ全シ 作文 前級ニ全シ	
英語	八	讀方及譯解 文書取會話及綴	
獨語			
地理	二	亞細亞及歐羅巴ノ地理	
歷史	一	万国歷史	
倫理	一	數時授教週每	第三級年第三
國語及漢文	五	講讀 前級ニ全シ 前級ニ全シ 作文 前級ニ全シ	
英語	七	講讀 會話 法會話作文及文	
獨語			
地理	二	亞米利加澳斯太利加ノ地理 亞非利加ノ地理 支那歷史	
歷史	二	支那歷史	
倫理	一	數時授教週每	第二級年第四
國語及漢文	三	講讀 前級ニ全シ 前級ニ全シ 作文 漢字交リ文	
英語	五	講讀 會話 翻譯 讀方及釋解 文書取會話及綴	
獨語	四	讀方及釋解 文書取會話及綴	
地理	一	日本ノ地理及政治地理	
歷史	一	日本歷史	
倫理	一	數時授教週每	第一級年第五
國語及漢文	二	講讀 漢文 作文 前級ニ全シ	
英語	五	講讀 會話 翻譯 讀方及釋解 文書取會話及綴	
獨語	三	讀方及釋解 文書取會話及綴	
地理			
歷史	二	万国歷史	

數學	四	算術 幾何初步	
博物	一	博物示教	
物理	一	物理及化學示教	
化學	一	無機化學	
習字	二	楷書 行書	
圖畫	二	自在書法 用器書法	
唱歌			
體操	三	普通體操	
計	二八		
數學	四	算術ノ復習 幾何	
博物	二	生理及衛生	
物理	二	無機化學	
化學	二	無機化學	
習字	一	草書	
圖畫	二	自在書法 用器書法	
唱歌			
體操	三	普通體操	
計	二八		
數學	四	幾何	
博物	三	動物 植物	
物理	三	力學 物質論 熱學 音響學 光學 磁學 電學 化學	
化學	三	無機化學	
習字	二	自在書法 用器書法	
圖畫	二	自在書法 用器書法	
唱歌			
體操	五	兵式體操	
計	二八		
數學	三	代數 三角法	
博物	三	動物 植物	
物理	三	力學 物質論 熱學 音響學 光學 磁學 電學 化學	
化學	三	無機化學	
習字	二	楷書 行書	
圖畫	二	自在書法 用器書法	
唱歌			
體操	五	兵式體操	
計	二八		

第三章 入學及退學規則

第六條 入學期限ハ每學年ノ始メ即九月ニ於テ其募集ノ生員及ヒ期日ハ其都度廣告スヘシ但時依リ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ

第七條 本校ニ入學セント欲スルモノハ品行方正身軀健康滿十二年以上ニシテ中學豫備ノ小學若クハ其他ノ學校ニ於テ本校ノ學科課程ヲ修ムルニ堪フヘキ學力ヲ得タルモノニ限ルヘシ但一ヶ年內ニ徵兵

ニ當ル者及ビ官立公立其他私立學校へ入學ヲ禁止セラルタル者ハ一切入學ヲ許サス

第八條 入學志望者ハ都テ郡役所ヲ經テ第一號書式ノ願書正副二通ニ第二號書式ノ履歷書ヲ添ヘ差出スヘシ

第九條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ第三號書式ノ證書ヲ差出スヘシ 但証人ノ内一名父兄若クハ親族他ノ一名ハ當山市内在籍ノ月主ニシテ其責任ニ堪フル者ニ限ルヘシ

第十條 都合ニ依リ保證人ヲ變更スルカ或ハ保證人轉居改印等ノ事故アル時ハ速ニ其旨届出テ在學證書等ヲ更製シ前ノ證書ト引換ナナスヘシ

第四章 試業規則

第十一條 試業ヲ分チテ入學試業臨時試業學級試業ノ三種トス

第十二條 入學試業ハ入學ノ際ニ施行シ入學ノ許可ヲ判スルモノトス 但小學高等科及ヒ中學種備小學立寄常中學校ニ於テ一ヶ年以上ノ課程ヲ卒業シタルモノハ學力ノ試業ヲ要セス直ニ入學ヲ許スコトアルヘシ

第十三條 入學試業ハ先ツ品行身年齡ノ檢定ヲ遂ケ而シテ左ノ科目程度ニ據リ學力ヲ試驗スルモノトス

- 一 國語 漢字交リ文 解義
- 一 作文 公私用文 書取
- 一 算術 四則應用 分數 單比例
- 一 地理 日本地理ノ大要
- 一 圖畫 自在畫

第十四條 臨時試業ハ一學年中ニ豫メ六回ト定メ生徒學業ノ熟否ヲ察シ及ヒ坐次ヲ進退スルモノトス

第十五條 學級試業ハ學年ノ終ニ於テ之ヲ施行シ及落ヲ判シ學級ヲ定ルモノトス

第十六條 試業ノ評點ハ各學科一百ヲ以テ定點トス 但國語及ヒ漢文ノ試業取作文英語編語ノ隨方翻譯書取會話讀作文及ヒ英語ノ文法翻譯算術幾何代數三角法ハ各一學科トナシテ評點ヲ定ム

第十七條 倫理科ハ該學科評點ト百位率ニ改算シタル品行點トノ和ヲ二分シ其評點ヲ定ムル者トス

第十八條 入學試業ノ評點ヲ計查スルニハ各學科ノ評點ヲ合算シ學科目ノ數ヲ以テ之ヲ除シ平均點六十以上ヲ及第トス 但平均點六十以上ナルモノ一科三十點以下者クハ二科以上四十點以下ノモノハ及第スルヲ得ズ

第十九條 平常點ハ日課授業ノ際ニ探點シ臨時試業ニ於テ之ヲ平均スルモノトス

第二十條 臨時試業評點ハ各學科ノ得點ヲ合算シ其學科ノ數ヲ以テ除シ得タル現數ヲ該試業ノ平均點トス

第二十一條 臨時試業ニ際シ欠席シタルモノハ其學年中臨時試業ニ得タル各學科ノ評點ヲ平均シタル數ノ五分ノ三ヲ與フヘシ

第二十二條 學級試業ニ於テハ各學科ノ現時試業得點ニ一學年内ノ臨時試業各學科ノ評點ヲ平均シタルモノヲ合シ之ヲ折半シテ現學科ノ評點トス

第二十三條 學級試業ニ於テ各學科ノ評點四十以上平均六十以上ヲ得タルモノヲ及第トス

第二十四條 學業放群ノ生徒ニシテ或ハ事故アリテ學級試業ニ欠席シ又ハ學級試業ニ落第セシモ後日温習已ニ熱シタル生徒ハ學校長ノ見込ニ依リ臨時ニ試業ヲ施行シ學級ヲ進ムルコトアル可シ

第二十五條 第一年第二年第三年第四年ノ學級試業ニ及第セシ生徒ニハ第四號書式ノ證書ヲ與ヘ又

第五年ノ學級試業ニ及第シタルモノニハ第五號書式ノ證書ヲ授與スヘシ

第四十九條 前納ノ金額未タ盡キサル前ニ退學又ハ退舍スルハ其餘剩ノ金額ヲ返附スヘシ
第五十條 日用品ハ事務局ニ於テ一纏メニ購求シ置キ一定ノ時期ニ於テ之ヲ渡スヘシ
第五十一條 舍生ハ小遣ノ外私ニ金錢ヲ所有スルヲ許サス

第九章 罰則

第五十二條 凡生徒規則ニ違背スル者ハ之ヲ罰ス

第五十三條 過誤失錯ニ出ツル犯則者ハ之ヲ説諭譴責ス

第五十四條 怠惰粗暴放肆ニ出ツル犯則者ハ三日以上五週間以内校門外ニ出ツルコトヲ禁シ通學生ハ三日以上五週間以内毎日放課後二時間教室ニ於テ自修セシム情狀ニヨリ寫字ヲ併セ命スルヲアルヘシ

第五十五條 校物ヲ亡失毀損スルカ又ハ汚染スル者アルハ或ハ其現品ヲ償還セシメテ且之ヲ罰シ或ハ現品代價ノ償還ニ止メ或ハ之ヲ罰スルニ止ム

第五十六條 校命ニ悖ル者又ハ數回罰セラレテ悔悟ノ徵ナキ者及ヒ放縱ニシテ風儀ヲ紊亂スル者ノ如キ學校ノ風教ヲ害スルコト甚キ者ハ退學ヲ命ス且不和合ノ所爲アリテ退學ヲ命シタル者ハ其情狀ニ依リ文部省ヘ具申シ官立公立及ヒ私立ノ學校ヘ入學ヲ禁止セラル、トアルヘシ
但既ニ官立公立及ヒ私立ノ學校ヘ入學ヲ禁止セラレタル者ト雖モ既ニ該校ニ在リテ退學ナル者特ニ解禁ヲ命セラル、トアルヘシ

第一號書式

入學願

今般御校ヘ入學致度依テ學業履歷書相添此段親戚連署相願候也

住所族籍

誰儀

年月日

誰子弟或ハ戶主

何 某印

何年何月

住所族籍

何 某印

右何某父兄或ハ親戚

何 某印

校長 宛

前書之通願出候ニ付與印候也

戶長(入學志願人住所ノ)

何 某印

年月日

第一號書式

履歷書

學業

一何年何月何學校ニ入り何某ニ就キ何學科何年間修業何等級卒業用書何々等
但卒業證書ヲ有スル者ハ其寫ヲ添フヘシ

職業

一父兄若クハ本人何業ヲ營ミ何職ニ就ク等

賞罰

一何年何月何所ニ於テ何事ニ就キ賞ヲ受ケ若クハ罰ヲ被ル等
右私履歷如ニ御坐候也

住所族籍

年月日

第三號書式

證書

證券印紙ヲ貼用スヘシ

今般入學御許可相成候ニ付テハ御校則及ヒ御達示ノ旨堅ク遵守可致ハ勿論猥リニ退學轉學等致問
敷候依テ證書如此候也

誰儀

年月日

住所族籍
誰子弟或ハ戶主

何

某印
何年何月

前書何某在學中一切ノ事件ハ拙者引受可申候也

住所族籍

證人

何

某印

住所族籍

證人

何

某印

向後轉居改印等致候節ハ速ニ御届書可差出候也

校長 宛

右證人何某當町内ニ於テ一家計ヲ立ツル者ニ相違無之候也

富山縣上新川郡富山何町

戶長

何

某印

第四號書式

證

校印

族籍 何

某
何年何月

尋常中學校
第一
第二
第三
第四
年
修業候事

年號月日

割印

番號

富山縣尋常中學校長何某印

第五號書式

證

學力優等(尋常)
人物優等(尋常)
校印

族籍 何

某
年 齡

二十九年九月
令第十號
以改正ス

尋常中學校卒業候事

年號月日

富山縣尋常中學校長何某印

番號

第六號書式

入舍願

私儀入舍仕度候ニ付御許可被下度此段願上候也

年月日

何年級生

何

某印

何年何月

校長宛

第七號書式

入舍證書

(料紙美濃紙ニ
証券印紙貼用)

私儀今般入舍御許可相成候ニ付テハ殊ニ品行ヲ慎ミ御舍則堅ク可相守候此段相誓候也

年月日

住所族籍

誰子弟或ハ戸主

何

某印

校長宛

前文何某在舍中金員ノ辨償ハ勿論一切ノ事件私負擔可仕候方一退舍又ハ下宿被命候節ハ私ニ於テ速ニ引取可申候乃證書如此候也

住所族籍(戸主ナラサレハ)

證人 何

某印

何年何月

同 證人 何

某印

何年何月

向後轉居改印等致候節ハ速ニ御届書可差出候也

第一千五百 明治二十一年十一月廿七日

訓令第二百九號

尋常中學校

其校英語學教員トシテ亞米利加合衆國人クラレンス、ラットロウ、ブラウチル、ヲ別紙條約案ヲ以テ備入ノ儀其筋ノ允許ヲ得タルニ付本月一日ヲ以テ英文條約書ヲ取換ハスヘシ

條約

日本富山縣尋常中學校長代理幹事小林常道ト亞米利加合衆國人「クラレンス、ラッドロウ、ブラウチル」ト取結フ所ノ條約左ノ如シ

第一條 富山縣尋常中學校英語學教員トシテ「ブラウチル」ヲ備入ル、ノ期限ハ明治二十一年十一月(一千八百八十八年十一月)ヨリ同二十二年三月三十一日(一千八百八十九年三月三十一日)マテト定ム但滿期ニ至リ尙此約定ヲ繼續セントスルハ一ヶ

第二條 約定期限中「ブラウチル」ハ本校ノ諸規則授業時間等總テ富山縣尋常中學校長若クハ其代理者ノ指示ヲ遵守スヘシ

第三條 「ブラウチル」ハ本校成規ノ休業日ノ外一週二十四時間以内本校長若クハ其代理者ノ指揮スル處ニ從ヒ教授スヘキモノトス但作文添削及試験答按取調ニ要スル時間ハ此外トス

第四條 「ブラウチル」ノ給料ハ一月月日本紙幣金一百圓ト定メ毎月末日ニ「ブラウチル」ニ渡スヘシ但借入ノ月ハ本條約ニ記載ノ日附ヨリ起算シ日割ヲ以テ支給ス

第五條 毎月定額ノ給料及授業用筆墨紙ノ外ハ學校ヨリ給與セサル者トス故ニ家屋食料什器奴僕等「ブラウチル」自己ニ關スル一切ノ費用ハ總テ自辨タルヘシ

第六條 「ブラウチル」學校ニ關スル事件ニ付建議ノ件アレハ本校長若クハ其代理者ニ申告スヘシ而シテ其決定ハ本校長若クハ其代理者ノ權内トス

第七條 「ブラウチル」疾病ニ罹リ其職ヲ執ルコト能ハサルコト二十日ヲ過クルキハ第二十一日以後ハ廢業ノ日數ニ應シテ給料ヲ支給セス六十日ヲ經テ猶疾癒ヘサルキハ解雇シ給料ヲ支給セス

第八條 「ブラウチル」欠勤セントスルキハ其事由ヲ詳記シタル書面ヲ以テ届出スヘシ又疾病ニ罹リ三日以上出勤スル能ハサルキハ必ス其届書ニ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ若シ此手續ヲ爲サルキハ「ブラウチル」ノ懶惰ト見做シ第九條ニ依リ解雇スヘシ

第九條 「ブラウチル」若シ其職ニ堪ヘサルカ或ハ學校所定ノ諸規則ニ背クカ或ハ懶惰ナルカ或ハ品行不正ナルコトアルキハ本校長若クハ其代理者ハ直ニ此約ヲ解クコトヲ得此場合ニ於テハ解雇ノ日ヨリ給料ヲ渡サ、ルヘシ但急症ノ病死或ハ變故等アルキハ直ニ近傍ノ領事ニ引渡シ其日ヨリ解雇止メ給料ヲ渡サ、ルヘシ

第十條 雇期限中學校ノ都合ニヨリテ臨時解雇スルキハ其月殘日ニ該ル給料ト其翌月ノ給料全額トヲ支給スヘシ若シ又「ブラウチル」ヨリ解雇ヲ望ムキハ其解雇翌日ヨリ給料ヲ渡サ、ルヘシ

第十一條 「ブラウチル」東京發程前東京富山間旅費トシテ日本紙幣金四拾圓相渡スヘシ但滿期解雇ノ事故アリテ此條約ヲ解クモ隨程旅費ヲ支給セス

第十二條 「ブラウチル」ハ定約期限内商業ニ關係スヘカラス

右條々遵守スヘキ證トシテ雙方記名調印シ各一通宛所持スルモノナリ

明治二十一年十一月 日(一千八百八十八年十一月 日)

日本富山縣尋常中學校長代理

幹事 小林 常 道

亞米利加合衆國人

クラレンス、ラッドロウ、ブラウチル

履 歷 書

亞米利加合衆國コンチチカット州ハートフォード府

ローレル街二十番地

クラレンス、ラッドロウ、ブラウチル

西歷一千八百六十四年亞米利加合衆國コンチチカット州ハートフォード府ニ生レ一千八百七十九年クラムマー、スクール、ヲ卒業シ一千八百八十二年コンチチカット州スタムフォード兵學校ヲ卒業シ其翌年ニニュー、ヨーク府私立學舎ニ於テ修學シ其後ニュー、ジャージー州ホボテン、ノ、スチーブンス、インスチテュートニ於テ科學文學ヲ學ヒ次テハーバート、コーレツヂニ於テ撰科英文科ヲ修メタリ日本ニ渡來シタルハ二年前ナリ

西歷一千八百八十八年十一月

第一千五百一十一 明治二十二年三月二十五日

告示第二十二號

今般第四高等中學校ニ於テ生徒募集スルニ付入學志願者ハ履歷書及試業費(本科ハ金五拾錢豫科及豫科補充生ハ金三拾錢)和添來ル五月二十日マテニ直チニ該校ヘ願出スヘシ入學試業ハ來ル六月十五日ヨリ施行ス試業課目及程度ハ該校若クハ本縣學務課尋常中學校及郡役所ニ就キ承合ハスヘシ但本縣内ニ在留ノ者ハ望ニ依リ本縣ヘ試業方依托セラレハキニ付其旨願書ヘ附記シ且豫メ本縣學務課ヘ申出置クヘシ

○教育

第千五十二 明治十六年十一月九日

乙 第百四十號

今般其筋違ノ趣モ有之候條爾今町村立學校生徒中不都合ノ行爲アリテ退學ヲ要スルトキハ其情狀ヲ具シ可伺出此旨相達候事

第千五十三 明治十七年二月二十二日

乙 第六十號

學齡未滿ノ幼兒ヲ學校ニ入レ學齡兒童ト同一ノ教育ヲ受ケシムルハ其害不尠候條右幼兒ハ幼稚園ノ方法ニ因リ保育候様其筋ヨリ違ノ趣有之候條此旨相達候事 但學校内ニ別ニ一場ヲ設ケルカ又ハ民屋等ヲ代用シテ便宜幼稚園ノ方法ニ模準シ教育上有益ノ玩具ニ依リ學齡未滿ノ幼兒ヲ保育スルハ最モ有益ノ事ニ付右等開設致度向ハ本年甲第十一號布達ニ照準シ設置方法開申スヘシ

第千五十四 明治十七年三月一日

丙 第百十二號

今般別紙之通乙第六十號ヲ以テ學齡未滿兒童ヲシテ學齡兒童ト同一ノ教育ヲ受ケシムヘカラサル旨相達候條爲心得此旨相達候事

(別紙略ス)

富山師範學校 富山女子師範學校

郡役所 戶長役場 學務委員

第千五十五 明治十七年十二月十八日

丙 第六百六十八號

尋倫道德ハ教育ノ主本ニ有之處方今學科多端其本末ヲ謬ルモノ鮮カラス年少就學ニ於テ宜シク忠孝ヲ本トシ仁義ヲ先ニスヘキノ

各郡役所

聖旨ヲ以テ儒臣ニ命シ幼學綱要編纂在セラレ

今回宮内省ヨリ頒賜相成則チ小學校ヘ相渡候ニ就テハ郡役所ヘモ右書冊一部下付候條學務科ニ備置教育ニ從事スルモノハ篤ク 御主意ヲ奉體服膺シ其職ヲ盡スヘク様可取計此旨相達候事

第千五十六 明治十七年十二月十八日

丙 第六百六十七號

郡役所

尋倫道德ハ教育ノ主本ニ有之處方今學科多端其本末ヲ謬ル者鮮カラス年少就學ニ於テ宜シク忠孝ヲ本トシ仁義ヲ先ニスヘキノ

聖旨ヲ以テ儒臣ニ命シ幼學綱要編纂在セラレ

今回宮内省ヨリ頒賜相成候ニ付其郡小學校ヘ宛テ右書冊何部回附候條 御主意ヲ奉體服膺シテ自今修身ノ主旨ハ則チ該綱要ニ取リ以テ兒童ヲ教養シ且特ニ保存ノ方法ヲ設ケ鄭重ニ可取扱旨懇篤訓諭ヲ加ヘ夫々可相渡此旨相達候事

第千五十七 明治十八年五月二十二日

乙 第百十一號

郡役所 戶長役場 學務委員事務所 師範學校 町村立小學校 町村立小學校教員集會規程別冊ノ通相定メ來ル七月一日ヨリ實施ス此旨相達候事 但右ニ關スル從來ノ達指令等ハ自今廢止ス

(別冊)

町村立小學校教員集會規程

- 第一條 此規程ハ小學校教員ヲシテ專ラ教科用圖書器械ニ關スル事項及教授方法學校管理法ヲ講究セシメンガ爲メニ設クルモノトス
- 第二條 教員集會ノ區域ハ明治十七年甲第四十二號布達第七條小學校試驗區域ヲ以テ之ニ充ツ
- 第三條 會員ハ區域内ノ小學校長訓導準訓導并授業生トス
- 第四條 會場ハ郡長ニ於テ區域内小學校ニ就キ諸般ノ儲設最モ整備スルモノヲ以テ之ニ充テ縣廳ニ開申スヘシ
- 第五條 集會ハ隔月一回ト定メ其始終ハ小學校授業ノ時限ニ同シ但期日ハ會員協議ノ上取極郡役所ヲ經テ縣廳ニ開申スヘシ
- 第六條 會場ヲ整理シ記録ヲ整頓センカ爲メニ會員互撰シテ左ノ職員ヲ設ケ郡役所ヲ經テ縣廳ニ開申スヘシ但職員ノ任期ハ一ケ年トシ滿期又ハ欠員ノ時ハ互ニ本文ノ手續ヲナスヘシ
- 會頭 一名 書記 二名
- 第七條 會頭ハ縣廳ヨリ諸證書ヲ交附スヘシ
- 第八條 第六條ノ職員不參ノ時ハ更ニ同條ノ手續ヲ以テ當日限假ニ其職員ヲ撰舉スヘシ
- 第九條 會頭ハ次會ニ於テ講究實議スヘキ事項ヲ撰定シ會員ニ報告スヘシ但本文ノ事項ハ實費ニシテ實用ニ適切ナルモノハ限ル
- 第十條 縣廳若クハ郡役所ハ本會ハ臨時問題ヲ下附シ講究セシムルコトアルヘシ但會頭ハ會員ノ意見ヲ詳細ニ之ヲ具申スヘシ
- 第十一條 講究實議ノ方法ハ其体裁ヲ平易ニシテ可成の會員ヲシテ其思想ヲ吐露セシムヘシ其手續概テ左ノ如シ
- 第一項 圖書器械等ハ前會定ムル處ノ問題ニ就キ抽籤ヲ以テ講者ヲ定メ會員順次其疑義ヲ質シ尙明瞭ナラサルモノハ之ヲ全員ニ謀ルハシ
- 第二項 教授方法ハ前會ニ於テ定ムル處ノ學科ニ就キ會員中ヨリ抽籤ヲ以テ一名ヲ舉ケ假ニ該

學科教授ノ教員ニ充テ他ハ都テ生徒ニ模擬シ實地該授業ヲ試ミ是非得失ヲ講究實議スヘシ

- 第十二條 本會ニ於テ若シ意見數端ニ別レ或ハ疑義決シ難キモノ、如キハ縣廳等ヨリ下附ノ間詳細書面ニ認メ會頭ノ名ヲ以テ本縣師範學校ヘ稟議スヘシ但教授方法其他事項ノ消極的難ナルモノハ會頭若クハ會員直ニ師範學校ヘ出頭シ親シク講究研究スヘシ
- 第十三條 會員ニシテ疾病事故等ニヨリ欠席スルモノハ學務委員ノ捺印ヲ受テ開會時限前會頭ニ届出ツヘシ
- 第十四條 本會ニ於テ講究實議セシ事項ハ之ヲ詳記シ出會員ノ名簿并ニ不參屆書共會頭ヨリ閉會後七日以内ニ郡役所ヲ經テ縣廳ニ申報スヘシ
- 第十五條 本會監督ノ爲メ學務課員并學務主任郡書記臨時出張スルコトアルヘシ
- 第十六條 本會開場ノ當日區域内學務委員ハ可成出席スヘシ
- 第十七條 本會ニ係ル一切ノ費用ハ其區域小學校經費ノ内ヲ以テ支辨スヘシ
- 第千五十八 明治十九年一月二十日
- 乙 第六 號
- 郡 役 所 戶 長 役 場 町 村 立 小 學 校
- 小學職員ニシテ甲小學校ヨリ乙小學校ヘ轉任之者ハ辭令書拜受ノ上乙校ヘ赴任可致答ニ有之候處往々心得違ノ向モ有之哉ニ相聞ヘ不都合ニ候條爾後決シテ右等不心得無之樣嚴重取締可致爲念此旨相達候事
- 第千五十九 明治十七年一月十五日
- 甲 第六 號
- 今般富山縣教育會規則別冊ノ通改正ス但右ニ關スル從來ノ違指令等ハ自今適用セス
- 右布達候事
- (別冊)

富山縣教育會規則

二十一年十二月十四日
縣令第百二十二號
改正ス

- 第一條 本會ハ管内教育ノ上進ヲ企圖シ諮詢講究ノ爲メ開設スルモノトス
- 第二條 本會々員ハ縣立學校職員三人學務擔任郡書記五人戸長十人小學校教員十人縣會議員五人トシ縣立學校職員郡書記戸長小學校教員ハ知事之ヲ命シ縣會議員ハ該議員中ニ於テ互選シ知事之ヲ命ス但郡書記ハ毎郡一名宛戸長小學校教員ハ毎郡二名宛トス
- 第三條 本會ノ議案ハ縣令之ヲ發ス
- 第四條 本會長ハ縣令之ヲ勤但時宜ニ依リ特ニ代理者ヲ設クルコトアルヘシ
- 第五條 本會ノ議案ハ學務課員ヲシテ其旨趣ヲ説明セシム
- 第六條 本會ノ書記ハ會長之ヲ擇ヒ會場諸般ノ記錄ヲ掌ラシム
- 第七條 本會ニ員外席ヲ設ケ學務課員ヲシテ特ニ意見ヲ陳述セシム但決議ノ數ニ入ルヲ得ス
- 第八條 本會ニ於テ可決シタル事件ヲ實施スルト否トハ縣令ノ意見ニ依ル
- 第九條 本會ハ毎年一回縣令之ヲ開設シ其日限ハ凡一周日以内トス
- 第十條 教育上關係アル職員意見アリテ本會議ニ付セシコト企望スルモノハ開會前之ヲ縣令ニ具申スヘシ
- 第十一條 本會員病氣等ニヨリ出席スル能ハサルキハ開場時限前必ス會長ニ届出ツヘシ
- 第十二條 會場ヲ整理スルハ會長ノ職掌トス故ニ會員タルモノハ何等ノ場合ト雖モ必ス會長ノ指揮ニ從フヘシ
- 第十三條 會員ノ發言ハ人身上ニ付褒貶毀譽ニ涉ルコト禁ス
- 第十四條 會員過半數以上出席セサルトキハ當日開會セサルモノトス
- 第十五條 議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ可否スル處ニヨル

- 第十六條 本會ハ傍聽ヲ許ス但時宜ニ依リ之ヲ禁ムルコトアルヘシ
- 第十七條 議事細則ハ縣令之ヲ規定ス
- 第十八條 本會一切ノ費用ハ地方稅ヲ以テ之ヲ支辨ス
- 第十九條 明治十八年六月三十日
- 甲 第五十一號

留學生費支給規則別紙之通相定ム
右布達候事
(別紙)

留學生費支給規則

- 第一條 本則ハ地方稅留學生費支給ノ方法ヲ定ムルモノトス
 - 第二條 留學生費ヲ支給スル生徒ハ管内ニ本籍ヲ定メ各種學校入學志願ノ者ニシテ其學資ヲ自辨スルコト能ハサル者ニ就キ許否スヘシ
 - 第三條 留學生費ヲ受ケ某學校へ留學志願ノ者ハ所轄郡役所ヲ經テ第一號書式ノ願書ニ第二號書式ノ履歷書ヲ添ヘ出願スヘシ
 - 第四條 前條出願ノ者ハ本縣中學校若クハ師範學校ニ於テ左ノ學科ヲ試驗シ其學力ヲ考查スヘシ但此際既ニ留學志願ノ學校ニ入學シ居ルモノハ此限リニアラス
- 試驗學科
- 和漢文
 - 數學
 - 英語學
 - 書學
 - 物理學
 - 化學
- 右ノ内一二科ヲ缺キ又ハ本人ノ志願ニヨリ他ノ學科ヲ加ヘ試驗スルコトアルヘシ
- 第五條 特種ノ學藝ニ於テ已ニ成終ノ實蹟明確ナルモ更ニ其種ノ優等ナル學校等ニ就キ實地ノ技

第六條 留學志願ノ學校ヨリ入學許可ヲ得タルキハ第三號書式ノ證書ニ入學許可ノ願書寫ヲ添ヘ差出スヘシ

第七條 留學生費ヲ支給スルハ前條ノ證書ヲ差出シタル上タルヘシ

第八條 留學生ニ支給スル金額ハ其留學スル學校ノ等級及ヒ本人ノ學力等ニヨリ差等アルヘシ

第九條 留學費ヲ支給スルハ學校在學中ニ限ル故ニ何等ノ事故ヲ問ハス全月間欠課スル者ハ一切

コレヲ支給セス 但定期休業中ハ此限リニアラス

第十條 留學生往復旅費并ニ入學以前ニ係ル宿泊料等ハ總テ自辨タルヘシ

第十一條 留學生ハ時宜ニヨリ縣令ヨリ同學科ヲ教授スル他ノ學校ヘ轉學ヲ命スルコトアルヘシ

第十二條 留學生ハ縣令ノ許可ヲ經スシテ轉校退校若クハ歸郷スルコトヲ得ス

第十三條 留學生ハ毎學期ノ終リニ於テ其學期中學業ノ進度修業證書ヲ受領シタル者ハ其寫ヲ添テ賞罰ニ係ル事件其他身上ニ係ル要件ハ詳細記載シ其學校ヲ經由シテ縣廳ニ具申スヘシ

第十四條 留學生ハ總テ校內寄宿舎ニ入ラシムルモノトス 但寄宿舎ナキモノハ其止宿ノ箇所ヲ届出スヘシ

第十五條 留學生ニ支給スル金員ハ留學ノ學校ヲ經由シテ月額ヲ以テ本人ニ支給スヘシ

第十六條 留學生ハ金員領收シタルキハ即日第四號書式ニ準シ留學ノ學校ヲ經テ領收證書差出スヘシ

第十七條 留學生費ヲ受ケタル生徒ハ卒業後在學ト等シキ年月間ハ縣令ヨリ命スル所ノ業務ニ服

事スヘシ 但服務ノ事ヲ命セザル場合ニ於テ自己志願ノ業務ニ從事セントスルハ縣令ノ許可ヲ經ヘキモノトス

第十八條 留學生ニシテ自己ノ便宜ニヨリ退學シタル者ハ在學中支給ノ學資ヲ一時ニ償還セシム

第十九條 留學生ニシテ第十六條ノ服務年限中自己ノ欲スル業務ニ從事セントスルキハ尙利ル年

月ニ該ル學資ヲ一時ニ償還セシム

第二十條 前二條ノ留學生ニシテ從來ノ留學生費農業生徒費又ハ給費ヲ受ケ當留學生費ニ繼續シタル者ハ前支給ノ額ヲ併セ償還セシム

第二十一條 留學生ノ保證人ハ管内在籍ノ戸主ニシテ一家計ヲ立ル者ニ限ル

第一號書式 願書

願書

何 誰 儀

何學志願ニ付本縣留學生費支給規則ヲ遵奉シ何地何學校ヘ入學仕度候間御許容被成下度保證人連署此段奉願候也

年號月日

何郡何町村何番地

士族 何某何男或ハ弟

志願人 何

某 ㊦

何郡何町村何番地 士族

保證人 何

某 ㊦

何郡何町村何番地 平民

保證人 何

某 ㊦

右志願人何某ハ一家貧窶ニシテ學費自辨難致者ニ相違無之候也

何郡何町村外何ヶ町村

戸長 何

某 印

縣 令 宛

第一號書式

履 歷 書

一何年何月何學校卒業又ハ第何級迄修業或ハ何誰ニ隨ヒ何年何月ヨリ何月迄何學或ハ何書修業
一自己ノ營ミタル業務ノ事
一賞罰ノ事
右私履歷如此ニ御座候也

年號月日

何郡何町村何番地

士族何某何男或ハ弟
平民何某何男或ハ弟

何 某 印

何年何月

第三號書式

證券印紙貼用スヘシ

證券 證書
印紙

今般本縣留學生費ヲ受ク何地何學校へ留學ノ儀御許容被成下候ニ付テハ留學生支給規則ノ條項一
切違背致間敷候此段盟約候也

何 誰 儀

何郡何町村何番地

士族何某何男或ハ弟
平民何某何男或ハ弟

何 某 印

前書ノ趣相違無之候間私等證人ニ相立テ本人身上ヨリ起リ候事件ハ一切引受可申候也

年號月日

何郡何町村何番地

士族
平民

何 某 印

何郡何町村何番地

士族
平民

何 某 印

保證人 何

某 印

右證人何某ハ一家計ヲ立ツル者ニ相違無之候也

何郡何町村外何ヶ町村

戶長 何

某 印

年號月日

縣 令 宛

第四號書式

一金何程

但明治何年何月分留學生費
右正ニ致領收候也

年號月日

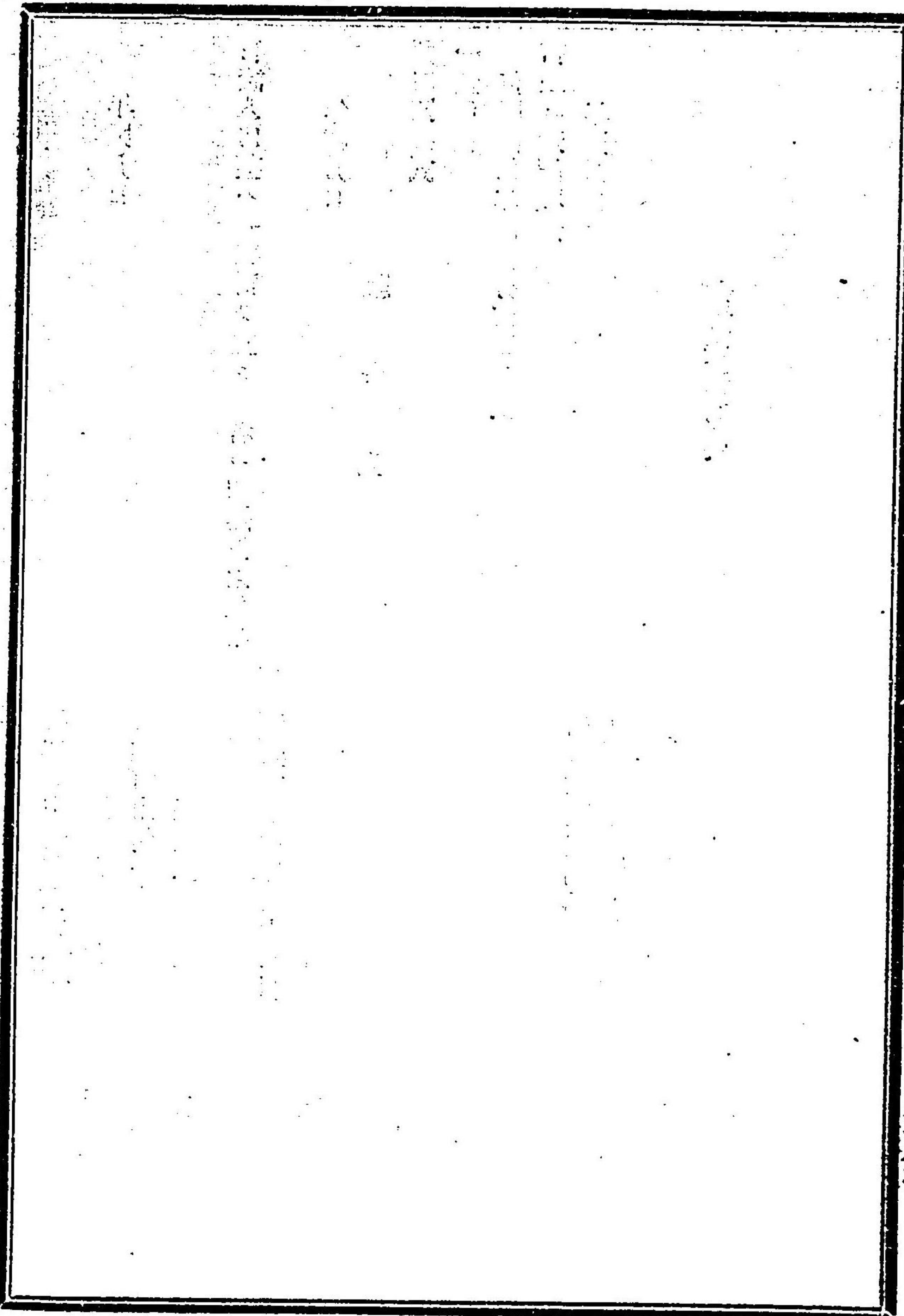
何郡何町村何番地

士族何某何男或ハ弟
平民何某何男或ハ弟

何地何學校留學生 何

某 印

會計主務官宛



○第十五類

○行政警察

第一千六十一 明治十七年一月三十一日

甲 第十五號

古物商取締細則左ノ通之ヲ定ム但明治十五年六月石川縣甲九十六番同甲九十七番布達ハ自今適用セス
右布達候事

古物商取締細則

- 第一條 古物商ニ關スル諸願伺届ハ管轄警察署又ハ分署ニ差出スヘシ
- 第二條 古物商ハ警察管區毎ニ組合ヲ設ク取締一名副取締數名ヲ撰定シ認可ヲ受クヘシ其改撰シタルモ亦同シ
- 第三條 古物商ハ左ノ離形ノ看板ヲ製シ檢印ヲ受ケ之ヲ店頭ニ掲クヘシ別ニ支店又ハ床店ヲ設クルモ每一ヶ所ニ之ヲ掲ケ露店刀鉞商ハ店頭ニ標出ヘスシヲ除クハ店頭ニ標出ヘスシ

檢印	何 商	住 所
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	姓 名

兼業ノ者ハ業名ヲ列記スヘシ

第四條 行商ヲ爲サントスル者ハ鑑札ヲ受ケ顯ハニ之ヲ携帯スヘシ若シ親族雇入等ヲシテ行商ヲ爲サシムルモ各自ニ鑑札ヲ受クヘシ

二十二年二月
縣令第十九號
ヲ以テ本條及
ヒ第二條ヲ改
正シ第一條但
書ヲ刪除ス

第五條 鑑札又ハ看板ヲ遺失毀損シ及ヒ改氏名雇人出代リ其他兼業増減スルノ類ハ更ニ鑑札附與若クハ引換又ハ檢印ヲ受クヘシ

第六條 廢業轉住又ハ行商ニシテ雇人ヲ廢シタルキハ看板ノ消印ヲ乞ヒ鑑札ハ返納スヘシ但同管區内ノ轉任ハ第五條ノ手続ニ從フヘシ

第七條 鑑札及ヒ看板ハ貸借若クハ轉用スルコトヲ許サズ

第八條 取締ハ組合名簿ヲ製シ住所屋號氏名年齢等ヲ記載シ實印ヲ取置クヘシ

第九條 取締ハ取締ニ關スル諸達及贓物ノ品觸等ヲ組合中へ送達シ證印ヲ取置クヘシ

第十條 古物商ハ左ノ帳簿ヲ製シ新調ノ都度檢印ヲ受クヘシ但第一第二ノ帳簿ヲ合セ同管區スレコトヲ得

第一 物品 買入明細帳但第一第二ノ帳簿ヲ合セ同管區スレコトヲ得

此帳簿ニハ買入讓受タル物品ノ名稱素質摸樣員數代價年月日賣主讓主ノ住所氏名及ヒ證人アルモノハ其住所氏名等ヲ空行ナク詳記シ之ニ實印若クハ拇印ヲナサシメ置クヘシ但警察官吏ノ可ヲ得タルキハ其檢印ヲ受クヘシ第二第三ノ帳簿亦同シ

第二 物品 賣渡明細帳

此帳簿ニハ賣渡讓渡タル物品ノ名稱員數代價年月日并ニ品觸ニ抵觸セサルコトヲ記載スヘシ

同業者ニ賣渡讓渡タルキハ必ス買主讓受主ノ住所氏名ヲ記載スヘシ刀劔又ハ之ヲ仕込ミタル器具ヲ賣渡又ハ讓渡シタルキハ前項ノ手續ニ從ヒ品名摸樣等ヲ詳記シ尙買主讓受主ノ住所氏名年齢容貌等ヲ記載スヘシ

第三 物品 預帳

此帳簿ニハ物品ノ名稱員數年月日并ニ品觸ニ抵觸セサルコト及ヒ預リタル理由ヲ記載スヘシ

第十一條 物品ヲ他府縣下ニ運送セントスルキハ其目錄二通ヲ作り之ニ品名素質摸樣員數及運送

二十一年七月
縣令第八十七號
發給シテ但書
ヲ追加ス

十八年十二月
甲第八十九號
ヲ以テ改正ス

先キノ住所氏名月日等ヲ詳記シ所轄警察署又ハ分署へ届出其一通ニ警察官吏ノ檢印ヲ受ケ物品ニ添へ送付スヘシ又他府縣下ヨリ受取リタルキハ該府縣警察官吏ノ檢印アル目錄ヲ添へ受取リタル日ヨリ五日以内ニ所轄警察署又ハ分署へ届出ヘシ

第十二條 組合中ニ關スル總テノ費用ハ組合中協議ヲ以テ收支スヘシ

第十三條 營業停止若クハ禁止ヲ受ケタル者ハ親族又ハ他人ノ商業ニ關預スルヲ許サズ

第十四條 此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ノ刑ニ處セラルヘシ

第一千六十二 明治十七年二月十三日

甲 第十七 七號

甲第十五號布達古物商取締細則ノ附則左ノ通り之ヲ定ム

右布達候事

古物商取締細則附則

第一條 取締ハ管轄警察署所在ノ地ニ住居スル者又ハ住居ヲ定ムルニ支障ナキ者ヲ選定スヘシ

第二條 副取締ハ警察署直轄及ヒ分署ノ所轄毎ニ一名ヲ選定スヘシ但人員ノ多寡ニ依リ認可ヲ受ケ二管區ニ一名ヲ選定スルコトヲ得

第三條 左ニ記載シタル者ハ取締副取締ニ選定スルコトヲ許サズ

一 未丁年者

二 婦人

三 瘋癲白痴者

四 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

五 條例并ニ賭博盜罪詐欺取財贓物ニ關スル罪ヲ犯シ處分ヲ受ケタル者

六 公權剝奪及ヒ停止セラレタル者

二十二年二月
縣令第二十號
第六項第七條
第七項第八條
修正及追加
式ヲ刪除セリ

- 第四條 取締ハ組合一般ヲ總轄シ副取締ハ組合中ヲ分轄スヘシ
- 第五條 取締副取締ハ組合中ノ協議ヲ以テ書役ヲ置クコトヲ得但其人名ヲ届出ヘシ
- 第六條 取締事故アルキハ副取締ニ副取締事故アルキハ書役ニ其事務ヲ代理セシムルコトヲ得
- 第七條 取締副取締ノ責任概ネ左ノ如シ
 - 一 警察官ノ命ニ從ヒ營業上取締ニ關スル事務ヲ取扱フ事
 - 二 組合營業者中諸規則ニ違反セサル様注意スル事但臨時其家宅ニ就キ帳簿又ハ商品ヲ檢閲スルコトヲ得
 - 三 組合中若シ規則ヲ遵守セス不正ノ所爲アルコト又ハ古物商ノ免許ヲ得スシテ竊カニ其業ヲ營ム者アルコトヲ見聞シタルキハ速ニ警察官吏ニ申告スルコト
 - 四 組合中營業上ニ關スル規約ヲ設ルキハ其組合一般承諾ノ上認可ヲ受クルコト
 - 五 諸費ノ收支ハ毎翌月五日限リ明細帳ヲ製シ組合一般ヘ報告ノ後届出ルコト
 - 六 組合中營業者ノ創廢身上ノ異動ニ關スル願届ニ加印スル事
- 第八條 帳簿ハ左ノ雛形ニ照準記載スヘシ

第一物品買入明細帳書式

何年月日 (特別取締ニ付セラレタル期
限内ハ時刻ヲ記入スヘシ)

何郡何町 番地

賣主(又ハ)讓主 氏 名 印

(特別取締ニ付セラレタル期限内
ハ年齢ヲ記入スヘシ)

(証人アルモノハ其住所氏名ヲ列
記スヘシ)

(警察官ノ認可若クハ許可ヲ得タ
ルコトハ其官姓名ヲ記スヘシ)

一何色何品何紋付(縞)男(女)小袖袴

何枚

但紋何々裏何色

此代價何程

一懷中時計

何個

但器柄何國製金銀銅或(兩片)硝子

此代價何程

一何塗重箱(手箱)

全

但何々塗蓋金箔ニテ何々ノ紋付

此代價何程

又ハ銀菓子地何々ノ蔀給アリ

第二物品賣渡明細帳書式

ノ幾十品

何郡何町 番地

買主(又ハ)讓受主 氏 名

(特別取締ニ付セラレタル期
限内ハ年齢ヲモ記入スヘシ)

(刀劍商ナレハ其年齢容貌又ハ盜罪賭博ノ
處罰ヲ受ケサルコトヲモ記入スヘシ)

何年月日 (特別取締ニ付セラレタル期
限内ハ時刻ヲモ記入スヘシ)

一何色何品何紋付(縞)男(女)小袖袴

何枚

但書前同

此代價何程

一何塗重箱 (手箱) 何個
 但書前同
 此代價何程
 一刀脇差 一本
 但身ノ長サ何尺何寸何々銘アリ(又ハ無銘) 柄何色柄何系
 但何巻頭何彫物切羽何々(又ハ杖仕込ミ等)
 此代價何程
 幾十品
 右ハ品觸ニ抵觸セス
 第三物品預帳書式

何郡何町何番地

預ケ主 氏

名

條例第六條ニ依リ警察官ノ許可ヲ受ケ
物品ヲ預リタルキハ其旨ヲ記入スヘシ

何年月日時
 一何色何品紋付(綿)小袖袴 何枚
 但水火盜難等保護ノ爲メ預ル
 一何塗重箱 (手箱) 何個
 但何々ノ爲メ預ル
 一何々
 幾十品
 右ハ品觸ニ抵觸セス

右ハ品觸ニ抵觸セス

第千六十三 明治十七年二月十三日

警 第六 號

警察本署 警察署 同 分署

古物商取締條例并ニ細則取扱手續左ノ通相定候條此旨相達候事

古物商取締條例并ニ細則取扱手續

第一條 古物商ヨリ差出タル諸願伺届ハ警察署分署ニ於テ當行スヘシ

分署ニ於テ營業ヲ許可シ又ハ廢業若クハ身上ノ異動アリタルトキハ其業名住所氏名ヲ毎月五日

マテ所屬署ヘ通報スヘシ

第二條 營業ノ免許ヲ得タル者ニハ看板ニ署名ノ烙印ヲ捺スヘシ

第三條 行商ノ免許ヲ得タル者ニハ左ノ雛形ノ鑑札ヲ付與スヘシ

第何號	烙印	住所
何商	署名	氏名(家屬)
製	木	氏名

堅四寸横貳寸五分

兼業ノ者ハ業名ヲ列記スヘシ

第四條 警察署分署ニハ營業人名簿ヲ製シ用紙ニ居商行商ノ區別ヲ立テ左ノ雛形ノ短冊用紙美濃ヲ

貼付シ營業人異動アル毎ニ變更スヘシ但舊短冊ニハ變更シタル年月日及ヒ其理由ヲ付記シ別二十年間保存スヘシ

第十五類 行政警察

十九年十二月
 達第百四十一
 號ヲ以テ第一
 條第六條中改
 正ス
 二十二年二月
 訓令第三十號
 第四條ニ追加
 シ及第九條第
 十一條ヲ削除
 シ第十條ヲ改

年月日宛許
 年月日看板檢印(第何號鑑札附與)
 兼業朱書住所
 何商。何商 氏 名(家屬雇人)
 (氏 名)
 年月日何帳簿檢印、年月日何々ノ廉ニ付處斷、
 年月日何年月間特別取締ニ付ス、年月日、

第五條 前條ノ名簿ハ副取締ノ分轄毎ニ區別シ營業ノ種類ヲ分チ其姓名ヲ列記スヘシ
 第六條 細則第十條ノ帳簿ニハ卷首ニ左ノ如ク朱記シテ捺印スヘシ但帳簿ノ變更ヲ防ク爲メ便宜ノ場所ニ契印(署名印)ヲ爲スヘシ
 年 月 日 閱

何警察署長(分署長)

警部 姓 名 印

二十二年二月
訓令第三十號
ヲ以テ刪除ス

第七條 品觸書ハ取締ニ發付スヘシ若シ他管區ニ發付セントスルハ所轄警察署長ニ囑托スヘシ
 第八條 條例第四條ニ依リ認可ヲ乞フキハ賣主讓主ノ身元物品ノ出所賣却又ハ交換スルノ理由等
 詳細取調ハ疑ハシキ廉ナキキハ認可ヲ與フ可シ
 第九條
 第十條 條例第十五條ニ該當スルモノハ其裁判確定ノ通知ヲ得タルキハ左ノ申渡ヲナスヘシ

犯人繫獄中其家族雇人ニ於テ營業スルキハ申渡書ヲ犯人ニ送達シ其家族雇人ニ條例第十六條ヲ
 遵奉セシムヘシ

刑名 住所 姓名 年 齡
 右古物商取締條例第十五條ニ依リ明治何年何月ヨリ同何年月日迄何年月間特別ノ取締ニ付ス
 期限中ハ同條例第十六條ノ規則ヲ遵奉スヘシ
 年 月 日 閱
 何警察署長
 警部 姓 名 印

十八年十二月
警第四十二號
ヲ以テ改正ス

第十一條
 第十二條 條例第十六條第五項ノ場合ニ於テハ第二條ノ手續ニ依リ帳簿ノ記載末ニ檢印スヘシ但
印ヲ捺スル
ニ及ハス
 第十三條 條例第十九條ニ該當スル者ハ意見ヲ附シテ具狀スヘシ
 第十四條 營業ノ禁止ヲ受ケタル者ハ看板ハ消印シ鑑札ハ返納セシムヘシ
 第十五條 營業ノ停止ヲ受ケタル者ハ看板ハ八目ニ觸レサル場所ニ退ケシメ鑑札ハ警察署ニ預リ
 置クヘシ
 第十六條 條例第二十一條末文ノ場合ニ於テハ遺失物ノ規則ニ準シ取扱フヘシ
 第十七條 物品ヲ他府縣下ニ運送セントシ届出タルキハ一通ノ目録末尾ニ左ノ如ク朱記シ捺印シ
 テ下付スヘシ但下付スル目録ニハ變更ヲ防ク爲メ便宜
ノ場所ニ契印(署名印)ヲ爲スヘシ
 年 月 日 閱

何警察署(分署)
警部 姓 名 印

第十八條 特別取締ニ付セラレタル者所轄外ニ移住又ハ旅行等届出ルキハ其理由及ヒ行先等取
調ハ所轄警察署ヘ通知スヘシ

第十九條 條例ニ違犯シタル者他府縣下ニ係ルキハ犯人原簿所轄ノ警察署ニ通知スヘシ
第千六十四 明治十七年二月十五日

警 第七 號 魚津警察署 高岡警察署
本縣人民治安裁判所ニ於テ古物商取締條例第十五條ニ明文アル處斷ヲ受ケタルキ若シ罰金ノ刑ノ
ミニ止マル者ハ本人直ニ所轄警察署ヘ出頭スヘキ旨命令スヘシ此旨相違候事

第千六十五 明治十八年一月十九日
警 第一 號 警察本署 警察署
古物商并質屋新規開業ノ節ニ限リ該取締細則ニ依リ看板及帳簿ヘ檢印ヲ捺シ下付シタルキハ其當
日ヲ記載シ直ニ營業者所轄ノ局長役場ヘ通報スヘシ此旨相違候事

第千六十六 明治十九年一月十三日
警 第四 號 警察本署 警察署 警察分署
古物商ニシテ塙風襖等ヲ取扱フ者ハ書番ノ貼付有無ニ依リ古道具商ト古書商ノ區別候處右ハ書番
ノ貼付如何ニ拘ハラス總テ古道具商ト可相心得此旨相違候事但本文ニ抵觸スル從前
達示指令ハ取消ス

第千六十七 明治十七年五月七日
甲 第四十八 號
質屋取締細則左ノ通相定メ明治十七年五月十五日ヨリ施行ス但明治十五年石川縣甲九十五番布
建ハ本文施行ノ日限リ適用ス

右布達候事

質屋取締細則

- 第一條 質屋營業ニ關スル諸願伺届ハ所轄警察署又ハ分署ニ差出スヘシ
- 第二條 條例第六條第八條第十一條ノ場合ニ在テハ便宜所轄分署ニ届出ルモ妨ケナシ
- 第三條 質屋營業者ハ警察管區毎ニ組合ヲ設ケ營業者中ヨリ取締一名副取締數名ヲ撰定シ認可ヲ
受クヘシ其改選シタルキ亦同シ
- 第四條 質屋營業者ハ左ノ雛形ノ看板ヲ製シ檢印ヲ受ケ之ヲ店頭ニ掲クヘシ別ニ支店ヲ設ケルキ
ハ每一ヶ所ニ之ヲ掲クヘシ

質屋	檢印	住所	堅一尺五寸
□		姓名	横五寸

第五條 廢業轉住改姓名又ハ看板ヲ遺失毀損シタルキハ速ニ其事由届出テ更ニ看板ニ檢印若クハ
消印ヲ受クヘシ

第六條 看板ハ貸借若クハ轉用スルコトヲ許サス

第七條 質屋營業者ハ質物臺帳ノ外ニ豫テ流質物賣拂帳物品預リ帳ヲ製シ其紙數ヲ記シ檢印ヲ受
クヘシ

第八條 物品ヲ預リタルキハ其物品及預ケ主ノ住所氏名年月日并ニ其理由ヲ物品預リ帳ニ記載ス
ヘシ

二十二年二月
縣令第二十
號ヲ以テ第
一號ヲ加テ
第一條第三
條ヲ刪除シ
第一條中
ス

第九條 物品預り帳ハ十年間保存スヘシ若シ亡失シタルハ直ニ届出スヘシ
 第十條 營業停止若クハ禁止ヲ受ケタル者ハ親族又ハ他人ノ商業ニ關與スルヲ許サス
 第十一條 此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ノ刑ニ處セラレヘシ

附則

第一條 取締ハ管轄警察署所在ノ地ニ住居スル者又ハ住居ヲ定ムルニ支障ナキ者ヲ撰定スヘシ
 第二條 副取締ハ警察署直轄及ヒ分署ノ所轄毎ニ一名ヲ撰定スヘシ但營業者ノ多寡ニ依リ認可ヲ受ケニ分署所轄ニ一名ヲ撰定スルコトヲ得
 第三條 左ニ記載シタル者ハ取締副取締ニ撰定スルコトヲ許サス
 一 未丁年者 二 婦人 三 瘋癲白痴者
 四 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者
 五 條例并ニ賭博古物商取締條例盜罪詐僞取財贓物ニ關スル罪ヲ犯シ處分ヲ受ケタル者
 六 公權剝奪又ハ停止セラレタル者
 第四條 取締ハ組合一般ヲ總轄シ副取締ハ組合中ヲ分轄スヘシ
 第五條 取締副取締ハ組合中ノ協議ヲ以テ書役置クコトヲ得但其人名ヲ届出ヘシ
 第六條 取締事故アルキハ副取締ニ副取締事故アルキハ書役ニ其事務ヲ代理セシムルコトヲ得
 第七條 取締副取締ノ責任概テ左ノ如シ
 一 警察官ノ命ニ從ヒ營業上取締ニ關スル事務ヲ取扱フ事
 二 取締ハ組合名簿ヲ製シ住所番地氏名年齢等ヲ記載シ實印ヲ取り置クコト但別ニ營業上ニ押用スル印章一名ノ上ニ貼付シ置クヘシ
 三 取締ハ取締上ニ關スル諸達并ニ贓物ノ品觸等ヲ組合中ヘ送達シ證印ヲ取置ク事
 四 組合中營業者ノ諸願届届條例第六條第七條第十一條ノ場合ハ除クニ加印スル事但便宜正副ノ内一名ニテ妨クナシ

二十二年二月
 縣令第二十
 號以テ本條
 中ヲ改正シ
 舊式ヲ刪除ス

五 組合營業者中諸規則ニ違犯セサル様注意スル事但臨時其家宅ニ就キ帳簿又ハ貨物ヲ檢閲スルコトヲ得
 六 組合中若シ規則ヲ遵守セス不正ノ所爲アルコト又ハ質屋ノ免許ヲ得スシテ竊ニ其業ヲ營ム者アルコトヲ見聞シタルキハ速カニ警察官吏ニ申告スル事
 七 組合中營業上ニ關スル規約ヲ設ルキハ其組合一般承諾ノ上認可ヲ受クル事
 八 組合中ニ關スル總テノ費用ハ組合中協議ヲ以テ收支スル事
 九 諸費ノ收支ハ毎翌月五日限り明細帳ヲ作り組合一般ヘ報告ノ後届出ル事
 第八條 帳簿等ハ左ノ雛形ニ照準記載スヘシ
 質物臺帳書式帳簿中總テ空行ナク記載スヘシ

○印ハ朱書

○年月日受戻(第何號ト入換)
 ○(流質物トシテ賣拂)

第何號年月日

一 何品紋付(縞)男(女)小袖給
但紋何々裏何色 袖口何々

一枚

此貸金何程
但器機何國製金銀則或ハ(兩片)硝子 番號何萬何千號附屬品何々

一懷中時計

一個

此貸金何程
 × 幾品

一個

何郡何村番地
 質入主 氏 名 印
 證人アルキハ其住所氏名ヲ列記スヘシ

流質物賣拂帳書式上

年月日

○年月日第何號
一何物臺帳ノ番號

何郡何村番地
買主 氏 名

書式質物臺帳ト同シ

此代價何程

○年月日第何號
何枚

一何々

此代價何程

右ハ品觸ニ抵觸セス

物品預リ帳書式上

年月日

何郡何村番地
預ケ主 氏 名

一何色何品紋付(縞)男(女)小袖袴

但水火盜難等保護ノ爲メ預ル

一何品

但何々ノ爲メ預ル

一何品

流質物賣拂届書式

年月日別紙目錄之通流質物賣拂度候條此段御届仕候也

何警察署

御中

賣拂流質物目錄

一何品何色男(女)綿入

但何々

一何々

一何品

右ハ品觸ニ抵觸セス

第千六十八 明治十七年五月七日

警察署 第十七號

質屋取締條例并ニ細則取扱手續左ノ通相定候條此旨相達候事

質屋取締條例并ニ細則取扱手續

第一條 質屋營業者ヨリ差出タル諸願届ハ警察署分署ニ於テ常行スヘシ

分署ニ於テ營業ヲ許可シ又ハ廢業及ヒ身上ノ異動アリタルトキハ其業名住所氏名ヲ毎月五日マ

テ所屬署へ通報スヘシ

十九年十二月
達第百四十二
一號第百四十二
一號第百四十二
四號第百四十二
月令第三十二

第一條第三項ヲ
改正シ及第一
條第二項ヲ加
ヘ第六條但書
ヲ除ス

第二條 營業ノ免許ヲ得タル者ニハ看板ニ署名ノ烙印ヲ捺スヘシ
第三條 警察署分署ニハ營業人名簿ヲ製シ用紙並副取締ノ分轄毎ニ區別ヲ立テ左ノ雛形ノ短冊用紙美濃紙ヲ貼付シ營業人異動アル毎ニ變更スヘシ但舊短冊ニハ變更シタル年月日及其理由ヲ付記シ別二十年間保存スヘシ

年月日免許

年月日看板檢印

住所 氏名

年月日何帳簿檢印、年月日何々ノ廉ニ付處斷、年月日何々

第四條 質物臺帳流質物賣拂帳物品預リ帳ニハ卷首ニ左ノ如ク朱記シテ捺印スヘシ但帳簿ノ變更ヲ防ニ契印署名印ヲ爲スヘシ

年 署
印 月 日 閱

何警察署長(分署長)

警部 姓 名 印

第五條 品觸書ハ取締ニ發付スヘシ若シ他管區ニ發付セントスルハ所轄警察署長ニ屬托スヘシ

第六條 條例第六條第七條第八條第十一條第十二條細則第九條ノ屆等ヲ受理シタル場合若シ疑シキ廉アリト思料スルキハ直ニ相當ノ處分ヲ爲スヘシ

第七條 條例第十五條ニ該當スル者ハ意見ヲ付シ具狀スヘシ

第八條 營業ノ禁止ヲ受タルキハ看板ハ速カニ消印シ其停止ニ係ルキハ人目ニ觸ラサル場所ニ退クシムヘシ

第千六十九 明治十七年三月二十七日

甲 第三十一號

賭博犯處分細則左ノ通之ヲ定ム
右布達候事

賭博犯處分細則

第一條 賭博犯ノ處分ハ逮捕ノ地ノ警察署ニ於テ之ヲ爲ス其逃走シタル者ヲ逮捕シタルキ亦同シ但警察本署ニ於テ便宜之ヲ爲スコトアルヘシ

第二條 懲罰ハ重禁錮ノ刑ニ準シ監獄署ニ於テ執行ス其方法細則ハ總テ監獄ノ規則ニ從フ

第三條 過料ハ言渡テ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ納完セシム若シ限内納完セサル者ハ壹圓チ一日ニ折算シ懲罰ニ換フ其壹圓ニ滿タサル者ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス若シ懲罰限内過料ヲ納メタルキハ其經過シタル日數ヲ扣除シテ懲罰ヲ免ヌ親屬其他ノ者代テ納メタルキ亦同シ

第四條 懲罰限内逃走シタル者ハ其逃走中ノ日數ハ限内ニ算入セス

第五條 懲罰人悔悟悔改ノ狀アリト認ムルキハ其犯由及ヒ悔改ノ情狀等ヲ詳具シ内務卿ノ允可ヲ得テ減免スルコトアルヘシ

第六條 本則賭博犯處分規則 第三條ノ場合ニ於テ警察官巡查ノ携帶スル證票左ノ如シ

賭博犯逮捕之證

縣名

官姓名

第一千七十 明治十七年三月二十七日

警 第十一號

警察本署 警察署 同分署

賭博犯處分手續左之通相定候條此旨相達候事

賭博犯處分手續

- 第一章 逮捕及處分
- 第一條 巡查現ニ賭博犯アルヲ知リタルハ直ニ之ヲ逮捕スヘシ但非現行ニ係ルモノハ警部警部補ノ命令アルニテ逮捕スルハ捕房トシテ得ス
- 第二條 非現行ノ賭博犯ヲ逮捕スルハ必ス證票ヲ携帶スヘシ但現行犯ヲ逮捕スル場合ト雖モ正服ヲ着用セサルハ亦同シ
- 第三條 警察分署ニ於テ賭博犯ヲ逮捕シタルハ一應訊問ヲナシ調書ヲ作り證據物件ヲ添ヘ速ニ本屬警察署ヘ送致スヘシ
- 第四條 勅奏官及華族帶勳章者從六位以上ノ者賭博ノ所爲發覺シタルハ縣令ニ具狀シ裁可ヲ乞フ

本年五月警部第十六號ヲ以テ第一條ヨリ第四條迄追加ス

ヒ然後處分スヘシ

- 第五條 犯狀明白ナル者ハ第一號離形ニ據リ懲罰及ヒ過料ノ言渡ヲ爲スヘシ
- 第六條 警察署ニ於テハ懲罰三ヶ月以上過料三拾圓以上ニ該ルモノト認ムルハ狀ヲ具シ縣令又ハ警部長ノ裁可ヲ乞フヘシ但懲罰三ヶ月以内ト雖モ疑義ニ涉ルモノハ本條ノ通
- 第七條 過料ヲ懲罰ニ換ルルハ第二號離形ニ依リ命令スヘシ但該犯懲罰限内ニ係ルハ其所在地ノ警察署ニ屬托スルヲ得
- 第八條 賭博犯ハ自首スルト雖モ輕減スルノ限リニアラス
- 第九條 數次ノ賭博犯同時ニ發覺スルモ各別ニ處罰スルヲ須ヒス其數次ヲ併セ規則ノ範圍内ニ就キ處分スヘシ
- 第十條 警察署ニ於テハ懲罰三ヶ月以上過料三拾圓以上ニ該ルモノト認ムルハ狀ヲ具シ縣令又ハ警部長ノ裁可ヲ乞フヘシ但懲罰三ヶ月以内ト雖モ疑義ニ涉ルモノハ本條ノ通
- 第十一條 瘋癲白痴瘡癩者及ヒ年齡十二歳未満ノ幼者ニシテ酌量スヘキ情狀アル者ハ特ニ減免スルヲ得
- 第十二條 毎月處分シタル件數ハ第三號離形ニ準シ翌月五日迄ニ上申スヘシ
- 第二章 過料及沒入
- 第十三條 沒入シタル物品ハ廢棄物トシテ類ノ類ニシテモノヲ除ク外悉皆公賣スヘシ
- 第十四條 過料金ハ第四號沒入金并ニ公賣代金ハ第五號離形ノ納證ヲ作り一月分取總メ翌月五日迄ニ會計課ヘ送付スヘシ但本文送付ノ都度警察本署ヘ通知スヘシ
- 第三章 懲罰執行
- 第十五條 懲罰ニ處シタル者ハ言渡書ノ謄本ヲ添ヘ監獄署ニ送致シ其執行ヲ求ムヘシ
- 第十六條 監視ニ付セラレタル者ヲ懲罰ニ處シタルトキハ懲罰ノ處分終リタル後監視ヲ執行スヘシ

十九年五月警部第四十三號ヲ以テ改正ス

十九年五月警部第四十三號ヲ以テ改正

十七年五月警部第十六號ヲ以テ改正追加シ以下順次續下

第十七條 懲罰人ニ貸與スル獄衣ハ襟ノミヲ淺葱色トシ他ノ囚徒ト區別スヘシ

第四章 附則

第十八條 刑期限内賭博ノ處爲發覺シ其處分ヲナス爲メ呼出シタル日數ハ刑期ニ算入ス

第十九條 刑法ノ處刑執行後懲罰ヲ執行スヘキ者ニシテ刑期中假出獄ヲ許スヘキ情狀アルモノハ

假出獄中懲罰ノ執行ヲ猶豫シ其間監視規則ヲ嚴守シ愈悛改ノ狀アルニ於テハ其情狀ヲ詳具シ内務卿ノ允可ヲ得テ懲罰ヲ寛宥スルコトアルヘシ

第二十條 前條并ニ細則第五條ノ場合ニ於テ典獄又ハ警察署長ヨリ縣令ヘ具狀スヘシ

(第一號書式)

言 渡 書

住所身分職業

氏 名

年 齡

其方儀明治何年何月何日何所ニ於テ何々シタルニ付賭博犯處分規則第一條ニ照シ何年何月ノ懲罰及何拾何圓ノ過料ニ處ス但賭博ノ用ニ供シタル何々賭場ニ現在シタル何々ハ没入ス

年 月 日

何 警 察 署 印

住所身分職業

氏 名

年 齡

(第二號書式)

其方儀何々ノ科ニ依リ過料何圓ニ處シタル處其過料ヲ納完セサルニ依リ懲罰何日ニ處ス
年 月 日 何 警 察 署 印

(第三號書式)

賭博犯處分表

何々警察署

犯 由	黨類招結賭場開張兇器攜帶四隣横行		招結ニ應賭博ヲナシタル者		家屋貸與見張ヲナシタル者		補助ヲナシタル者	
	男	女	男	女	男	女	男	女
懲罰何年	何人							
過料何拾圓								
懲罰何年	何人							
過料何拾圓								
以下之ニ準								
合 計								

(第四號書式)

明治何年何月中賭博犯過料納證

一金 内譯

犯 由	所	決	徵	收	金	額	住 所
賭博セシモノ	何月何日	何月何日	何月何日	何月何日	何圓	錢	氏名

賭博招結セシモノ
房屋ヲ給與セシモノ

右何年何月中賭博犯過料金別紙納證相添相納候也(警部長宛ノ分ハ本文別紙以下ヲ(本日會計課
へ納入候ニ付此段及御届候也)ニ作ル

何警察署長

官 姓 名 印

年 月 日

縣 令 宛

警 部 長 宛

納 證

一金何拾圓

過 料 金

右相納候也

何郡何町何番地身分

氏 名 印

年 月 日

(第五號書式)

明治何年何月中沒入金品納證

一金何拾圓

內 沒入金何圓
公賣代金何圓

內譯

第十七年四月
第十三號ヲ以
テ改正

沒 入	金 額 物 品	箇 數	公 賣 代 金	住 所
何 月 何 日	金 何 圓 錢	〇	〇	氏 名
	品 名		何 圓 錢	

右何年何月中賭博犯沒入金品別紙書面和添相納候也(警部長宛ノ分ハ本文別紙以下ヲ(本日會計課
へ納入候ニ付此段及御届候也)ニ作ル

何警察署長

官 姓 名 印

年 月 日

縣 令 宛
警 部 長 宛

納 證

一金

何品外何箇御拂下代金

右相納候也

何郡何町何番地身分

氏 名

年 月 日

一金

物品

幾 干
幾 干

第十五類 行政警察

右ハ明治何年何月何日言渡賭博犯住所氏名没入金相納候也

年月日

第千七十一 明治十七年一月三十一日

警 第 四 號 內務司法兩卿ヨリ別紙之通内訓相成候條爲心得此旨相達候事

司 警 第 八 號

本年第一號ヲ以テ布告相成候賭博犯處分之儀ハ該布告周知以前ニ係ル犯罪ハ刑法ニ從ヒ管轄裁判所ニ送致シ周知後ハ右布告ニ從ヒ處分スル儀ト心得ヘシ此旨訓示候也

明治十七年一月十日

富山縣令國重正文殿

第一〇八號

賭博犯處分ノ儀ニ付本年第一號布告有之候處右ハ該布告周知以前ニ係ル犯罪ハ刑法ニ從ヒ管轄裁判所ニ於テ處分スヘキ義ト心得可シ此旨及内訓候也

明治十七年一月十二日

第千七十二 明治十七年五月十七日

警 第 二 十 號

賭博犯入監若クハ留置中逃走シ又ハ逃走者ヲ藏匿隱避セシメタル者等處分方別紙之通達有之候條爲心得此旨相達候事

何警察署

官 姓 名 印

警 察 署 警 察 分 署

內 務 卿 山 縣 有 朋

司 法 卿 山 田 顯 義

警 察 署 同 分 署

(別紙)

番外

賭博犯人入監若クハ留置中逃走シ又ハ逃走者ヲ藏匿隱避セシメタル者等ハ刑法第四百二十二條以下各條ニ照シ法衙ニ於テ處分セラル、管ニ付爲心得此旨相達候事

明治十七年五月五日

第千七十三 明治十七年五月十二日

警 第 十 九 號

賭博犯懲罰假免ノ義ニ付甲號ノ通内務卿ヨリ達相成候條其取扱手續乙號ノ通相定候此旨相達候事

(甲號)番外

賭博犯懲罰人悔悟悔改之狀アルモ單ニ減免ス可カラスト思料スル場合ニ於テハ警視總官地方長官ハ左之方法ニ據リ假ニ懲罰ヲ免スルヲ得此旨相達候事

明治十七年三月二十七日

假免懲罰及取締方法

第一條 假ニ懲罰ヲ免シタルキハ假免證書ヲ本人ニ下附スヘシ假面證書ノ裏面ニハ第二條及ヒ第三條ニ掲載スル各項並ニ第四條第五條ノ全文ヲ記載スヘシ

第二條 假ニ懲罰ヲ免シタル者ハ罰期滿限迄取締ニ付スヘシ

第三條 取締ニ付セラレタル者ハ罰期滿限マテ左ノ各項ヲ遵守スヘシ

一 住居ヲ轉セントスルキハ所轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ

一 一日程ヲ過クル地ニ旅行スルキハ其行先並ニ滞留日數等ヲ詳記シ警察署ノ許可ヲ受クヘシ

第十五類 行政警察

警 視 廳 府 縣 東 京 府

內 務 卿 山 縣 有 朋

警 察 本 署 警 察 署 同 分 署

內 務 卿 山 縣 有 朋 印

富 山 縣

三 一ヶ月一回謹慎ヲ表スル爲メ毎月十日マテニ所轄警察署ニ到リ假免證書ヲ出シ警察官吏ノ認印ヲ受クヘシ但巴ムヲ得サル事故ア
レハ其事由ヲ届出ヘシ

第四條 取締期限ハ何時ニテモ警察官其家宅ニ臨檢スルコトアルヘシ

第五條 假ニ懲罰ヲ免シタル者取締各項ヲ遵守セサルキハ直ニ殘期ノ懲罰ニ付スヘシ其假免中ノ日數ハ罰期ニ算入スルヲ得ス

第六條 懲罰假免中又賭博ノ罪ヲ犯シタル者ハ前條ノ處分ヲ終リタル後更ニ後犯懲罰ヲ執行スヘシ

(乙號)

假免懲罰及取締方法取扱手續

第一條 假免スヘキ情狀アル者ハ典獄ヨリ其情狀ヲ詳具シ縣令ノ裁決ヲ乞ヘシ

第二條 假免スヘキキハ典獄ヨリ其證書ヲ下付シ取締期限遵守ス直ニ所轄警察署又ハ分署ニ出頭スヘキ旨中渡スヘシ但本人出頭スヘキ警察署
ヘハ前以テ通知スヘシ

第三條 假ニ懲罰ヲ免シタル者方法第五條ニ該當スルキハ警察署長ハ假免ヲ取消スノ言渡ヲ爲シ其言渡書ノ原本ヲ添ヘ監獄本署ヘ送致スヘシ但分署ニ於テハ假免ヲ取消スヘキ者ト出料
シタルキハ其事由ヲ警察署長ニ申告スヘシ

第四條 前條取消ノ言渡ヲ爲シタルキハ直ニ縣令ニ具狀スヘシ

第五條 取締ニ付セラレタル者旅行中滯留日數ニ涉ルキハ其地警察署又ハ分署ニ通知スヘシ

表

賭博犯懲罰假免證書	何府何國何郡何村族籍
-----------	------------

面

氏名
明治何年何月何日
其方義明治何年月日賭博ノ所爲ニ依リ懲罰何年月ニ處セラレ來ル年月日滿期ノ處々罰以來能ク獄則ヲ遵守シ悔改ノ狀顯ル、ヲ以テ假ニ懲罰差免候事

年月日

縣名 印

裏

- 一 假ニ懲罰ヲ免シタル者ハ罰期滿限迄取締ニ付スヘシ
- 一 取締ニ付セラレタル者ハ罰期滿限迄左ノ各項遵守スヘシ
 - 一 住居ヲ轉セントスルキハ所轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ但他ノ府縣ヘ轉移スルキハ所轄警察署ニ許可ヲ受クヘシ
 - 二 一日程ヲ過クル地ニ旅行スルキハ其行先並ニ滯留日數等ヲ詳記シ所轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ
 - 三 一ヶ月一回謹慎ヲ表スル爲メ毎月十日迄ニ所轄警察署ニ到リ假免證書ヲ出シ警察官吏ノ認印ヲ受クヘシ但巴ムヲ得サル事故ア
レハ其事由ヲ届出ヘシ
- 一 取締期限ハ何時ニテモ警察官其家宅ニ臨檢スルコトアル可シ
- 一 假ニ懲罰ヲ免シタル者取締各項ヲ遵守セサルキハ直ニ殘期ノ懲罰ニ付スヘシ其假免中ノ日數ハ罰期ニ算入スルヲ得ス

認 印 表

年	月	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二
初	年												
二	年												
三	年												
四	年												
五	年												

假免取消言渡書式

何縣何郡何町族籍

氏 名

年 齡

其方義何年月日假ニ懲罰差免サレ取締中ノ處何々違背ノ事故ヲ記載スニ付假免取消候事

年 月 日

第千七十四 明治十九年二月廿四日

何 警 察 署 印

警 第 十 一 號

警 察 本 署 警 察 署

賭博犯過料不完納者處分方内務大臣ヨリ別紙甲號ノ通訓示和成候ニ付其取扱手續乙號ノ通相定候條此旨相違候事

(別紙)

甲號 兵甲第三四五號

明治十七年第一號公布賭博犯處分規則施行以來ノ情況ニ依レハ過料ノ言渡ヲ受ケ之ヲ納完スルノ資力アル者ト雖モ往々其金額ヲ納完セス故サラニ換懲罰ヲ受クルモノ不尠然ルニ犯人ノ隨意ニ任セ換罰ヲ受ケシムルハ過料ヲ科スルノ趣旨不相立ニ付自今過料ノ言渡ヲ受ケ限内納完セサルモノアルハ篤ト其身元取糺全ク無資力者ノ外警察官ヲシテ通常民事ノ規則ニ從ヒ身代限徵收ノ處分ヲ請求セシメ而シテ仍ホ納完スル能ハサル場合ニ於テ始メテ換罰ノ處分致スヘシ此旨訓示候也

明治二十年一月二十八日

内務大臣伯爵 山 縣 有 朋

富山縣令國重正文殿

乙號

賭博犯過料不完納者取扱手續

第一條 賭博犯過料ノ言渡ヲ受ケ之ヲ納完セザル者ハ戶長ニ照會シテ資力ノ有無ヲ取調ヘ全ク資力ナキモノハ換懲罰ノ處分ヲ爲スヘシ

第二條 其資力アルモノハ身代限徵收ノ處分ヲ民事裁判官ニ請求スヘシ

第三條 金高百圓以上ハ始審裁判所ニ百圓未満ハ治安裁判所ニ請求スヘシ

第四條 請求書ハ左ノ雛形ニ準シ調製スヘシ

用紙通常郵紙

何府何國何郡何町番地住居

族籍職業

氏

名

右之者別紙附本ノ通明治年月日賭博犯處分規則ニ依リ過料何圓ニ被處年月日(ニテ納期限相滿候

十九年四月
第三十號ヲ以
テ改正ス

（共）（内何圓ヲ納メ其餘）未タ納完不致候條身代限徵收ノ御處分ニ相成度此段請求候也

年月日

何裁判所長
官 姓名 名 印

第五條 請求書ハ裁判所ニ宛郵便ヲ以テ送付スルヲ得

第千七十五 明治十九年三月一日

警察 第三十二號

警察本署 警察署

明治十九年警第十一號達賭博犯過料不納完者取扱手續第四條ノ請求書ニ貼用スル訴訟用印紙代ハ其署定額警察費ヲ以支辨シ科目ハ同費廳費中消耗品へ編入スル儀ト心得ヘシ此旨相達候事

第千七十六 明治十九年四月十七日

警察 第三十二號

警察本署 警察署

違警罪科料金及諸官沒金并賭博賣淫過料金等はマテ會計課へ送納ノ都度警察本署へ届出來候處自今廢止ス

右相達ス

第千七十七 明治十八年十二月二十八日

郡 役 所 戸長 役 場

十九年十二月
乙第拾二號ヲ
以テ但書及第
八條以下ヲ追
加ス

永久墓地取定ノ義ニ付テハ豫テ其筋ヨリ達ノ趣モ有之候條別紙内規ニ據リ各部内一般取調へ明治十九年三月三十一日限リ出願爲致候様取計ヘシ此旨相達候事但火葬場ノ儀モ本文ニ準シ取計フヘシ

（別紙）

墓地取調内規

第一條 墓地ハ一町村以上各一ヶ所ニ限ル宗旨若クハ種族ニヨリ之ヲ別設スルヲ許サス但一町村所ニ分レ其距離遠隔等ニテ實際取調要スルモノハ審査ノ上之レヲ許サス

第二條 墓地ハ一町村以上ノ共葬タルヘシト雖モ其地ニ於テ死去シタルモノハ何地ノ人タルヲ問ハズ該地ニ埋葬スルヲ得ヘシ

第三條 墓地ハ左ノ各項ニ據リ撰ムヘシ
一 國道縣道相當線及大川ニ沿ハス

二 人家ヲ隔ルコト凡六十間以上

三 土地高燥飲用水ニ障ナキ地

四 死租或ハ荒廢ノ地但適當ナル免租或ハ荒廢ノ地ナキトハ可成遊視地

第四條 墓地ハ凡ソ千戸ニ二町歩以内ヲ目的トシ町村ノ地形將來ノ盛衰等ヲ篤ト量察シ元地ヲ生セサル様注意スヘシ

第五條 舊墓地中第三條第四條ニ恰當ナルモノハ更ニ共葬墓地ニ撰擇スヘシ

第六條 從前ノ墓地ニシテ此内規ニ抵觸シタルモノハ將來埋葬ヲ禁止スルモノトス

第七條 墓地新設又ハ取廣ノ願書ニハ左ノ各項ヲ詳記シ且圖面ヲ添ヘシ
一 共葬町村名并ニ其戸數
二 土地所管ノ町村名
三 地番號
四 字

五 地種地目

六 反別
七 地券受主
八 地價
九 國道縣道相當線大川及人家并飲用水ノ距離
十 地質
十一 有租地ナシハ他ニ免租地若シクハ荒廢地無之事由

第八條 第一條第二條ノ規定ハ火葬場ニ於テモ亦同シ

第九條 火葬場ハ左ノ各項ニ據リ撰ムヘシ
一 人家及國道縣道相當線其他人民輻湊ノ地ヲ隔ルル百二十間以上且大川ニ沿ハス
二 風上ニ位セザル地
三 第三條四項

第十條 火葬場ハ火爐煙筒ヲ備ヘ臭煙ヲ防クノ裝置ヲナスヘキモノトス 但山林原野等ニシテ人家ヲ隔ルル場所ナルハ格別ナリトス

第十一條 從前既設ノ火葬場ニシテ此內規ニ抵觸シタルモノハ將來火葬ヲ禁止スルモノトス

第十二條 此內規ニ抵觸スル從前ノ火葬場ニシテ第三條ニ適當ナルモノハ更ニ共葬墓地ニ撰擇スルヲ得

第十三條 火葬場新設ノ願書ニハ第七條ノ各項 九項中「飲用水」ノ三字ヲ具シ且圖面 内外部 并ニ仕様書ヲ添フヘシ

第十四條 墓地火葬場ハ各專用ノ外他用ニ充ルヲ許サス

第千七十八 明治二十年四月八日
縣令第四十三號

二十年八月
令第九十五號
第六條ヲ改正ス

墓地及埋葬取締細則左ノ通り相定ム 但明治十七年甲第百廿二號布達廢止ス

墓地及埋葬取締細則

第一條 墓地ヲ新設又ハ取廣メント欲スルモノハ國道縣道 相當 及大川ニ沿ハス人家ヲ隔ルル凡ソ六十間以上ニシテ土地乾燥飲用水ニ障ナキ地ヲ撰ミ左ノ各項ヲ詳記シ且圖面ヲ添ヘ地主連署ノ上戸長役場郡役所ヲ經由シ縣廳ヘ出願允許ヲ受ケ落成ノ上ハ所轄警察署又ハ分署ヘ届出檢査ヲ受クヘシ

一 共葬町村名并其戸數
一 土地所管ノ町村名
一 地番號并字
一 地種地目并反別
一 地券持主及地價
一 地質

一 國道縣道相當線大川并人家飲料水ノ距離

第二條 墓地ハ種族宗旨ヲ別タス其町村ニ本籍ヲ有シ若クハ其町村ニ於テ死亡シタルモノハ何人ニテモ之ヲ葬ルコトヲ得其從前別段ノ習慣アルモノハ此限リニアラス 但死刑ニ處セラレタルモノハ葬地ノ一隅ヲ區畫シテ其內ニ埋葬ス

第三條 墓地ノ周圍 墓地ノ境界ヲ云フ ニハ塀牆ヲ設ケ若クハ樹木ヲ栽ユヘシ墓地ノ内ニハ一丈以上ノ樹木塀牆ヲ存スヘカラス 但從前ヨリ現存スルモノハ此限リニアラス

第四條 墓地ハ清潔ヲ旨トシ掃除及修繕ヲ怠ルヘカラス

第五條 擴穴ノ深サハ六尺以上タルヘシ若シ土地ニ依リ六尺ニ至リ難キモノ及ヒ火葬ノ遺骨ヲ埋

第十五類 行政警察

藏スルハ此限リニアラス

第六條 火葬場ヲ新設又ハ改造セントスルモノハ人家并人民輻輳ノ地ヲ隔ル凡百二十間以上ニシテ風上ニ位セサル地ヲ撰ミ且第一條一項ヨリ六項ニ至ル各項ヲ詳記シ其地形并構造内外部ノ圖面ニ仕様書ヲ添ヘ戸長役場郡役所ヲ經由シ縣廳ヘ出願允許ヲ受テ落成ノ上ハ所轄警察署又ハ分署ヘ届出檢査ヲ受クヘシ

第七條 火葬場ニハ火爐煙筒ヲ備ヘ臭煙ヲ防クノ裝置ヲ爲シ且周圍ニ塙塙ヲ設クヘシ 但山林原野等ニシテ人家ヲ隔タル場所ナルハ此限リニアラス

第八條 火葬ハ成ルヘク日没後之ヲ行フヘシ

第九條 火葬場ニハ一定ノ灰棄場ヲ設クヘシ

第十條 火葬ノ遺骨ハ墓地ニ埋藏スヘシ火葬場内ニ埋藏スヘカラス

第十一條 火爐煙筒ハ勿論火葬場内ハ清潔ヲ旨トシ掃除及修繕ヲ怠ルヘカラス

第十二條 死屍ヲ埋葬又ハ火葬セント欲スル者ハ主治醫ノ死亡届書ヲ添ヘ戸長ノ認許證ヲ乞フヘシ 但火葬ノ遺骨ヲ埋藏スルハ別ニ認許證ヲ受ルニ及ハス

第十三條 左ノ場合ニ於テハ前條死亡届書ニ代フルニ左ノ證書ヲ添付スヘシ

一 醫師ノ治療ヲ受クルノ猶豫ナクシテ死亡シタル者ハ醫師ノ檢案證書

一 妊娠四ヶ月以上ノ死胎ニ係ルキハ醫師若クハ產婆ノ死産證書

一 變死ニ係ルキハ立會醫師ノ檢案證書 但檢案官ノ檢印ヲ要ス

第十四條 戸長ハ前二條ノ届書證書ヲ領收スルニアラサレハ埋火葬ノ認許證ヲ與フヘカラス

第十五條 官署ノ執行ニ係ル死屍ノ埋葬又ハ火葬ハ認許證ヲ要セサルモノトス

二十年九月縣令第百號ヲ以テ改正ス

第十六條 改葬ヲ爲サント欲スルモノハ埋葬ノ年月日及其事由ヲ詳記シ戸長役場ヲ經テ所轄警察署又ハ分署ヘ出願スヘシ

第十七條 誌銘傳贊等ノ文ヲ刻スル碑標ヲ建設セントスル者ハ草稿及建設スヘキ事由等ヲ詳記シ戸長役場ヲ經由シ所轄警察署ヘ出願スヘシ 但死者ノ姓名族籍官位教養法號及生年死年月日並立者ノ姓名ヲ記スルニ止ル者ハ此限リニアラス

第十八條 墓地外ニ於テ碑標ヲ建設セントスル者ハ其地主連署地籍戸長ノ與印ヲ受テ前條ノ手續ニヨリ出願スヘシ

第十九條 墓地及火葬場ニハ必ス管理者ヲ置キ其住所姓名年齡等ハ所轄警察署又ハ分署及郡役所戸長役場ヘ届出ヘシ 但異動ヲ生シタルハ亦同シ

第二十條 管理者ハ墓地及火葬場ニ關スル一切ノ事ヲ管理スヘシ

第二十一條 管理者及其人員費用ハ其町村ニ於テ適宜之ヲ定ムヘシ

第二十二條 管理者ハ第十二條但書及第十五條ヲ除クノ外認許證ヲ領收スルニアラサレハ埋火葬ヲ爲サシムヘカラス

第二十三條 管理者ハ葬主ヨリ領收シタル認許證ヲ編纂シ三ヶ月毎ニ所轄警察署又ハ分署ノ檢閱ヲ受テ之ヲ戸長役場ヘ差出スヘシ

第二十四條 管理者ハ墓地ノ給圖及墓籍ヲ調整シ置クヘシ

第二十五條 第二條但書第五條第十條ニ違背シタル者ハ違警罪ノ刑トシ三日以上十日以下ノ拘留又ハ廿錢以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十六條 第三條第四條第十一條ニ違背シタル者ハ違警罪ノ刑トシ一日以上三日以下ノ拘留又ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス

第七十九 明治二十年四月九日

訓令第六十二號

郡役所 戶長役場

縣令第四十三號墓地及埋葬取締細則ハ已ニ公許ヲ與ヘタル墓地及火葬場ニ限リ適用スベキ儀ト心得ヘシ

第千八十 明治二十年八月二十日

訓令第二百二十九號

郡役所

新設ノ墓地及火葬場落成之上實地檢査ヲ遂ケ埋火葬ヲ許可シタルキハ其都度警察署又ハ分署ヨリ通報スヘキニ付舊來ノ場所ニ於テ埋火葬スルヲ禁止シ新設ノ場所ヲ使用セシムルノ取計ヲ爲スヘシ

第千八十一 明治十八年二月二十五日

乙第四十八號

郡役所

本縣ニ於テ火藥類賣買營業者ハ各郡一名宛別ニ廳下市街ニ二名ノ割合ヲ以テ免許可致候條爲心得此旨相達候事

第千八十二 明治十八年二月二十五日

警第三號

警察本署 警察署

本縣ニ於テ火藥類賣買營業者ハ各郡一名宛別ニ廳下市街ニ二名ノ割合ヲ以テ免許可致候條爲心得此旨相達候事

第千八十三 明治十八年三月六日

警第四號

警察本署 警察署

火藥取締規則取扱手續左ノ通相定候條此旨相達候事
火藥取締規則取扱手續

第一條

火藥類ニ關スル諸願伺届ハ意見ヲ附シ警察本署ニ進達スヘシ但警察署ニ於テ處分ヲ許サレタルモノハ此限ニアラス

第二條

火藥營業免許鑑札ハ左ノ離形ニ準シ警察署ニ於テ調製シ願書指令ヲ添ヘ郡役所ニ送致スヘシ

番號	烙印
火藥營業免許鑑札	名縣
年月日	

住所屬籍	姓	名
------	---	---

第三條

木製堅四寸横二寸五分 營業ノ停止ヲ受ケタルキハ鑑札ハ警察署ニ預リ置クヘシ又禁止ヲ受ケタルキハ鑑札ハ返納セシムヘシ

第四條

火藥類賣買又ハ運搬上ニ付不審ノ所爲アリト認ムルキハ一時差止メ置キ速ニ指揮ヲ乞フヘシ

第五條

本則第十條ニ依リ警察署ニ於テ渡スヘキ許可證ハ左ノ離形ニ準シ調製スヘシ

番號	住所屬籍
	姓
	名
	年
	齡

割 一種類 數量
 右ハ何處ニテ何々ニ使用スル爲メ火藥商何某ヨリ
 買受クル事ヲ許可スル者也
 富山縣
 何警察署印
 年月日

第六條 本則第二十二條ニ依リ警察署ニ於テ渡スヘキ許可證ハ左ノ離形ニ準シ調製スヘシ
 用紙厚紙堅六寸横八寸

番號 住所屬籍 姓名
 割 一種類 數量
 右ハ年月日何處出發(何府縣下何國ヲ經テ)何港ニ於テ船積シ(何海峽又ハ何
 港ヲ經テ)何埠ヲ廻リ(直航何河ヲ下リ又ハ湖リ)何府縣何國(郡區)番地何
 某方ニ運搬スル事ヲ許可スル者也
 富山縣
 何警察署印
 年月日

二十二年二月
 訓令第三十二
 號ヲ以テ本條
 ヲ改正ス

第七條 本則第二十二條末段ニ依リ他警察署ニ於テ下付シタル許可證ヲ受取タルキハ其到着ヲ證
 スル爲メ之ヲ該警察署ヘ返付スヘシ
 第八條 本則第三十條ニ該當スヘキモノハ意見ヲ付シテ申報スヘシ
 第九條 本則第七條第十二條ニ依リ火藥免許商ヨリ届出タル種類數量等ハ隨時現品ヲ檢査シ左ノ
 様式ニ倣ヒ毎半年表ヲ製シ一月七月二十日限リ警察本部ヘ差出スヘシ
 (様式)

自明治何年一月
 至同年六月 火藥免許商何某火藥類賣買表

何警察署

種類	何年 ヨリ	何年		何年 へ
		下半年	越年	
火藥	管	買入高	賣却高	越年
雷				
ピストル用 彈藥				

第千八十四 明治十八年五月一日

甲 第二十六號

畜犬ニハ其主ノ住所姓名ヲ詳記シタル頸環又ハ札ヲ附ケ置クヘシ
 右布達候事

第千八十五 明治十九年三月二十六日

第十五類 行政警察

甲 第二十三號

新聞紙雜誌雜報類ヲ發行所發賣所發賣人ヨリ受買セントスル者ハ族籍住所氏名及新聞紙ノ種類買受先等ヲ詳記シ創業三日前從前ノ受買者ハ四所轄警察署ヲ經由届出ヘシ其届面ニ變換ヲ生シ又ハ廢業シタルキ亦同シ若シ之ニ違背シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

右布達候事

第千八十六 明治十七年八月二十六日

甲 第九十六號

消防組取締規則別紙ノ通更定ス 但明治十五年石川縣甲百三十番布達ハ自今適用セス且從前設立ノ分ト雖モ本文ニ依リ更ニ届出ヘシ

右布達候事

(別紙) 消防組取締規則

- 第一條 消防組ヲ設立セントスルモノハ組頭及ヒ小頭ヲ撰舉シ別紙書式ニ依リ所轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ其組頭小頭ヲ改撰シ及組員ノ出入アリタルキ亦同シ
- 第二條 消防組ハ其消防ノ事ニ關シテハ常ニ警察官ノ指揮監督ヲ受クヘシ
- 第三條 消防組ハ左ノ器械ヲ備フヘシ
 - 一 唧筒并ニ屬具 若シ之レナキハ
 - 一 目印アル旗若クハ纒
 - 一 高張提灯
 - 一 竈口

二十二年一月
縣令第十四號
ヲ以テ本條ヲ
加除ス

第四條 消防器械ハ豫テ定ムル場所ニ置キ出火ノ際ハ組員直ニ該所ニ集合出場スヘシ 但近傍出火等ニ時ハ直ニ現場ニ駆付ヘシ

- 第五條 出火場へ出張ノ際及退散ノ節ハ組合中離散セサル様注意シ且往來ノ妨ト爲ルヘカラス
- 第六條 組頭已下出火場ニ至ラハ直ニ出張警察官ニ到着ヲ届ケ其指圖ニ從フヘシ
- 第七條 延焼ヲ防ク爲メ出火場近傍ノ家屋又ハ牆壁ヲ倒ス等ハ都テ警察官ノ指揮ニ從フヘシ
- 第八條 出火場へ出張ノ者ハ目印アル輕便ナル筒袖ヲ着スヘシ
- 第九條 他組ノ消口ニ消札ヲ建テ又ハ恣ニ水ノ手ヲ占メ他組ノ便ヲ妨クル等ノ事ヲ爲スヘカラス
- 第十條 此規則ニ違背シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

- 第十一條 消防組ハ年齡滿二十歲以上五十歲以下ニシテ身體強壯ナル者ヲ以テ設立スヘシ 但五十歲以上者ハ身體強壯ニシテ消防ニ習熟シタル者ハ該條ノ上認可スルヲアルヘシ
- 第十二條 既ニ認可ヲ受ケタルモノト雖モ警察官ニ於テ不適當ト認ムルキハ組員ノ除名又ハ役員ノ改撰ヲ命スルヲアルヘシ
- 第十三條 消防ニ盡力シ爲メニ死傷シタルモノアルキハ現場ニ於テ組頭ヨリ出張警察官ニ申告スヘシ
- 第十四條 組頭ニ於テ其組員拔群ノ働ヲ爲シタルモノヲ認ルキハ出張警察官ニ申告シ置キ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

(書式)

消防組設立御届

第十五類 行政警察

消防組取締規則ヲ遵守シ何郡何町村何誰外何名ニテ別記ノ器械ヲ備ヘ組頭及ヒ小頭ヲ撰舉シ消防組ヲ設立致度候間御認可被下度候也

明治何年何月何日

何郡何町村何番地族籍
設立人總代 何ノ誰 印

縣 令 宛

組員及器械調書

一 唧筒

何 挺

大中小形幾輪車

内部何々

外部何製

吸管長サ何丈何尺

水管長サ何拾何間

水勢何間何尺

布桶幾個

梯 幾個

斧 幾個

籃 幾個

全量何拾何貫目

取扱夫幾名

一 龍吐水

何 挺

大中小形

水勢何間何尺

水桶幾個

取扱夫幾名

一 梯子

一 旗若クハ繩其章ヲ詳記スヘシ

一 高張提灯全上

一 鳶口

一 筒袖其章ヲ詳記スヘシ

組合町村名

何々

消防組人名

何郡何町村族籍

組頭 何

某 年 齡

全上

小頭 全

全上

全上

組員

全

全上

第千八十七

明治二十年三月二十八日

告示第三十九號

富山縣廳富山市中其他出火ノ節信號鐘打方點數本年四月一日ヨリ左ノ通相定ム

一縣廳監獄及ヒ近傍ハ

五點ツ、

一富山市中ハ

三點ツ、

一同市外ハ

壹點ツ、

第千八十八

明治二十年四月二十八日

縣令第四十八號

火災豫防ノ爲家屋制限左ノ通相定ム

上新川郡及婦負郡富山市街並ニ右市街ニ接續スル村

一國道及防火線ノ兩側並防火線内ニ孕メル町村ノ家屋納屋等ノ家根ハ明治二十年七月ヨリ明治二十五年七月迄ノ内瓦葺ニ改修スヘシ

一前項ノ外ニ係ル一般ノ家屋納屋等ノ家根ハ明治二十年七月ヨリ明治三十年七月迄ノ内瓦葺ニ改修スヘシ

一總テ土藏ノ家根ハ明治二十年七月ヨリ明治二十三年七月迄ノ内瓦葺ニ改修スヘシ

一新ニ建築スル家屋土藏納屋等ノ家根ハ前各項ノ年限ニ係ハラズ總テ瓦葺ニ爲スヘシ

一家屋土藏納屋等ノ家根ヲ瓦葺ニ爲スルハ同時ニ周圍ノ壁土ヲ厚サ二寸以上ニ爲スヘシ

一家屋土藏納屋等周圍ノ壁ハ板ヲ除ク外蕙菰杉皮等ノ燃質物ヲ以テ覆フヲ得ス但本文ノ燃質物ヲ以テ從來覆フ爲シタルモノハ本年七月限取除クヘシ

第千八十九

明治二十一年二月九日

訓令第二十七號

今般第一號ヲ以テ火災消防ノ義及告諭候ニ付テハ其必要ノ趣旨ヲ貫徹セシメ其土地ノ須要ニ依リ可成豫備充實候様謀ラルヘシ

第千九十九

明治十九年五月十二日

甲 第四十號

貸座敷及娼妓營業取締規則別紙ノ通創定シ六月一日ヨリ施行ス但明治十五年石川縣甲九十八番同甲九十九番日ヨリ適用セズ

右布達ス

(別紙)

貸座敷娼妓取締規則

第一章 總則

第一條 貸座敷及娼妓營業ヲ免許スルハ左ノ區域内ニ限ルヘシ

一上新川郡富山櫻木町

一同郡富山北新町

一同郡東岩瀬中町

一同郡滑川常盤町ノ内字新屋敷

一下新川郡魚津(新屋町)(田方)ノ内字馬場

一同郡魚津鴨川町

- 一 射水郡高岡新横町
- 一 同郡高岡下川原町
- 一 同郡氷見本川町
- 一 同郡伏木玉川町
- 一 同郡新湊放生津立町
- 一 礪波郡杉木新村ノ内字 東新地 新町
- 一 同郡福町村字川岸丁

第二條 貸座敷營業ヲ爲サントスル者ハ其免許地取締人及ヒ戸長ノ與印ヲ受ケタル書面ヲ以テ所轄警察署ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ娼妓營業ヲ爲サントスル者ハ檢査所ニ於テ身跡ノ檢査ヲ受ケ父母及ヒ最近親戚ノハ陪カナル保證人 父母及最近親戚ナキモ 二名以上連署シタル書面ニ其免許地取締人及ヒ戸長ノ與印ヲ受ケ戸籍寫健全證書ヲ添ヘ前項ノ手續ニ依リ免許鑑札ヲ受クヘシ

第三條 應業シタルルキハ取締人及ヒ戸長ノ與印ヲ受ケタル書面ヲ以テ所轄警察署ニ届出鑑札ヲ返納スヘシ

第四條 免許鑑札ヲ遺失毀損シタルカ又ハ轉住改氏名代換等ノ節ハ前條ノ手續ニ依リ其再渡又ハ書換ヲ乞フヘシ

第五條 各免許地ニハ取締所ヲ設置スヘシ

第六條 一貸座敷營業人ハ同業者中ヨリ正副取締人各一名ヲ撰定シ所轄警察署ヘ届出認可ヲ受クヘシ

第七條 取締人タルヲ得ヘキモノハ滿二十年以上ノ男子ニ限ルヘシ

第八條 取締人其任ニ適セスト認ムルルキハ改撰セシメ又ハ指名シテ之ヲ命スルコトアルヘシ

第九條 取締人ハ貸座敷及ヒ娼妓ノ取締ヲナシ且時々ノ令達人相觸等ヲ營業人ニ回達シ違背ノモノナキ様常ニ注意スヘシ

第十條 取締所ニハ貸座敷及ヒ娼妓ノ名簿ヲ備置キ其本籍身分氏名年齢及ヒ免許ノ年月日等ヲ詳記シ異動アル毎ニ訂正スヘシ

第十一條 取締所ニ關スル一切ノ費用ハ營業人ノ協議ヲ以テ收支スヘシ

第十二條 娼妓ノ揚代ハ其免許地内協議ノ上之ヲ定メ取締人ヨリ所轄警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ其變更シタルルキ亦同シ

第十三條 遊客中人相觸ニ符合若クハ類似スルカ又ハ不相應ノ金錢財物ヲ所持シ其他不審ノ事アルルキハ娼妓ニ在テハ貸座敷主ニ貸座敷主ニ在テハ速ニ警察官又ハ巡査ニ密告スヘシ

第十四條 貸座敷營業人ハ左ノ雛形ノ看板ヲ製シ所轄警察署又ハ分署ノ檢印ヲ受ケ之ヲ店頭ニ掲ケ夜中ハ標燈ヲ點スヘシ 但廢業シタルルキハ消印ヲ受クヘシ

貸 座 敷

何郡何町番地

何 某

九 寸

第十五條 凡ソ娼妓ト契約ヲ爲サントスルルキハ契約書ヲ作り調印前所轄警察署ノ檢閱ヲ受クヘシ

第十六條 娼妓ヲ遇スルニハ誠實ヲ旨トシ且力メテ正業ニ就カシムル様注意シ聊タリヒ贅費ヲ爲サシムヘカラス

廿一年八月廿五日
令第九十五號
ヲ以テ第五十七條
下條ヲ削除シテ以テ
二十年八月廿七日
令第八十七號
ヲ以テ第五十七條
改正ス

第十七條 娼妓其規則ニ背キ及ヒ約束ニ違フ者アルキハ所轄警察署ニ届出其處分及ヒ指圖ニ從フ
ヘシ貸座敷主ニ於テ妄リニ苛酷ノ所置ヲ爲スヘカラス

第十八條 娼妓轉寓若クハ廢業セントスルキハ當然ノ理由ナクシテ故障スヘカラス

第十九條 娼妓ニ店ヲ張ラセ又ハ通行人ニ遊興ヲ勸ムルコトヲ許サス

第二十條 酒肴其他遊客ノ需メサル者ヲ出シ又ハ強ル等ノコトアルヘカラス

第二十一條 免許鑑札ヲ所持セサル婦女ニ娼妓ニ紛ラハシキ所業ヲナサシムヘカラス

第二十二條 貸座敷營業人ハ遊客人名簿ヲ備置キ遊客ノ住所氏名年齢遺拂金額及ヒ遊興ノ時間并ニ
招カレタル藝娼妓ノ氏名等ヲ詳記シ臨時警察官ノ檢閲ニ供スヘシ但三日以上流連スル者ハ所轄
警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第二十三條 遊興費ノ抵償トシテ遊客ノ衣類其他ノ物品ヲ受取り又ハ賣却質入等ノ周旋ヲ爲スヘカ
ラス但止ムラ得サル場合ニ於テハ警察
官若クハ巡查ノ認可ヲ受クヘシ

第二十四條 娼妓ノ健康ニ注意シ黴毒其他疾病アリト認ムルキハ速ニ醫師ノ診斷ヲ受ケシムヘシ若
シ黴毒ニ感染シタルキハ營業ヲ爲サシムヘカラス

第二十五條 親族知人雇人其他何等ノ者ト雖モ三日以上寄寓セシムルキハ其住所氏名年齢ヲ詳記シ
所轄警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ

第二十六條 營業上ニ就テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖モ營業主其責ニ任スヘシ

第二十七條 十五年未滿ノ者ハ娼妓營業ヲ許サス

第二十八條 娼妓ハ貸座敷ニ住居若クハ寄留スヘシ且其營業ハ貸座敷内ニ限ル

娼妓專業者ニシテ藝妓類似ノ所作ヲ爲シ及ヒ止テ得サル事故アリテ自用ヲ辨スルノ外免許地外
ニ出ルコトヲ得ス

第三章 娼妓

第二十九條 遊客ヨリ金錢其他ノ物品ヲ預リ又ハ貰受ケタルキハ速ニ貸座敷主ニ告知スヘシ

第三十條 客席ニ出ルキハ營業免許鑑札并ニ檢讞所ノ健全證書ヲ携帯スヘシ

第三十一條 貸座敷主ニ於テ當然ノ理由ナクシテ轉寓又ハ廢業ヲ故障シ其他苛酷ノ處置アルキハ
直ニ警察官又ハ巡查ニ訴告スルコトヲ得

第三十二條 黴毒ニ感染シタリト覺知スルキハ速ニ貸座敷主ニ告知シテ檢讞署ノ檢査ヲ受クヘシ

第四章 賦金

第三十三條 貸座敷營業ハ一月金貳圓五拾錢ヲ賦課ス

第三十四條 娼妓營業ハ一ヶ月金壹圓五拾錢ヲ賦課ス

第三十五條 賦金ハ其月五日限リ所轄警察署又ハ分署ヘ納入スヘシ

第三十六條 賦金ハ十五日前後ノ創廢ヲ以テ全額ト半額トヲ區分徵收スルモノトス但五日以後ニ創業
タルモノハ半月分ノ賦金ヲ返付ス

第三十七條 娼妓黴毒ニ感染シ停業シタルキハ其日數ニ應シ賦金ヲ免除ス

第五章 罰則

第三十八條 此規則ニ違背シタルモノハ刑法第四百二十七條第八項ニ依リ處分セラレヘシ

前項ノ處分ヲ受ケタルモノ及ヒ賦金ノ納期ヲ怠リタル者ハ營業ヲ停止又ハ禁止スルコトアルヘシ

第九十一號 明治十九年五月二十八日

警察本署 警察署 同分署

貸座敷娼妓取締規則取扱心得別紙之通相定ム

右相違ス

(別紙)

第十五類 行政警察

二七七

二十一年八月廿五日
令第九十五號
ヲ以テ第五十七條
下條ヲ削除シテ以テ
二十年八月廿七日
令第八十七號
ヲ以テ第五十七條
改正ス

第十七條 娼妓其規則ニ背キ及ヒ約束ニ違フ者アルキハ所轄警察署ニ届出其處分及ヒ指圖ニ從フ
ヘシ貸座敷主ニ於テ妄リニ苛酷ノ所置ヲ爲スヘカラス

第十八條 娼妓轉寓若クハ廢業セントスルキハ當然ノ理由ナクシテ故障スヘカラス

第十九條 娼妓ニ店ヲ張ラセ又ハ通行人ニ遊興ヲ勸ムルコトヲ許サス

第二十條 酒肴其他遊客ノ需メサル者ヲ出シ又ハ強ル等ノコトアルヘカラス

第二十一條 免許鑑札ヲ所持セサル婦女ニ娼妓ニ紛ラハシキ所業ヲナサシムヘカラス

第二十二條 貸座敷營業人ハ遊客人名簿ヲ備置キ遊客ノ住所氏名年齢遺拂金額及ヒ遊興ノ時間并ニ
招カレタル藝娼妓ノ氏名等ヲ詳記シ臨時警察官ノ檢閲ニ供スヘシ但三日以上流連スル者ハ所轄
警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第二十三條 遊興費ノ抵償トシテ遊客ノ衣類其他ノ物品ヲ受取り又ハ賣却質入等ノ周旋ヲ爲スヘカ
ラス但止ムラ得サル場合ニ於テハ警察
官若クハ巡查ノ認可ヲ受クヘシ

第二十四條 娼妓ノ健康ニ注意シ黴毒其他疾病アリト認ムルキハ速ニ醫師ノ診斷ヲ受ケシムヘシ若
シ黴毒ニ感染シタルキハ營業ヲ爲サシムヘカラス

第二十五條 親族知人雇人其他何等ノ者ト雖モ三日以上寄寓セシムルキハ其住所氏名年齢ヲ詳記シ
所轄警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ

第二十六條 營業上ニ就テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖モ營業主其責ニ任スヘシ

第二十七條 十五年未滿ノ者ハ娼妓營業ヲ許サス

第二十八條 娼妓ハ貸座敷ニ住居若クハ寄留スヘシ且其營業ハ貸座敷内ニ限ル

ニ係ルキハ速ニ所轄分署ニ通知スヘシ

第八條 鑑札ノ書換又ハ再渡ハ左ノ手續ニ從フヘシ

一 鑑札ノ毀損又ハ改氏名及ヒ一區域内ノ轉住ニ付書換ヲナスキハ最初ノ番號ヲ用ヒ年月日書換ト記スヘシ

二 鑑札ヲ遺失シ其再渡ヲナスキハ新番號ヲ用ヒ年月日再渡ト記スヘシ

三 甲警察署ニ於テ許可シタル者乙警察署所轄内ヘ轉住シテ鑑札ノ書換ヲ願出タルキハ乙警察署ニ於テハ甲警察署ニ照會ノ上書換ノ手續ヲ爲スヘシ

第九條 取締人ヲ撰定シ届出タルキハ被撰人ノ爲人及ヒ身元并ニ同業者ノ信用如何ヲ調査シ適當ノ者ハ認可ノ手續ヲ爲スヘシ若シ認可スヘカラスト思量スルキハ其事由及ヒ改撰又ハ指名特撰ノ意見ヲ具シ警部長ノ指揮ヲ受クヘシ

第十條 營業ニ關スル時々ノ令違人相觸等ハ取締人ニ達シ速ニ同業者ニ回達セシムヘシ

第十一條 取締所ヘハ臨時出張シテ取締所ニ關スル費用ノ收支簿ヲ檢閲シ費費ナカラシムルニ注意スヘシ

第十二條 貸座敷看板ノ檢印ヲ申出タルキハ貸座敷トアル下ニ警察署又ハ分署名ノ烙印ヲ捺スヘシ

第十三條 規則第十五條ニ依リ契約書ノ檢閱ヲ願出タルキハ双方ヲ推問シ若シ事實ト契約ノ旨趣ト相違スルキハ相當ノ取扱ヲナシ不都合ナシト認ムルモノハ適宜ノ場所ニ閱了ト書シ主任官檢印ヲ捺スヘシ

第十四條 貸座敷ヘハ便宜臨檢シ遊客人名簿ノ點檢ヲナシ若シ怪シムヘキ廉アルキハ相當ノ手續ヲナスヘシ

第十五條 規則第二十三條但書ニヨリ申出タルキハ篤ト取調ヘ双方ニ於テ異議ナキキハ認可ヲ與フヘシ

第十六條 規則第廿五條ニ依リ届出タルキハ寄寓スル婦女ノ舉動ニ注意シ事宜ニ依リ呼出シ其事實ヲ推問スルコアルヘシ

第十七條 規則第三十二條ニ依リ訴告アリタルキハ双方ヲ聞取リ相當ノ置處ヲナスヘシ

第十八條 規則第三十九條ニ此規則ニ違背スルモノトアレハ第一條第五條第六條第七條第八條第十一條第廿六條第廿七條第廿八條第三十二條第四章各條ハ過料又ハ苦使ニ處分スルノ限ニアラス

第十九條 營業ノ禁停止ヲナスヘキモノト認ムルキハ其情狀ヲ詳具シ警部長ノ指揮ヲ受クヘシ但シ金ノ納期ヲ怠リタルモノハ直ニ停止ノ處分ヲナシ警部長ニ具申スヘシ

第二十條 苦使ニ處シタルキ富山警察署ハ監獄本署ニ送致シ其他ハ警察署ニ於テ執行スルモノトス

第廿一條 營業種類人名ヲ記シタル根帳(第一號)ヲ調製シ創廢業其他身上ノ異動及ヒ賦金收受ノ都度記入スヘシ但根帳ハ毎會計年度

第廿二條 賦金ノ收受ハ營業者ヨリ上納證(第二號)ヲ差出サセ之レテ證憑トシ簿冊ニ登記シ後予領收ノ證(第三號)ヲ付與スヘシ但分署ニ於テ收受シタルキハ假ニ領收證ヲ付與シ置キ現金ハ速

第廿三條 收受シタル賦金ハ毎月十日限リ取纏メ納證書(第四號)ヲ作り縣廳ヘ送納スヘシ但定期徴收ニ本文ノ手續ヲナスヘシ

第廿四條 規則第三十八條ノ場合ニ於テ賦金免除ニ係ル者ノ中其月初日ヨリ休業シ徴收期日ヲ過ルモ猶復業セサルモノハ退テ復業ノ日ニ於テ休業中ノ日數ニ應スル賦金ヲ免除差引徴收スヘシ

第二十一條 第四月
第二十二條 第七月
第二十三條 第十月
第二十四條 第十三月
第二十五條 第十六月
第二十六條 第十九月
第二十七條 第二十二月
第二十八條 第二十五月
第二十九條 第二十八月
第三十條 第三十一月
第三十一條 第三十四月
第三十二條 第三十七月
第三十三條 第四十月
第三十四條 第四十三月
第三十五條 第四十六月
第三十六條 第四十九月
第三十七條 第五十二月
第三十八條 第五十五月
第三十九條 第五十八月
第四十條 第六十一月
第四十一條 第六十四月
第四十二條 第六十七月
第四十三條 第七十月
第四十四條 第七十三月
第四十五條 第七十六月
第四十六條 第七十九月
第四十七條 第八十二月
第四十八條 第八十五月
第四十九條 第八十八月
第五十條 第九十一月
第五十一條 第九十四月
第五十二條 第九十七月
第五十三條 第一百月

第二號

記

一金 圓
右相納候也

何月分賦金(全半額)又ハ何日分

何郡町村

娼妓(貸座敷)

何 某印

年月日

何警察署宛

第三號

乙第何號

納先

某

其動

要

一金 圓

但何月分賦金(全額半額)何日分

明治十何年何月何日收入

主任

印

署長
官印

甲

第何號

納先

某

第四號

證

一金何程主任印以下同

內譯 (追納證書ノ内譯モ本文ニ準ス)

何月分賦金

娼妓賦金

金 圓 內

內何町村

全額幾人分

金 圓 內

內何町村

何人

半額幾人分

金 圓 內

何人

日割幾人分

明治十何年何月何日

富山縣何警察署長

官 姓 名

印

一金 圓 主任

但何月分賦金(全半額)何日分

右正ニ受取候也

第二號

記

一金 圓
右相納候也

何月分賦金(全半額)又ハ何日分

何郡町村

娼妓(貸座敷)

何

某印

何警察署宛

年月日

第三號

乙第何號

納先

某

一金 圓

但何月分賦金(全額半額)何日分

明治十何年何月何日收入

主任

印

署長
官印

甲第何號

納先

某

第四號

證

一金何程主任印以下同シ

何月分賦金

金 圓

内譯 (追納證書ノ内譯モ本文ニ準ス)

娼妓賦金

金 圓

内

全額幾人分

何人

内何町村

何人

半額幾人分

何人

内何町村

何人

金 圓

日割幾人分

右正ニ受取候也

一金 圓 主任

但何月分賦金(全半額)何日分

明治十何年何月何日

富山縣何警察署長

官 姓 名

印

同
何日創業何日ヨリ何日マテ何々

同
免 除 幾 人

○ 毒治療中ニ付本月分免除

右ノ通相違無之ニ付此段及御届候也

何警察署長

官 姓 名 印

年 月 日
縣 令 宛

記載例

○ 營業額ノ欄内ニ記入スヘキモノハ前月來營業額キニシテ賦金全額ヲ納ルモノニ限ル
○ 日割賦課スヘキモノハ每一人別野ニ掲ケ可成詳細ノ事項ヲ備考ニ朱記スヘシ

第六號ノ内

明治何年度何月分貸座敷異動表

町 村 名	種 別	人 員
何 町 村	營 業 績	幾 人
同	十五日前創業	同

同
十六日後創業
同

同
十五日前廢業
同

同
十六日後廢業
同

右ノ通相違無之ニ付此段及御届候也

何警察署長

官 姓 名 印

年 月 日
縣 令 宛

第千九十二 明治十九年六月十五日

警 第五十八號

警 察 署

貸座敷營業者ニ於テ同盟規約ヲ設ルモノハ其署ニ届出サシメ取調ノ上不都合ノ廉アリト認ムルハ
ハ警部長ニ稟議シ訂正致サセ候様取計フヘシ

右相違ス

第千九十三 明治二十一年六月十九日

達 第四百十六號

射 水 郡 役 所

其郡内氷見本川町貸座敷免許地ハ明治十九年甲第四十號ヲ以テ相定候處今般詮議之上所轄警察署
ニ於テ免許地區域へ標本ヲ建設セシメ區畫相定候條此旨心得ヘシ

第千九十四 明治二十一年六月十九日

達 第四百十七號

高 岡 警 察 署

其署所轄内氷見本川町免許地ハ明治十九年甲第四十號ヲ以テ相定候處今般詮議之上該免許地區域

ハ其署本年四月十六日署收第一〇九號上申之通り相定候條標本ヲ建テ區畫ヲ爲シ自今該區畫内ニ限リ營業許可スヘシ就テハ右區畫外ニアル營業者ハ年月ヲ限リ移轉候様相達スヘシ

第千九十五 明治十九年五月十三日

甲 第四十一 號

藝妓營業取締規則左ノ通更定シ六月一日ヨリ施行ス但明治十五年石川縣甲四十二番布達其他本文ニ照應スル等ハ自今適用セズ

藝妓營業取締規則

第一條 藝妓營業ヲ爲サントスル者ハ親戚(親戚ナキ者ハ保證人)連署(署名アルモノ)所轄警察署又ハ分署ニ願出

第二條 免許鑑札ヲ毀損遺失シ又ハ轉住改氏名等ヲナシタルハ速ニ所轄警察署又ハ分署ヘ願出 其再渡又ハ書換ヲ乞フヘシ

第三條 出稼セントスルハ前條ノ手續ニ從ヒ届出認可ヲ受クヘシ但一ヶ月以上ニ涉ルモノハ第二條ノ手續ニ從ヒ書換ヲ乞フヘシ

第四條 廢業シタルハ第二條ノ手續ニ從ヒ其届出免許鑑札ヲ返納スヘシ

第五條 客席ニ出ルハ必ス免許鑑札ヲ携帯スヘシ

第六條 遊客中不相應ノ財物ヲ所持スルカ其他不審ト認ムル廉アルハ本人ニ差響カサル様速ニ警察官又ハ巡查ニ密告スヘシ

第七條 此規則ニ違背シタルモノハ一日以上十日以下ノ拘留又ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第千九十六 明治二十二年一月三十一日

訓令 第二十六 號

警察署 警察分署

警察署分署ノ頭字

何第 號

木一

藝妓免許鑑札

製寸

二寸三分

富山縣

何國郡町村番地何々

何 某

年 某

日 某

月 某

免許(書換)(再渡)

警察署分署ニハ營業人名簿ヲ製シ異動アル毎ニ訂正ス

第三條 鑑札ヲ書換又ハ再渡シタルハ鑑札ノ裏面年月日ノ下ニ再渡又ハ書換ト記スヘシ

第四條 出稼ヲ認可シタルハ其氏名鑑札番號等速ニ出稼地ノ警察署又ハ分署ヘ通報スヘシ

第五條 甲警察署又ハ分署ニ於テ許可シタルモノ乙警察署又ハ分署所轄内ヘ轉住シテ鑑札ノ書換ヲ願出タルハ最初許可シタル免許鑑札ヲ證トシ書換ヲナシテ下附スヘシ

第六條 創廢業又ハ身上ノ異動アリタルハ其都度所轄郡役所ヘ通報スヘシ

第千九十七 明治十九年五月二十一日

甲 第四十七 號

庶務取締規則左ノ通相定メ明治十六年甲第三十八號布達ヲ以テ規定シタル市街地ニ於テ施行ス

明治二十一年八月十六日署令第九十六號ヲ以テ改正シ第一條中ヲ加除シ第八條ヲ刪除ス

右布達ス

塵芥取締規則

- 第一條 一町村又ハ數町村共同ニテ塵芥投棄場ヲ設置スヘシ但土地ノ状況ニ依リ甲町村ノ一部ト乙町村ノ一部ト聯合シテ塵芥投棄場ヲ設置スルヲ得
 - 第二條 塵芥投棄場ハ郊外飲料水ニ支障ナキ地ヲ撰ミ所轄戸長ヨリ其場ノ圖面ヲ添ヘ縣廳ヘ申出認可ヲ受クヘシ
 - 第三條 塵芥投棄場ニハ何々(市街)(町村)(町村外幾町村)塵芥投棄場ト書シタル標木六尺以上三寸以上ヲ建ツヘシ
 - 第四條 各戸ノ邸内ハ時々掃除ヲ爲シ塵芥ヲ散亂セシム可ラス
 - 第五條 各戸ノ塵芥ハ邸内適宜ノ場所ニ溜置キ少ナクモ一週間ニ一回投棄場ニ運搬スヘシ
 - 第六條 魚鳥獸類ノ骨腸腐肉其他惡臭ヲ發スル汚穢物ハ毎日投棄場ニ運搬スヘシ
 - 第七條 塵芥運搬ノ方法ハ町村ノ協議ヲ以テ別ニ定ムヘシ
 - 第八條 塵芥運搬器ハ臭氣又ハ汚穢物ノ洩レ落チサル様蓋ヲ設クヘシ
 - 第九條 投棄場ノ塵芥堆積スルハ之ヲ焼却スヘシ但肥料ニ供スルモ此限ニアラス
 - 第十條 塵芥運搬及ヒ投棄場ニ關スル事ハ戸長役場ニ於テ管理シ其費用ハ該町村ノ負擔タルヘシ
 - 第十一條 此規則ニ違背シタルモノハ違警罪ノ刑ニ處セラルヘシ
- 第一千九十八 明治十九年五月二十一日
- 甲 第四十八號
- 溝渠取締規則左ノ通相定メ明治十六年甲第三十八號布達ヲ以テ規定シタル市街地ニ於テ施行ス右布達ス
- 溝渠取締規則

- 第一條 此規則ニ於テ溝渠ト稱スルハ地先ノ下水路共同ノ惡水路及ヒ各戸構内ノ排水路ヲ總稱ス
- 第二條 街路ニ沿タル地先ニハ下水路ヲ開鑿スヘシ
- 第三條 一町村又ハ數町村共同ニテ惡水路ヲ開鑿スヘシ
- 第四條 各戸構内ニハ排水路ヲ開鑿スヘシ
- 第五條 溝渠ノ幅員淺深ハ別ニ制限ヲ定メスト雖モ若シ汚水溜滞ノ虞アリト認ムルハ特ニ指定スルヲアルヘシ
- 第六條 溝渠ハ石又ハ煉瓦石及ヒ漆喰ヲ以テ構造シ汚水ノ浸潤ヲ防クヘシ但場所ニ依リ木材ヲ用
- 第七條 溝渠ニハ可成蓋ヲ設クヘシ但場所ニ依リ特ニ指定スルヲアルヘシ
- 第八條 溝渠ヲ毀損シ又ハ壅塞スヘカラス
- 第九條 溝渠ニハ冰雪塵芥其他何等ノ物ト雖モ一切投棄スルヲ許サス
- 第十條 溝渠破損シタルハ速ニ修理スヘシ
- 第十一條 各戸構内ノ排水路ハ毎月一回以上浚渫スヘシ
- 第十二條 地先下水路及ヒ共同ノ惡水路ハ毎年二回(四月、五月ノ間)其流域ニ係ル町村一齊ニ浚渫シ土砂塵芥等壅塞スルハ臨時浚渫スヘシ但傳染病流行ノ兆アルハ特ニ浚渫ヲ命スルヲアルヘシ
- 第十三條 前條浚渫ノ期日ハ郡長之ヲ定メ其流域ニ係ル町村戸長ニ達シ豫メ浚渫ノ準備ヲナサシメ其期日ヲ所轄警察署又ハ分署ニ通知スルモノトス
- 第十四條 浚渫ノ當日ハ警察官吏町村吏派出シテ指揮監督スルモノトス
- 第十五條 浚渫ノ場ケノ淤泥等ハ郊外適宜ノ箇所ヘ取片付クヘシ
- 第十六條 溝渠ニ關スル事ハ戸長役場ニ於テ管理シ其費用ハ該町村ノ負擔タルヘシ但各戸構内排水路ニ關スル費用ハ現住者ノ負擔トシ其他家ニ係ルモノハ家主ノ負擔トス

第十七條 地先下水路及ヒ共同恐水路ヲ新設又ハ改造セントスルハ所轄戸長ヨリ其場ノ圖面ヲ添へ縣廳ニ申出認可ヲ受クヘシ

第十八條 既設ノ溝渠ニテ其構造此規則ニ抵觸スルモノハ速ニ改造スヘシ

第十九條 此規則ニ違背シタルモノハ違警罪ノ刑ニ處セラルヘシ

第千九十九 明治十九年五月二十一日

甲 第四十九號

街頭便所取締規則左ノ通相定メ明治十六年甲第三十八號布達ヲ以テ規定シタル市街地ニ於テ施行ス
右布達ス

街頭便所取締規則

第一條 街頭ニハ適宜便所ヲ設置スヘシ

第二條 街頭便所ノ位置ハ飲用水ニ支障ナキ地ヲ撰ミ左ノ各項ニ準據シ構造スヘシ

一 糞尿壺ハ陶器又ハ油樽或ハ厚板ヲ用井之ヲ土中ニ裝置シ其周圍ハ板又ハ漆喰ヲ以テ製作シ周邊ヲ高クシ排泄物ヲシテ壺中ニ能ク流下セシムルヲ要ス

二 便所内面糞尿壺ニ近キ處ハ漆喰又ハ板石ヲ以テ圍フヘシ

三 外圍ハ板又ハ壁ヲ以テ高六尺以上間口六尺奥行三尺許ニ構造シ屋根ヲ覆ヒ人家ノ前面ヲ避ケ道路ヲ背ニス可シ但シ附著スヘシ

四 大便所ニハ必ス戸ヲ設ケ且踏板ト糞壺ノ距離ハ二尺以上ヲ要スヘシ

第三條 便所ノ掃除糞尿ノ汲取ハ請負人ヲ定メ其住所氏名ヲ記シタル標札ヲ便所ニ釘付スヘシ

第四條 糞尿ハ溜滯セサル様豫メ期日ヲ定メ早朝ニ汲取ヲナサシムヘシ

第五條 便所ノ内外ハ少ナクモ隔日ニ一回必ス清潔ニ掃除セシメ破損所アレハ速ニ修繕ヲ加ヘ常ニ臭氣ノ發散セサル様注意スヘシ

第六條 暑中及ヒ傳染病流行ノ際ハ汲取掃除共其時日ヲ指定スルヲアルヘシ

第七條 前條ノ場合ニ於テハ大小便所共日々防臭劑又ハ石炭酸水等ヲ撒布スヘシ

第八條 街頭便所ニ關スル事ハ戸長役場ニ於テ管理シ其費用ハ該町村ノ負擔タルヘシ

第九條 街頭便所ヲ新設又ハ改造セントスルハ所轄戸長ヨリ其場ノ圖面ヲ添へ縣廳へ申出認可ヲ受クヘシ

第十條 既設ノ便所ニシテ其構造此規則ニ抵觸スルモノハ速ニ改造スヘシ

第 千 百 明治十九年六月三十日

甲 第六十七號

湯屋營業取締規則別紙之通相定メ本年九月一日ヨリ明治十六年甲第三十八號布達ヲ以テ規定シタル市街地ニ施行ス但シ從前ノ湯屋營業者ニシテ第三條第六項ヲ遵守スル能ハサル事情アルモノハ所轄警察署分署へ届出認可ヲ受クヘシ

(別紙)

湯屋營業取締規則

第一條 此規則ニ於テ湯屋營業ト稱スルハ洗湯、鐵泉源泉原地ハ含有セズ、藥湯、潮湯、等ヲ開設シテ人ヲ入浴セシムル營業ヲ云フ

第二條 湯屋營業ヲ爲ス者ハ賦稅其他ノ法規ヲ遵守スルノ外尙左ノ各條ヲ遵守スヘシ

第三條 湯屋ノ構造ハ左ノ各項ニ據ルヘシ但シ源泉湯等ニシテ第一項第六項ヲ遵守スル能ハサルモノハ所轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ

一 湯壺及ヒ洗湯ハ男女ノ區域ヲ嚴畫シ双方ヨリ見透カサル様仕切ヲ設クル事

二 浴場及ヒ脱衣場ハ外部ヨリ見透カサ、ル様態其他ノモノヲ以テ見隠ヲ設クル事

三 脱衣場ハ男女ヲ區別シ可成締アル戸柵ヲ設クル事

四 火焚場及ヒ煙出シハ不燃質物ヲ用ヒ且煙出シハ屋上三尺以上突出セシムル事

五 火消場及ヒ灰置場ハ危険ノ虞ナキ様築造スル事

六 揚リ湯ヲ設クル事

七 汚水排出ノ線路ハ疏通ニ便利ナル様設クル事

第四條 浴場火焚場煙出シ火消場等破損ヲ生シタルハ速ニ修理ヲ加フヘシ

第五條 浴場ハ毎日交換シ不淨ノ水ヲ用フヘカラス 但熱湯等ニシテ特ニ許可ヲ得タルモノハ此限ニアラス

第六條 浴場ハ毎日二回以上火焚場及煙出シハ毎月一回以上掃除ヲナスヘシ

第七條 浴場ヨリ流出スル排水路ニハ蓋ヲ設クヘシ

第八條 浴場ハ夜十二時限リ閉止スヘシ 但烈風ノ際ハ時限ニ拘ハラズ焚火ヲ停ムヘシ

第九條 泥酔人及ヒ看護人ナキ老幼其他危険ト見認ムル病者ヲ入浴セシムヘカラス

第十條 男女ヲ混浴セシムヘカラス 但十歳未満ノ者ハ此限ニアラス

第十一條 浴客ノ衣類其他携帶品ハ紛失セサル様注意シ若シ遺留又ハ換易ノ物品アリタルハ其品目ヲ揭示シ五日以内ニ事主知レサルキハ所轄警察署又ハ分署ヘ届出スヘシ 但不正ノ物品ト認ムルハ即時届出ヘシ

第十二條 湯屋ハ清潔ヲ旨トシ不潔ナラサル様注意スヘシ

第十三條 浴場及ヒ火焚場煙出シ等ハ警察官吏検査スルコトアルヘシ 但危険其他公害アリト認ムルハ改造又ハ修理ヲ命スルコトアルヘシ

第十四條 此規則ニ違背シタルモノハ違警罪ノ刑ニ處セラル、ノ外其情狀ニ依リ營業ヲ停止又ハ禁止スルコトアルヘシ

第一千百一 明治十九年七月三日

郡乙第九十五號

湯屋 本年甲第六十七號而達ニ指稱スルモノヲ云フ營業創廢ノ都度所轄警察署又ハ分署ヘ通知スヘシ

右相達ス

第一千百一 明治二十年二月二十二日

達 第五十三號

警察本部 警察署 同分署

郡役所

拾得物取扱手續

第一條 警察署又ハ分署ニ於テ遺失物及置拾物等ヲ拾得訴出ルトキハ其物件ノ素質員數積量等ヲ精密調査ノ上之ヲ領シ後日處分ノ節紛擾ナキヲ要ス

第二條 前條ニ據リ領收シタル物件ハ別紙受領證及領置表ノ欄内ヘ其物質員數積量等ヲ詳細登記シ契印ヲ捺シ之ヲ切斷シ受領證ハ拾得人ヘ下付スヘシ 但物件保管方ノ義ハ明治十九年四月號第二十六號達ニ據ルヘシ

第三條 巡查交番所又ハ派出所ニ於テ遺失物置物等ヲ拾得訴出ルキハ其物件ノ素質員數積量等ヲ精密調査ノ上之ヲ領收シ第二條ノ手續ニ依リ別紙受領證ヲ拾得人ヘ下付シ物品ハ假領置表ト共ニ速ニ警察署又ハ分署ヘ送致スヘシ

第四條 警察署同分署ニ於テ前條物品ノ送致ヲ受ケタルキハ速ニ領置表ニ登記シ二ヶ月内ニ受領證ヲ其交番所派出所ヘ送付シ假受領證ト引換ノ手續ヲ爲サシムヘシ

拾得物假領置表

拾得物	第	號
拾得者	明治	年 月 日 午 時
理由	縣府	區郡 村町 番地
		ニ於テ拾得

第二十一年六月達
第五百二十六號
以下第四條ヲ以テ第三條ニ加シ第三條以下ヲ下ク

假受領 シタル 年月日	明治 年 月 日
-------------------	-------------------

右及御送付候也

明治 年 月 日
 警察 署
 御 署
 中
 所 巡 査

第 號
 拾得物假受領證

府 郡 町 番地
 縣 區 村

右假ニ領置候也

但假受領證ハ二ヶ月内ニ本證書ト引換ヲ爲スモノトス

明治 年 月 日

所 巡 査

第五條 領置シタル物件中廣告ヲ必要ト見認ルモノハ其實物員數積量等ノ大畧ヲ記載シ三十日以内揭示スヘシ其物件高價若クハ珍奇ニ屬スルモノハ別ニ他ノ警察署ニ通牒シ又ハ新聞紙等ニ廣告シテ廣ク遺失者ヲ需ムヘシ
 第六條 拾得物件粗惡又ハ輕微破レ提燈古木履 古手拭等ノ類ニシテ其用ニ耐ヘス又ハ價直ヲ有セサルモノト認ム

ルキハ一ヶ年經過ノ後物主知レサルトキ拾得者ニ於テ該物品ヲ請求スルノ念慮アルヤ否ヲ尋問シ若シ請求ノ念慮ナシト答フルトキハ受領證ヲ下付スルニ及ハス領置表ニ其旨朱記シ主任官拾得人連署捺印シ置クヘシ
 第七條 物件貸借證書ノ類ヲ拾得訴出タルトキハ一ヶ年内物主知レサルトキハ官沒スヘキ旨拾得者ニ申聞カセ其旨領置表中ヘ記載シ主任官拾得人連署捺印シ置クヘシ但受領證ハ下付スルニ及ハス
 第八條 拾得物件中長大ニシテ領置ニ不便ナルモノ又ハ破損シ易ク若クハ耐久シ難キモノハ便宜公賣ニ附シ其代價ヲ領置シ處分スルコトヲ得
 第九條 凡拾得物件一ヶ年内物主明ナルトキハ物主拾得者代人ニテモ妨ケナシト雖モ呼出ノ上其物件ヲ還付シ領置表還給處分ノ部ヘ連署捺印セシメ處分官モ共ニ署名捺印シ置クヘシ
 第十條 拾得物ノ内若其幾部分ノ物主明白ナルトキハ前條ノ手續ニ隨ヒ其事由ヲ受領證及領置表還給處分ノ部ヘ朱記シ尙受領證ハ得者ニ下付シ殘品ハ期限ノ滿ルヲ待テ後チ處分スヘシ
 第十一條 拾得物ノ内賊ノ置拾物等ニ係リ犯罪ノ證據トナルヘキモノハ其事由ヲ調査シ調査又ハ告訴發書ト共ニ檢事ヘ送致スヘシ但運送ノ都合ニ據リ便宜書面ノミチ送付シ檢事ヨ
 第十二條 前條ノ物件ニシテ若シ物主明白ナルトキハ假ニ還付シ其請書ヲ徴シ送付スルコトヲ得但本條及前條ノ場合ニ於テハ得者ヘ其旨告知シ下付シタル受領證ハ返納セシメ日其事由ヲ朱記シ主任官署名捺印シ置クヘシ
 第十三條 滿期處分ニ際シ得者失踪又ハ死亡スルトキハ其相續人又ハ同居ノ親族ニ給附スヘシ若シ相續人親族ナキトキハ官沒スヘシ
 第十四條 火災ノ後其場ニ遺却セル物件及邸内空屋或ハ藩屏アル地内ニ於テ拾得タル物件又ハ賊ノ置拾物ハ物主ニ還給シ其事由ニ據リ報勞金ヲ給付セシメサルコトアルヘシ但一ヶ年内物主知レサル第十五條 受領證若シ火災盜難又ハ遺失毀損等ノ故ヲ以テ書換再渡ヲ乞フ者アラハ能ク其事由ヲ

調査シ相違ナキト見認ルモノニ限リ下付スヘシ但シ受領証ハ兼テ存在スル領置表ニ據リ照會シ其一半ヲ下
 第十六條 拾得者心得第一條第六條第十一條ノ規定ヲ遵守セサル物件ハ官沒スヘシ
 第十七條 拾得者他管ニ轉籍セントスルカ又ハ他管ノ者ニシテ歸國セントスル等ノ節ハ後日處分
 ノ爲メ代理人ヲ定メ届置カシムヘシ但シ管内ノ者ト雖モ遠隔ノ者ハ本條ノ例ニ據ルヘシ
 第十八條 拾得物件一ケ年内ニ物主知レズ得者ニ給付スルトキハ領置表結局處分ノ部ヘ署名捺印
 セシメ處分官モ共ニ署名捺印シ置クヘシ
 第十九條 第四條第五條ノ物件ハ一ケ年經過ノ後之ヲ棄却スヘシ
 第二十條 印願ヲ拾得シ一ケ年内物主ナク得者ニ給付スルトキハ其印面ヲ磨滅スヘシ
 第二十一條 官署内遺失物及郵便函ニ投入ノ物件ハ例規ニ據リ警察署分署ニ於テ處分スルモノト
 ス
 第二十二條 旅籠屋ニ遺シ置ク物件及湯屋ニ於テ換易セラレシ物件ニシテ一年内物主知レザルト
 キハ家主又ハ被換者ヘ給付スヘシ
 第二十三條 埋藏ノ物件ヲ掘得シ訴出タルトキ其物件ノ内古代ノ沿革ヲ徵スルニ足ルヘキト見認
 ルモノハ掘出地名及參考ト爲ルヘキ事實ヲ詳記シ現品ヲ添ヘ警察本部ヘ送付スヘシ但分署ニ於テ
 警察本部ヘ送付スルモ妨ケナシ
 第二十四條 逃走畜類ヲ得訴出タルトキハ便宜之ヲ飼養セシメ八日間經過ノ後之ヲ公賣シ其費用
 及報勞等ヲ償ヒ仍ホ剩餘アルトキハ第七條第十七條ニ據リ處分スヘシ
 第二十五條 警察官吏ノ拾得シタル物件其他官沒シタル物件ハ明治十九年三警第三十二號達ニ據
 ルヘシ
 第二十六條 凡拾得物件一ケ年内物主明白ニシテ物件還付スルトキ及物主不分明ニシテ物件ヲ得

者ニ給付スルトキハ總テ受領証ヲ返納セシムヘシ
 第二十七條 領置表及返納シタル受領証ハ番號ノ順序ニ從ヒ錯雜セサル様編纂保存スヘシ
 表 面

拾得物領置表

警察署

第 號	拾 得 者			拾 得 年 月 日 時	拾 得 者	ニ 於 テ 拾 得
	理 由	處 分 官	預 入			
第 號	明治 年 月 日					

裏 面

第 號 拾得物受領證	分處沒官局結	分處與給局結	分處給還局結
	明治 年 月 日 處分官	明治 年 月 日 處分官 表書ノ物件拾得御訴致置候處一年內物主知レサルヲ以テ本日自分へ御下附相成正ニ奉受取候也 拾得者	明治 年 月 日 處分官 表書ノ物件拾得御訴致置候處今般物主相分リ本日遺失者へ御下附相成正ニ奉受取候也 拾得者 遺失者
表面			

前書之物件正ニ領置候後日處分ノ節當署へ此證書持參可致候也
明治 年 月 日

裏面

警察署

拾得者心得

第一條 表書ノ物件一年內ニ其主ナキハ得者ニ給ス因テ得者ハ其拾得セシ當日ヨリ一ヶ年ヲ經過シタル後三十日間ニ此證書ヲ携へ最初訴テ爲シタル警察署若シクハ分署へ出頭シ物件ヲ受取ルヘシ

第二條 一ヶ年內ニ物主分明セシキハ得者及物主ヲ召喚シテ全還セシム此場合ニ於テハ報勞金ヲ受取リ若クハ費用ヲ償ハシムルヲ得

第三條 長大又ハ耐久シ難キ物件ハ公賣シ代價ヲ以テ現物ト見做シ領置シテ處分スルノ第一條第二條ニ同シ

第四條 逸走スル家畜類ヲ得テ訴出タルキハ八日內ニ物主分明セサレハ公賣シテ得者ニ其費用ヲ償ヒ仍ホ剩餘金アルモノハ領置シテ處分スルノ第一條第二條ニ同シ

第五條 拾得ノ物件盜賊ニ係ルモノ及犯罪ノ證據トナルヘキ場合ニ於テハ本例ノ限リニアラス

第六條 拾得者ノ他管ニ轉籍セントスルカ若クハ他管ノモノニシテ版圖セントスル等ノ節ハ後日處分ノ爲メ代理人ヲ立置クヘシ但管内ノ者ト雖モ還附者ハ本條ノ例ニヨル

第七條 滿期處分ノ際ニ於テ得者失踪又ハ死亡スルキハ相續人又ハ同居ノ親屬ニ給與スト雖モ若シ相續人親族ナキハ官沒スヘシ

第八條 火災ノ後其場ニ遺却セル物件ヲ拾得ル者物主明白ナルキハ物主へ還給シ其事情ニ依リ報

勞金ヲ給付セザルコトアルヘシ但一个年内物主知レサル者ハ本例ニ依ル

第九條 邸内空屋或ハ藩塀アル地内ニ於テ拾得タル物件及ヒ賊ノ置捨物件ハ物主ニ還給シ其事情ニ依リ報勞金ヲ給付セザルコトアルヘシ但一个年内物主知レサル者ハ本例ニ依ル

第十條 應禁物ヲ得レハ之ヲ官沒ス

第十一條 此證書ヲ火災盜難若クハ遺失紛失等セシキハ速ニ届出書換テ乞フヘシ

第十二條 第一條第六條第十一條ノ規則ヲ遵守セサル者ハ該物品ハ官沒ス

第千百三 明治二十年七月二十九日

達第六百五十六號

警察本部 警察署 同分署

本年一達第五十三號拾得物取扱手續中第二十三條ハ本年七月達第六百十三號ニ據ルヘシ
 參看二十年達第六百十三號ノ第九類會計部ニアリ

第千百四 明治十九年四月七日

警察第二十六號

警察本署 警察署 警察分署

遺失物埋藏物置貯物及犯人所持金品等保管手續左ノ通相定候條嚴重取締可致此旨相違候事

一 警察各署ニ於テ得遺失物埋藏物置貯物及犯人所持金品等總テ取調中保管スヘキ物件ハ其種類ヲ分チ素質摸樣員數等ヲ主任者ニ於テ簿冊ニ登記シ署長認印ノ上藏置スヘシ

二 前條物件ハ金錢ト物品トチ區別シ金錢ハ直ニ封緘ノ上主任者之ニ認印シ其表面ニ領置ノ理由及ヒ年月日得者所持主ノ姓名等ヲ記シ藏置スヘシ
但警察本署警察署ニ於テハ封金又ハ普通約束ヲ以テ成ヘク爲替方ヘ預ケ入ルヘシ

三 物品ハ拾得及滿期年月日并得者所持主ノ姓名等總テ保管スヘキ事由ヲ記シタル木札ヲ付着シ藏置スヘシ

二十年六月縣令第七十二號ヲ以テ本項ヲ追加ス

二十二年二月縣令第二十號同第十條及第十一條改正ス

四 藏置所ハ土藏又ハ押入若クハ箱ノ類ニシテ堅牢且鎖鑰アルモノヲ用ユヘシ

五 藏置所ノ開閉及物品ノ收支ハ警部警部補ノ内一名分署ハ主任者立會ノ上取扱フヘシ

六 藏置所ノ鎖鑰ニハ月日并ニ前項ノ官吏認印シタル封ヲナスヘシ

七 藏置所ノ鍵ハ閉鎖ノ後鍵箱ニ入レ前項ノ手續ニ據リ封ヲ爲シ宿直官吏又ハ夜警ヲ爲ス官吏ヘ預ケ置クヘシ

八 期滿處分又ハ物品返還等ノ節ハ第一項ノ簿冊ヘ其旨朱記シ署長認印ノ上下渡スヘシ

第千百五 明治二十年五月二十六日

縣令第五十五號

斃牛馬割剝場取締規則

斃牛馬割剝場取締規則

但明治十四年石川縣甲第二十五番布達ハ六月三十日限り適用セス

第一條 斃牛馬ヲ割剝スルハ公許ヲ得タル場所ニ非サレハ之ヲ許サス

第二條 斃牛馬割剝場ヲ新設改修シ又ハ移轉セントスル者ハ其場所及構造ノ圖面地主并ニ近接地主家主ノ承諾書ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ヘ出願スヘシ其改修ヲ爲ス場合ハ承諾書ヲ要セス但宜ニヨリ箇所并其數ヲ限ルコトアルヘシ

第三條 割剝場ノ位置ハ人家道路河川ヲ距ル一丁以外ノ地タルヘシ且其構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一 割剝場内部ハ腰板ヲ張リ地盤ハ板若クハ漆喰敲ノ類ヲ以テ敷詰土中へ血液汚汁ノ浸染セザル様裝置スヘシ

一 敷板又ハ漆喰敲ニ勾配ヲ付シ且便宜ノ箇所ヘ溝渠ヲ設ケ血液汚汁ヲシテ溜壺ヘ流下セシムル様構造スヘシ

- 一 骨肉汚物ノ容器若クハ溜壺ハ割剝場外部ノ土中へ装置シ且密閉スヘキ覆蓋ヲ設ク其周邊ハ漆喰敷ノ類ヲ以テ敷詰ムヘシ
- 一 割剝場ノ周圍ニハ柵又ハ塙塙等ヲ設クヘシ
- 第四條 割剝場落成シタルキハ所轄警察署又ハ分署へ届出檢査ヲ受クヘシ若シ出願ノ圖面ニ相違セルカ又ハ粗惡ナル構造ナルキハ改造セシムルコトアルヘシ
- 第五條 割剝場ヲ廢業シ若クハ賣買讓與シタルキハ三日以内ニ所轄警察署又ハ分署へ届出ヘシ
- 第六條 割剝場ニハ左ノ目標ヲ掲クヘシ

住所	〇 免許斃牛馬割剝場
氏名	
現地名	
縦三尺	
横八寸	

- 第七條 斃牛馬ヲ割剝セントスルキハ所轄警察署又ハ分署へ届出警察官吏ノ立會ヲ乞フヘシ
- 第八條 割剝シタル牛馬ノ骨肉汚物ノ類ハ其都度相當ノ仕抹ヲナシ苟シクモ他ニ散亂セシムヘカラス
- 第九條 斃牛馬ハ肥料其他ノ用ニ供スルノ外食料ノ爲メ販賣若クハ贈與ヲ禁ス
- 第十條 割剝場ハ専ラ清潔ヲ旨トシ恒ニ掃除ヲ怠ルヘカラス殊ニ割剝終リタル毎ニ場内ヲ洗滌スヘシ
- 第十一條 割剝時間ハ十月ヨリ五月マテハ午前六時ヨリ正午十二時マテ六月ヨリ九月マテハ午前四時ヨリ同十時限リトス但時宜ニヨリ警察署又ハ分署ニ於テ特ニ伸縮セシムルコトアルヘシ

- 第十二條 割剝場ハ何人ノ需メタリト雖正當ノ事由ナク割剝ヲ拒ムヲ得ス
- 第十三條 傳染病ニ罹リタル牛馬ハ割剝スルヲ許サス
- 第十四條 病畜又ハ使用ニ堪ヘサル牛馬ヲ屠殺シテ割剝セントスル者モ此規則ニ從フヘシ
- 第十五條 一旦許可シタル割剝場ト雖トモ土地ノ情況ニヨリ他ニ移轉ヲ命スルコトアルヘシ
- 第十六條 第二條第四條第五條第七條第八條第九條第十三條第十四條ニ違背シ又ハ第六條第十條第十二條ニ違背シテ命ニ從ハサルモノハ刑法第四百二十六條第四項ニ據リ處分セララルヘシ

第千五百六 明治二十年五月二十七日

縣令第五十七號

劇場取締規則左ノ通相定メ七月一日ヨリ施行ス但明治十五年石川縣甲九十一番布達ハ六月三十日限り適用セス

劇場取締規則

- 第一條 劇場ヲ新設若クハ改造模様換ヲ爲サントスルキハ近接地主並家主ノ承諾書ヲ添へ所轄警察署又ハ分署へ出願スヘシ但改造模様換ニ係ルハ承諾書ヲ要セス
- 第二條 前條ノ願書ニハ左ノ各項ヲ詳記スヘシ
 - 一 構造内外部ノ圖面
 - 二 建築仕様書
 - 三 場所ノ圖面并其地種地目步數
 - 四 火災消防準備ノ方法
- 第三條
- 第四條 左ノ場合ニ於テハ三日以内ニ所轄警察署又ハ分署へ届出ヘシ
 - 一 廢場又ハ賣買讓與シタルキ

二十二年二月
縣令第二十
號ヲ以テ第
四條第一
條中改正シ
第八條第
三條ヲ刪除ス

二十年六月縣令第七十一號
正ス
二十年十一月縣令第七十三號
八號ヲ以テ本項改正ス

- 二 改氏名代換又ハ轉居シタルキ
- 第五條 左ノ場合ニ於テハ劇場免許ノ効ヲ失フモノトス
 - 一 建築改造免許ノ日ヨリ百日以内ニ諸材木切組建前ニ着手セサルキ
 - 二 火災等ニ依リ全場焼失シタルキ
- 第六條 劇場ハ時宜ニ依リ其場所並ニ箇數ヲ定限スルコトアルヘシ
- 第七條 劇場ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ
 - 一 通常出入口ノ外三ヶ所以上方位ヲ異ニシ非常口ヲ設クルコト但僅ク用ユルキハ外開ニスヘシ
 - 二 建物相當ノ窓扉ヲ設ク空氣ノ流通ニ便ナラシムルコト
 - 三 二階樓敷ハ堅牢ニ構造スルコト
 - 四 二階樓敷ハ通常所用ノ外二ヶ所以上ノ非常階子ヲ設クルコト
 - 五 便所ハ看客ノ坐席ヨリ三間以上隔リタル地ニ設ケ其構造ハ明治二十年六月縣令第七十號家屋建築規則第八條ニ從フコト
 - 六 不燃質物ヲ以テ構造シタル火器其他發火物ノ取扱場所ヲ設クルコト
 - 七 藝人部屋ト看客坐席ノ間ニハ交通ヲ爲シ得サル様屏障ヲ設クルコト
 - 八 全場見通シ易キ所ヲ撰ミ警察官吏ノ監臨席ヲ設クルコト
- 第八條 新築ト修繕トヲ問ハス工事落成シタルトキハ所轄警察署又ハ分署ヘ届出檢査ヲ受クヘシ但檢査上仕様書ニ相違セル構造者クハ不堅牢ト見認ムルキハ全部又ハ幾部ヲ改造セシムルコトアルヘシ
- 第九條 演劇興行ヲ爲サントスルキハ左ノ各項ヲ詳記シ仕組書ニ藝人鑑札ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ヘ届出認可ヲ受クヘシ但藝團警ヲ爲サントスルキハ仕組書ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ヘ届出認可ヲ受クヘシ
- 一 興行ノ場所

- 二 興行ノ日數
- 三 藝人ノ屬籍氏名
- 四 木戸錢棧敷場代等ノ程度
- 第十條 興行ヲ止メ又ハ一時休業シ若クハ日延等ヲ爲シタルキハ所轄警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ
- 第十一條 興行ハ日出ヨリ午後第十二時限リトス但烈風其他危害アリト認ムルキハ臨時停業ヲ命スルコトアルヘシ
- 第十二條 烈風ノ時ハ勿論平常ト雖火災ノ虞ナキ様注意シ且適宜消防器械ヲ備置クヘシ
- 第十三條 木戸錢棧敷場代等木戸口其他見易キ所ニ揭示スヘシ
- 第十四條 二階樓敷ハ看客ノ入ルヘキ程度ヲ定メ所轄警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ
- 第十五條 劇場ハ清潔ヲ旨トシ掃除又ハ修繕ヲ怠ルヘカラス就中便所ハ興行時間外ニ於テ時々掃除ヲナシ且興行中ハ常ニ防臭劑ヲ散布スヘシ
- 第十六條 劇場ニ於テハ左ノ諸件ヲ禁ス
 - 一 仕組書外ノ所爲ニ涉ルコト
 - 二 正邪ヲ誤リ倫理ヲ亂シ其他醜猥ノ所爲ニ涉ルコト
 - 三 藝人等看客ノ坐席ヘ往來シ又ハ看客ヲ樂屋ニ入ルコト
 - 四 看客ヘ圖ヲ賣リ或ハ景物ヲ與ヘ其他種々ノ名義ヲ以テ出錢ヲ促スコト
 - 五 看客ノ需メナキ飲食物其他ノ物品ヲ勸ムルコト
 - 六 通行人ニ對シ強テ參觀ヲ勸ムルコト
 - 七 藝人等看客ノ召ニ應シ芝居茶屋等ニ至ルコト
 - 八 二階樓敷ヘ定員外ノ看客ヲ入ルコト
 - 九 看客ノ坐席ヲ暗黒ニスルコト

十 無籠ノ燈火ヲ用ユルコト但釣火又ハ差出シハ此限ニアラス

第十七條 演劇興行ノ爲臨時小屋掛ヲナシ又ハ寺院等ノ家屋ヲ假用セントスルハ所轄警察署又ハ分署へ願出免許ヲ受クヘシ且其構造方ハ第七條ノ規定ニ從フニ及ハスト雖但總テ警察官吏ノ指揮ニ從テ處置シ空氣ノ流通非常災變ニ際シ出入ニ便ナル等ノ注意ヲ爲スヘシ但劇場設置ノ地及其接續ノ町村ニ於テハ假設興行ヲ許サス

第十八條 臨時假設シタル興行場ハ其興行ニ限り許可スルモノニシテ引續キ同場ニ於テ興行スルコトヲ得ス

第十九條 劇場ヲ使用シテ操人形淨瑠璃手品輕業ノ類ヲ興行セントスルモノハ諸興行場取締規則ヲ遵守スヘシ

第二十條 演劇ノ所作中若シ本則第十六條第一項第二項ノ規定ヲ犯シ又ハ治安ニ害アリト見認ムルハ警察官吏ニ於テ其興行ヲ停止スルコトアルヘシ

第二十一條 第一條第四條第八條第九條第十條第十四條第十六條第十七條ニ違背シ又ハ第十一條第十二條第十三條第十五條ニ違背シテ命ニ從ハサルモノハ刑法第四百廿八條第五項ニ據リ處分セラルヘシ

第一千七百七 明治二十年五月二十七日

縣令第五十八號

諸興行場取締規則左之通相定メ七月一日ヨリ施行ス但明治十六年石川縣甲三番并同年甲三十一番布達ハ六月三十日限り適用セス

諸興行取締規則

第一條 本則ニ於テ興行場ト稱スルハ人寄席遊覽所及觀物角紙等興行ヲ爲ス場所興行ト稱スルハ其場所ニ於テ演藝若クハ遊觀セシムルモノヲ總稱ス但劇場并演劇ハ此限りニアラス

二十二年三月
縣令第三十二
號ヲ以テ本條
及第五條ヲ改
正シ及ヒ第四
條ヲ削除ス

第二條 興行定席場ヲ新設シ又ハ改造セントスルハ其場所并構造ノ圖面及近接ノ地主并家主ノ承諾書ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署へ願出スヘシ但改造ニ際スルハ承諾書ヲ要セス

第三條 前條ノ工事落成シタルハ所轄警察署又ハ分署へ届出檢査ヲ受クヘシ

第四條

第五條 左ノ場合ニ於テハ三日以内ニ所轄警察署又ハ分署へ届出ヘシ

- 一 廢場又ハ賣買讓與シタル時
- 二 改氏名代換又ハ轉居シタル時

第六條 興行場ハ宜時ニヨリ其場所并箇數ヲ規定スルコトアルヘシ

第七條 興行場ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ

- 一 通常出入口ノ外一ヶ所以上ノ非常口ヲ設クルコト但扉ヲ用ユルコトハ外開ニスヘシ
- 二 建物相當ノ窓隔ヲ設ケ空氣ノ流通ニ便ナラシムルコト
- 三 二階樓敷ヲ設クルモノハ堅牢ニ構造スルコト
- 四 便所ハ看客ノ坐席ヨリ三間以上隔リタル地ニ設ケ其構造ハ明治二十年六月縣令第七十號家屋建築規則第八條ニ從フコト
- 五 全場見通シ易キ所ヲ撰ミ警察官吏ノ監臨席ヲ設クルコト

第八條 興行ヲ爲サントスルモノハ左ノ各項ヲ詳記シ所轄警察署又ハ分署へ届出認可ヲ受クヘシ

- 一 興行ノ場所
- 二 興行ノ種類
- 三 藝人アルモノハ其屬籍氏名
- 四 本戸錢棧敷場等ノ程度

第十五類 行政警察

二十年六月縣
令第七十一號
ヲ以テ改正ス

第九條 興行ヲ止メ又ハ一時休業若クハ日延等ヲ爲スルハ所轄警察署又ハ分署へ届出ヘシ

第十條 興行ハ日出ヨリ午後第十二時限リトス但し風其他危害アリト認ムルハハ臨時休業ヲ命スルコトアルヘシ

第十一條 木戸錢棧敷場代等見易キ所へ揭示スヘシ

第十二條 興行場ハ清潔ヲ旨トシ掃除又ハ修繕ヲ怠ルヘカラス殊ニ便所ハ興行時間外ニ於テ掃除ヲ爲シ興行中ハ防臭劑ヲ散布スヘシ

第十三條 興行場ニ於テハ左ノ諸件ヲ禁ス

- 一 演劇ハ勿論之ニ類スル所作ヲ爲ス
- 二 正邪ヲ誤リ倫理ヲ亂シ其他醜猥ノ所爲及講談ニ涉ル
- 三 人造物ヲ天造物ト詐稱シ又ハ事實ニ相違シタルコトヲ稱揚スル
- 四 腐敗物又ハ惡臭ヲ發スル物品ヲ觀覽セシムル
- 五 看客へ圖ヲ賣リ或ハ景物ヲ與ヘ其他種々ノ名義ヲ以テ出錢ヲ促ス
- 六 看客ノ需メナキ飲食物其他ノ物品ヲ勸ムル
- 七 藝人等看客ノ坐席へ往來シ又ハ看客ヲ樂屋へ入ル

第十四條 太神樂角兵衛獅々万歳猿廻シ居合拔キ觀目鏡等ノ類ニシテ途上ヲ徘徊シ技藝ヲ賣ラントスルモノハ所轄警察署又ハ分署へ届出ヘシ

第十五條 猛獸鷲鳥等ヲ觀物ト爲スルハ危險ノ虞ナキ様堅牢ノ柵欄ヲ設クヘシ

第十六條 劇場若クハ他ノ興行定席場ヲ使用シテ臨時興行スルハ妨ケナシト雖人家又ハ寺院ヲ假用シ若クハ小屋掛ヲ爲シ興行ヲ爲サントスルモノハ所轄警察署又ハ分署へ出願免許ヲ受クヘシ且其構造方ハ第七條ノ規定ニ從フニ及ハスト雖總テ警察官吏ノ指揮ニ從テ處置シ空氣ノ流通及非常變災ニ際シ出入ニ便ナル等ノ注意ヲ爲スヘシ但し興行場アルノ地及其接續ノ町村ニ於テハ假設興行ヲ許サルコトアルヘシ

二十二年二月
縣令第二十五
號ヲ以テ本條
中加除ス

第十七條 臨時假設シタル興行場ハ其興行ニ限り許可スルモノニシテ引續キ同所ニ於テ興行スルコトヲ得ス

第十八條 興行ノ所作若クハ物品中本則第十三條第一項第二項第三項第四項ノ規定ヲ犯シ又ハ治安ニ害アリト見認ルルハ警察官吏ニ於テ其興行ヲ停止スルコトアルヘシ

第十九條 第二條第三條第五條第八條第九條第十三條第十四條第十六條ニ違背シ又ハ第十條第十一條第十二條第十五條ニ違背シテ命ニ從ハサルモノハ一日ノ拘留又ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

第一千百八 明治二十年五月二十七日

縣令 第五十九號

遊技場取締規則左之通相定メ七月一日ヨリ施行ス但し明治十三年石川縣中百三番布達ハ六月三十日限り適用セス

遊技場取締規則

第一條 遊技場ト稱スルハ大弓半弓揚弓室内射的銃玉突吹矢投扇籠鞠投人形倒ノ類ヲ營業スルモノヲ云フ

第二條 遊技場ノ室内射的銃大弓半弓ノ營業ヲ爲サントスル者ハ場所ノ圖面并ニ近接家主ノ承諾書ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ニ出願免許ヲ受ケ廢業スルトキハ其旨届出ツヘシ

第三條 前條ノ營業者ハ左ノ制限ニ從ヒ射場ヲ構造シ所轄警察署又ハ分署へ届出檢査ヲ受クヘシ

- 一 流籠ヲ防ク爲メ堅牢ナル場ヲ設ケ且ツ人家稠密ノ場所ニ於テハ左右兩側ニ板若クハ壁ニテ防圍ヲ爲ス事
- 二 室内射的銃ノ標的ハ鉄板ヲ用非是ヲ臺ニ掛ケ標的ノ上部ヲ少ク前ニ假シ中彈ノ返飛ヲ防クヘキ事

三 室内射的銃ノ射程距離ハ五間以上七間ヲ限リトシ發射ノ位地ヲ定メ限界ヲ設ケ安リニ人ノ進入ヲ禁スヘキ事

第四條 遊技場ニ於テハ左ノ諸件ヲ禁ス但一項二項三項ハ室内射的銃大弓半弓ノ營業者ニ限ル

一 十歳未満ノ幼童及ヒ危險ト認ムルモノニ射撃セシムル事

二 霰管ハ射場ニ於テ消費スルノ外他人ニ轉賣付與スル事

三 些少タリニ破損ノ弓銃ヲ使用セシムル事

四 白痴瘋癲及酩酊人ニ遊技ヲ爲サシムル事

五 夜間十二時ヲ過キ營業ヲ爲ス事

六 賭博ニ類スル所爲ヲ爲ス事

七 通行人ヘ強テ遊技ヲ勸ムル事

八 客ノ囑托ト雖ニ酒肴ヲ勸メ又ハ宿泊セシムル事

第五條 遊技ノ代料ハ店頭其他見易キ所ニ揭示スヘシ

第六條 營業ニ非スト雖ニ大弓半弓及ヒ室内射的銃ノ的場ヲ設ケントスルモノハ本則第二條第三條ノ規定ニ從フヘシ

第七條 第二條第三條第四條第六條ニ違背シ又ハ第五條ニ違背シテ命ニ從ハサルモノハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス但本則第四條項目中ノ所爲ニシテ火藥取締規則ニ明文アルモノハ其規則ニ依リ處分セラレヘシ

第千九百九十一號 明治十七年十一月八日

乙第三百三十六號 郡役所 戶長役場

今般告諭第六號ヲ以テ兒童遊戲中當テ獨樂ノ義一般告諭候ニ付テハ該父兄タル者ニ於テハ厚ク注意ヲ加フヘキハ勿論ニ候得共尙又其役所役場ニ於テモ右様危險ニ遊戲者無之様精々可致注意此旨相達

候事

第千一百一十號 明治十八年二月十四日

甲 第八號

途上ニ於テ車馬行逢フタルトハ互ニ左方ニ避クヘキ規定ノ處軍隊并砲車輜重車ニ行逢フタルトニ限リ右方ヘ避ク可シ

右布達候事

第百一十一號 明治十八年九月十六日

警察本署 警察署 警察分署

第百二十八號 明治十七年九月警第五十號ヲ以テ車馬通行止メノ場處ナルモ郵便遞送車ニ限リ通行セシムヘキ旨

和達置候處往來止メノ場處ト雖ニ人夫ノ通行シ得ラルヘキ場處ハ郵便脚夫通行爲致候條此旨相達候事

第千一百一十二號 明治二十年六月二十七日

縣令第七十八號 街路取締規則別冊之通相定メ來ル七月一日ヨリ施行ス但同則第四條第五條ニ付キタルモノ及第八條ニ依リ設クテ取除キ若クハ取設クヘシ

街路取締規則別冊之通相定メ來ル七月一日ヨリ施行ス但同則第四條第五條ニ付キタルモノ及第八條ニ依リ設クテ取除キ若クハ取設クヘシ

第一章 通則

第一條 街路ト稱スルハ公設私設ヲ問ハス公衆ノ通行スヘキ道路敷及橋梁下水トス

第二條 本則ハ市街ト規定シタル場所ニ適用スヘキモノトス

第十五類 行政警察

二八〇九

第三條 本則ニ於テ自費ヲ以テ爲スヘキ義務ヲ怠リ官署ノ督促ヲ受クルモ應セサルハ官ニ執行シ其費用ヲ徴收スヘシ

第二章 街路ノ安寧及保存

第四條 街路ニ井戸ヲ穿テ若クハ建物軒檐旗柱招牌物干等ヲ設ケ或ハ出スヘカラス
第五條 左ノ諸件ニ係ルモノハ街路ニ出スヲ得_{但其構造制限ニ適セサルモ}ハ取除カシメラルヘシ

- 一 釣看板ハ地盤ヲ距ル一丈以上ニ限リ二尺以内
- 二 日除ハ支柱ヲ用ヒス地盤ヲ距ル七尺以上ニ限リ三尺以内
- 三 掲燈ハ地盤ヲ距ル六尺以上ニ限リ一尺五寸以内

第六條 左ノ事項ハ其場ノ圖面ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ヘ願出允許ヲ受クヘシ

- 一 街路ニ床店發賣張ヲ設クル
- 二 街路ニ樹木ヲ植ヘ又ハ街燈望火臺ヲ建ツル
- 三 街路ニ柵欄支柱ヲ設ケ又ハ齒止石ヲ置ク
- 四 街路ニ華表碑表及指道標其他公衆ノ用ニ供スル標識ヲ建設スル
- 五 街路ニ目塗土置場ヲ設クル
- 六 工事ノ爲メ一時街路ニ竹木土石類ヲ置キ或ハ板圍繩張足代ヲ設ケ其他街路ヲ使用スル
- 七 街路ヲ經テ建物ヲ移シ又ハ街路ヲ壅塞スヘキ長大ノ物件ヲ運搬スル
- 八 街路ニ舞臺_(神佛祭典)小屋掛_(談市草市)及店飾ヲ設クル
- 九 街路ニ神輿山車又ハ手踊屋臺等ヲ出シ及釣提燈懸行燈ヲ設ケ幟或ハ建札ヲ爲ス
- 十 神佛送迎及祝賀等ノ爲メ街路ニ飾物ヲ出シ又ハ奉納物ヲ牛車ニテ運搬スル
- 十一 街路ニ消防具其他公衆ノ用ニ供スル物件ヲ置ク

十二 工事等ノ爲メ一時通行ヲ停止スル

十三 車馬通行停止ノ榜止アル場所ニ馬車ヲ出入スル

第七條 街路ヲ使用シ之ヲ毀損シタル者ハ直ニ原形ニ復スヘシ

第八條 街路ニ沿フタル軒檐ノ軒樋ニハ堅樋ヲ設クヘシ_{但堅樋ハ街路ノ地盤ニ設クルヲ得ス}

第九條 街路ニ沿フタル宅地ニテ奥行九尺以上ノ空地アル場所ハ其模様ニ依リ道敷ノ境界ニ塙塀ヲ設クシメラルヘシ

第十條 街路ニ沿フタル塙所ニ竹木ヲ立置クトキハ鐵鎖其他強韌ナル繩索ノ類ヲ以テ之ヲ纏束シ又ハ薪炭其他ノ物件ヲ堆積スル者ハ顛仆セサル様堅牢ノ裝置ヲ爲スヘシ

第十一條 街路ニ沿フタル建設物及樹木等崩壞顛仆ノ虞ヲルカ若クハ通行ノ妨害トナルモノハ速ニ修理撤却若クハ扶植伐採スヘシ

第十二條 街路ニ竹木土石類ヲ置クトキハ標識ヲ設クヘシ

第十三條 運搬中ノ建物若クハ長大ノ物件ヲ夜中街路ニ停メ置クトキハ路傍ニ片寄セ標識ヲ掲クヘシ

第十四條 從來設置アル街路ノ井戸ニシテ通行ノ妨害ヲ爲スヘキモノト認ムルハ地並ニ堅牢ナル蓋ヲ以テ之ヲ覆ハシメ若クハ埋却セシメラルヘシ

第十五條 街路ニ陷窞凹所等危險ノ場所アルハ蓋又ハ防圍ヲ設クヘシ

第十六條 街路ヲ毀損シ街路ノ樹木ヲ伐採シ又ハ街燈ヲ破毀消滅スヘカラス
第十七條 制札指道標便所墻壁其他公衆ノ用ニ供スル標識等ヲ毀棄汚損シ又ハ樂書貼紙ヲ爲スヘカラス

第十八條 街路ニ家畜ヲ放置シ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第十九條 街路ニ商品薪炭荷車其他ノ物件ヲ排列シ又ハ出シ置クヘカラス

第二十條 一時街路ニ於テ荷造木挽其他ノ作業ヲ爲シ又ハ爲サシメ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第二十一條 街路ニ於テ火器ヲ弄シ又ハ焚火ヲ爲スヘカラス

第二十二條 街路ニ於テ放歌高聲ヲ發シ若クハ喧噪シ又ハ偃臥スヘカラス

第二十三條 街路及街路ニ沿ヒタル場所ニ於テ袒裼又ハ裸躰ヲ爲スヘカラス

第二十四條 行商ニ用フル荷車ハ長サ八尺巾三尺屋臺店ハ長サ六尺巾三尺ヲ超過スヘカラス

第三章 街路ノ清潔

第二十五條 街路ハ常ニ清潔ニ掃除ヲ爲シ塵芥雜草ヲ存スヘカラス

第二十六條 積雪ノ際ハ街路中央ヲ掃除シ道幅三分ノ一以上ノ通路ヲ開クヘシ

第二十七條 除ケ雪卸シ雪ハ河川其他妨害トナラサル場所ニ取片付クヘシ若シ已ムヲ得サルキハ一時路傍ニ堆積スルコト得ルト雖モ必ス開路ニ撒布スヘカラス

第二十八條 炎天及風日ニハ時々街路ニ淨水ヲ洒クヘシ但冬季ハ風日ト雖モ午前九時前午後三時後ハ水ヲ洒クヘカラス

第二十九條 瓦礫塵芥及禽獸ノ死屍ヲ街路ニ投棄スヘカラス

第三十條 汚水ヲ街路ニ洒注スヘカラス

第三十一條 溝渠ヲ浚渫シタル淤泥塵芥等ハ街路ニ布キ又ハ三日以上路傍ニ留置クヘカラス

第三十二條 街路ニ於テ便所アラサル場所ニ大小便ヲ爲シ又ハ爲サシムヘカラス

第三十三條 街路ニ向ヒ及ヒ街路ニ於テ敷物疊穀類其他ノ塵芥ヲ掃フヘカラス

第三十四條 街路ヲ運搬スル物品ハ墜落漏出又ハ飛散セシムヘカラス

第三十五條 街路ニ於テ糞尿器ニ木製ノ蓋ヲ爲サヌ又ハ汚穢シタル柄杓ヲ顯ハシテ運搬スヘカラス

第三十六條 街路ニ臨ミタル屋根根物干又ハ窓手摺等ニ穢穢其他見苦敷物品ヲ掛ケ置クヘカラス

第三十七條 街路ノ掃除及ヒ積雪ノ際通路ヲ開クハ兩側家屋ノ居住人ノ之ヲ分擔スヘシ其片側ナルキ

ハ一方ノ居住人ニテ負擔シ居住人ナキキハ借地人借地人ナキキハ地主ノ負擔トス

第三十八條 橋梁其他前條ニ定メタル負擔者ナキ街路ノ掃除及ヒ開路ハ其町村ノ負擔トス

第三十九條 第十五條ノ場合ニ於テ防圍ヲ爲スハ前二條ノ規定ニ從フヘシ

第四章 街路ノ通行

第四十條 牛馬及諸車ハ夜中燈火ナクシテ疾驅スヘカラス

第四十一條 馬車及牛車ハ幅員一丈二尺以内ノ街路ヲ通行スヘカラス但其街路ニ沿フタル家屋ニ出入スル者ハ此限リニアラス

第四十二條 車ハ小兒車ヲ除クノ外其種類ノ如何ヲ問ハス跡押ノミニテ運轉スヘカラス

第四十三條 末口ノ尖リタル竹木等ヲ運搬スルトキハ其末口ヲ纏束スヘシ

第四十四條 牛馬諸車ハ車馬道ノ設アル地ハ左側其設ナキ地ハ中央ヲ通行スヘシ

第四十五條 牛馬諸車ヲ並ヘ牽キ又ハ監ニ疾驅シテ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第四十六條 車二輛以上ヲ連繫シテ輓クヘカラス但長大物件ヲ運搬スル爲メ數車ヲ連繫スルハ此限リニアラス

第四十七條 牛馬二頭以上ヲ連繫シテ牽クヘカラス但牽引等ノ爲メ輪送スル牛馬ハ此限ニアラス

第四十八條 牛馬ヲ牽キ又ハ繫クトキ其牽綱ハ三尺ヲ超過スヘカラス

第四十九條 車馬及步行者行逢フトキハ互ニ左ニ避ケ軍隊並砲車繩重車ニ對シテハ右ニ避クヘシ

第五十條 貨車ニ對シテハ空車ノヲ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ

第五十一條 前車徐行シ後車疾行セントスルキハ後車ヨリ相當ノ合圖ヲ爲シ前車ハ左ニ避ケ後車ハ右ヲ通過スヘシ

第五十二條 郵便用消防用ニ供スル車馬又ハ灌水車葬送等ニ行逢フトキハ避讓スヘシ

第五十三條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角橋上ヲ通行スル車馬ハ徐行スヘシ

第五十四條 車馬街角ヲ通行スルキハ右ハ大廻リヲ爲シ左ハ小廻リヲ爲スヘシ

第五十五條 制止ヲ肯ンセスシテ出火場其他雜沓ノ場所ニ牛馬諸車ヲ牽入ルヘカラス

第五十六條 街角橋上其他通行ノ妨害ト爲ルヘキ場所ニ牛馬諸車其他物件ヲ横ヘ若クハ駐止スヘカラス

第五十七條 街路ニ佇立シ又ハ空車ヲ輓テ彷徨シ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第五十八條 街路ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ噉シ又ハ驚逸セシメ若クハ殘虐ニ扱フヘカラス

第五十九條 街路ニ於テ看護人ナク五歳未満ノ小兒ヲ遊歩セシメ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第六十條 街路ニ於テ紙屑ヲ揚ケ又ハ獨樂羽子手毬等ヲ弄シ若クハ其他ノ遊戯ヲ爲シ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第六十一條 街路ニ於テ軍談輕業其他ノ人寄セテ爲スヘカラス

第六十二條 人道馬車道ノ區別アル場所ニ在リテ牛馬諸車ヲ人道ニ牽入レ又ハ濫ニ車馬道ヲ歩行スヘカラス

第六十三條 第四條第六條第十二條第十三條第十五條第十六條第十七條第廿一條第廿九條第卅一條第卅一條第四十條第五十五條第五十八條ニ違背シタル者及第廿二條ニ違背シテ制止ヲ肯ンセス又ハ第四十二條ニ違背シ他人ニ妨害ヲ蒙ラシメタル者ハ二日以上五元以下ノ拘留又ハ廿錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處セラルヘシ

第六十四條 第廿三條第卅二條第卅三條第四十五條ニ違背シタル者第七條第八條第十條第十一條第廿四條第廿六條ニ違背シテ命ニ從ハサル者及第十九條第卅四條第四十一條第四十四條第六十一條ニ違背シテ制止ヲ肯ンセス又ハ第十八條第廿四條第四十三條第四十六條第四十七條第四十九條第五十條第五十一條第五十二條第五十三條第五十四條第五十六條第五十七條第六十條ニ違背シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留又ハ五錢以上壹圓以下ノ科料ニ處セラルヘシ

第六十五條 刑法ニ正條アルモノハ各其本條ニ依リ罰セラルヘシ

第千百十三 明治二十一年六月二十七日

縣令第七十九號

宿屋取締規則別冊之通相定メ來ル七月一日ヨリ施行ス

但從前營業者ニシテ本則ニ從ヒ營業者タルヲ得サル者及十一日迄引續營業スルヲ得

他ノ人ニ妨害ヲ蒙ラシメタルモノハ一日以上三日以下ノ拘留又ハ五錢以上壹圓以下ノ科料ニ處セラルヘシ

第六十五條 刑法ニ正條アルモノハ各其本條ニ依リ罰セラルヘシ

第千百十三 明治二十一年六月二十七日

縣令第七十九號

宿屋取締規則別冊之通相定メ來ル七月一日ヨリ施行ス

但從前營業者ニシテ本則ニ從ヒ營業者タルヲ得サル者及十一日迄引續營業スルヲ得

(別紙)

宿屋取締規則

第一章 通則

第一條 宿屋ヲ分テ旅人宿下宿屋木賃宿ノ三種トス

第二條 宿屋營業ヲ爲サントスル者ハ其種類ヲ記シ營業用ニ供スル建物坪數及間取ヲ記シタル明細圖面ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ニ出願允許ヲ請フヘシ其間取坪數ヲ變更増減シタルハ圖面ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ

第三條 左ノ各項ニ觸ル、者ハ營業ヲ許サス

一 未丁年者及白痴瘋癲者ニシテ後見人ナキモノ

二 強盜及詐欺取財ノ罪ヲ犯シタルモノ又ハ其他ノ罪ヲ犯シ監視中ノモノ

三 風俗ヲ紊ルヘキ所爲アリト認ムルモノ

第四條 廢業代換轉住改氏名等身上ノ異動アルハ五日以内ニ所轄警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ但見人ノ交送シタルハ亦同シ

二十二年一月
縣令第十七號
ヲ以テ本條中
ヲ加除ス

第五條 宿屋營業者ハ左ノ雛形ノ看板ヲ製シ之ヲ店頭ニ掲ケ旅人宿木賃宿ハ夜中標燈ヲ以テ之ニ代フヘシ

竪二尺五寸

第號ハ營業免許證ノ番號ヲ記入スルモノトス

第	號
營業種類	橫
富山縣何郡何町(村)番地	尺
何	壹
某	尺

屋號アルモノハ其屋號ヲ記入スルモノトス

第六條 宿引ヲ出シ又ハ車夫等ト謀合シ客ヲ誘引スヘカラス

第七條 宿泊人ノ所有品ハ特ニ其寄託ヲ受ケサルモ紛失セサル様注意スヘシ

第八條 宿泊人ノ承諾ヲ得シテ來訪者其他ノ者ヲ濫ニ室内ニ入ラシムヘカラス

第九條 宿泊人疾病ニ罹ルキハ醫藥食物其求メニ應シ特ニ懇切ニ取扱ヒ若シ傳染病ト認メタルキハ速ニ警察署分署又ハ交番所派出所若クハ巡行ノ巡查ニ届出ヘシ

第十條 宿泊人變死ニ係リ又ハ其所有品ヲ紛失シタルキハ速ニ警察署分署又ハ交番所派出所若クハ巡行ノ巡查ニ届出ヘシ但本文ノ場合ニ於テハ他ノ宿泊人ヲ止メ置クヘシ

第十一條 宿泊料等ヲ拂ハサル爲メ私擅ニ宿泊人ノ所有品ヲ押収又ハ受領スヘカラス但差押ヘサルヲ得サル場合ニ於テハ所轄警察署又ハ分署ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條 宿泊人ハ懇切ニ待遇スヘシ決シ遊興ヲ勸メ又ハ宿泊料ノ外金錢ヲ得ル目的ヲ以テ客ノ求メナキ飲食物等ヲ供スヘカラス

第十三條 宿泊人ヨリ車馬ノ紹介物貨運送ノ委託ヲ受ケタルキハ正實ニ取扱フヘシ

第十四條 宿泊人ヨリ物品ヲ質入又ハ賣却等ノ委託ヲ受ケタルキハ所轄警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ

第十五條 旅行免狀ヲ所持セサル外國人ヲ宿泊セシムヘカラス

第十六條 宿泊料其他宿泊人ニ關スル緊要ノ事項ハ帳場及客室毎ニ揭示スヘシ

第十七條 警察官又ハ巡查ハ臨時宿泊人并ニ其名簿ヲ點檢スルコトアルヘシ

第十八條 宿泊人中犯罪人々相書ニ類似スルカ又ハ金錢ヲ浪費スル等舉動怪シキモノアルキハ速ニ警察署分署又ハ交番所派出所若クハ巡行ノ巡查ニ届出ヘシ

第十九條 宿泊人名簿及犯罪人々相書ハ滿一ケ年間保存スヘシ

第二章 旅人宿

第二十條 旅人宿ト稱スルハ旅籠屋船宿荷主宿礦泉宿等ニシテ宿泊賄料ヲ得テ普ク人ヲ宿泊セシムルモノヲ云フ

第二十一條 旅人宿ハ客室十二坪以上アル家屋ニ於テ營業スル者ニ限ルヘシ但特ニ認可ヲ得タル者ハ此限リニアラス

第二十二條 客室ハ充分ニ光線ヲ取リ且空氣ヲ流通セシムヘシ

第二十三條 客室毎ニ鏡前附ノ押入又ハ戸棚ヲ設クヘシ但他ニ客ノ所有品ヲ保護スヘキ途アリ

第二十四條 二階以上ノ客室十五坪以上アルモノハ階子二箇所以上ヲ設クヘシ若シ二箇所以上ヲ設クル能ハサル構造ナルキハ一箇所ノ幅員四尺以上タルヘシ

第二十五條 便所ハ臭氣ノ客室ニ及ハサル所ニ設ケ尿管ヲ受容スヘキ部分ハ可成石葺キ陶器等ヲ以テ構造スヘシ但構造上特ニ認可ヲ得タルモノハ此限リニアラス

第二十六條 便所ハ日々清潔ニ掃除ヲ爲スヘシ

第廿七條 浴場ハ常ニ清潔ニ爲シ排水路ヲ設ケ汚水ヲ溜滯セシムヘカラス

第廿八條 客室ハ旅客一名ニ付一坪半ヲ下ルヘカラス但同行者ハ此限リニアラス

第廿九條 客室ノ番號并ニ定員ハ客室ノ出入口ニ揭示スヘシ

第三十條 宿泊人ノ承諾ヲ得スシテ他ノ宿泊人ヲ同室セシムヘカラス

第三十一條 正當ノ理由ナクシテ旅人ノ宿泊ヲ拒絕スヘカラス

第三十二條 旅人宿下宿屋ヲ相兼テ又ハ支店ヲ設ケントスルモノハ第二條ノ手續ニ從ヒ各別ニ允許ヲ受クヘシ但下宿屋ニシテ旅人宿ヲ兼ルモノハ建物ノ構造其他旅人宿ノ制限ニ適スルモノニ限ルヘシ

第三十三條 營業者ハ左ノ書式ニ從ヒ宿泊人名簿ヲ調製シ宿泊人發着毎ニ原簿ニ記入シ且甲乙書式ニ從ヒ毎夜十二時迄ニ所轄警察署分署又ハ交番所派出所ニ届出ヘシ其届後ニ宿泊ノ分ハ翌日午前八時迄ニ届出ヘシ但警察署分署交番所派出所等邊隔地ノ營業人ハ便宜巡行ノ巡查ニ届出ルコトヲ得

宿泊人名簿書式 用紙寸法 適宜

番號	氏名	年 齡	職 業	族 籍	住 所	相貌ノ特徵	前泊所	夜	行先地	到 着	出 發
一號	何某	何年何月何日	何商又士族又平民	何國何郡何村何番地	片眼又ハ顔ニ傷アル等	何郡何町何村何區何町何村何區何町何村何區何町何村	何郡何町何村	何郡何町何村	何國何郡何村	何月何日何時	何月何日何時
二號	何某										
三號	全上										

官吏ノ例

軍隊ノ例

四號	全上										
----	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(甲號)

明 治 年 月 日	投 宿 届	富山縣何郡何町何村何番地族籍	某(印)
第 號			
氏 名			
族 籍			
住 所			
年 齡			
職 業			
前夜宿泊所			
行 先 地			
投 宿 日 時			

相貌特徴

(乙號)

明治年 出發屆

富山縣何郡何町(村)番地族籍

某(印)

投宿番號

氏名

出發日時

第三章 下宿屋

第三十四條 下宿屋トハ賄料坐敷料等ヲ約定シテ寄宿セシムルモノヲ云フ

第三十五條 下宿屋ハ客室八坪以上アル家屋ニ於テ營業スルモノニ限ルヘシ

第三十六條 下宿屋營業者ハ下宿人投宿後二十四時内ニ其下宿人ト連署ノ上下宿人ノ族籍住所氏

名年齢并ニ下宿ノ事由ヲ記シタル届書ニ通テ所轄警察署分署又ハ交番所派出所ニ差出シ其一通

ニ檢印ヲ受ケ所持スヘシ

第三十七條 第廿三條乃至第廿七條ハ下宿屋ニ於テモ亦之ヲ適用ス

第三十八條 下宿人ノ族籍氏名ヲ記シタル木札ヲ店頭又ハ門戸ニ掲出スヘシ

第三十九條 下宿人他ヘ轉宿シ又ハ三日以上外泊シテ其所在ノ不分明ナルトキハ其旨所轄警察署

分署又ハ交番所派出所ニ届出ヘシ

第四章 木賃宿

第四十條 木賃宿トハ飲食ヲ客ノ自辨ニ任セ止宿セシムルモノ其他安泊ノ類ヲ云フ但營業ハ土地ノ情

況ニヨリ區畫ヲ定

第四十一條 宿泊人滯在中外泊又ハ深夜ニ至リ歸宿スル等ノコアルトキハ其旨ヲ帳簿ニ記載シ置ク

ヘシ

第四十二條 第廿五條第廿六條第廿七條ハ木賃宿ニモ亦之ヲ適用ス

第四十三條 宿泊人届出方ハ第三十三條ノ例ニ從フヘシ

第五章 罰則

第四十四條 第二條第四條第六條第八條第九條第十條第十一條第十二條第十四條第十五條第十八

條第十九條第三十條第三十一條第三十二條第三十三條第三十六條ニ違背シ又ハ第五條第十六條

第廿三條第廿六條第廿七條第廿八條第廿九條第三十七條第三十八條第四十二條ニ違背シテ命ニ

從ハサルモノハ刑法第四百廿七條第八項ニ依リ罰セラルヘシ

第千百十四 明治二十年六月二十七日

縣令第八十號

營業人力車取締規則別冊之通相定メ來ル七月一日ヨリ施行ス但左ニ記載スル事項

ハ各施行ヲ猶豫ス

(別冊)

一從前人力車營業ヲ爲シ及輓子營業ヲ爲スモノハ來ル八月卅一日迄引續營業スルコト得

一輓子ノ服裝ハ來ル八月卅一日迄之ヲ猶豫ス

一車軀ノ構造及屬具ハ來ル十二月卅一日迄之ヲ猶豫ス

一營業者ノ納ム可キ保證金ハ來ル八月卅一日迄之ヲ猶豫ス

一新ニ營業ヲ許可シタルモノニアラサレハ車軀檢査證ヲ附與セス輓子モ亦之レニ準ス

二十一年八月
四日縣令第八
十八號ヲ以テ
本條中追加ス

營業人力車取締規則

第一章 通則

第一條 人力車營業トハ輓子ヲシテ車ヲ輓カシ又ハ自ラ車ヲ挽キ營業スル者ヲ云フ

第二條 前條ノ營業ヲ爲サントスル者ハ所轄警察署又ハ分署ニ願出免許證ヲ受クヘシ

第三條 營業ニ關スル願届ハ總テ取締人ノ加印ヲ受ク可シ

第四條 營業者ハ輓子ノ就業前其族籍住所氏名年齢ヲ記シタル届書ニ此規則第廿一條第廿二條ニ

抵觸セザル旨ノ證明書ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ヘ差出シ一人ニ付鑑札一箇ヲ受クヘシ

第五條 營業者自ラ車ヲ輓クハ輓子ノ例ニ從フヘシ

第六條 營業者ハ人力車ノ使用前其種類員數ヲ所轄警察署又ハ分署ニ届出檢査ヲ受ケ車體檢査證

ヲ受クヘシ其改造シタルトモ同シ

第七條 輓子ノ鑑札ハ毎年一回所轄警察署又ハ分署ノ檢査ヲ受ケ鑑札面ニ檢印ヲ受クヘシ其檢

印ナキ鑑札ハ無効タルヘシ

第八條 車體ハ毎年二回四月所轄警察署又ハ分署ノ檢査ヲ受ケ其證ヲ受クヘシ其證ナキ車ハ使用

スルコトヲ得ス

第九條 左ノ場合ニ於テハ五日以内ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出車體檢査證又ハ鑑札ノ書換又ハ

再渡ヲ請フヘシ

一 轉居改氏名等ニシテ免許證車體檢査證及鑑札面ニ異動ヲ生シタル時

二 免許證車體檢査證及鑑札ヲ遺失毀損シ又ハ其文字不明瞭ニ至リタルトキ

第十條 左ノ場合ニ於テハ五日以内ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出免許證車體檢査證又ハ鑑札ヲ返

納スヘシ

二十二年三月
縣令第二十
九號
及第九條第
四條中改正
スル

一 廢業又ハ其組合外へ轉住シタルトキ

二 車ヲ賣渡シ讓渡シ又ハ廢毀シタルトキ

三 輓子ノ解備若クハ失踪逃亡死亡又ハ第廿二條ニ觸レタルトキ

第十一條 免許證車體檢査證及鑑札ハ之ヲ貸與スヘカラス

第十二條 車體檢査證及貸錢表ハ車ノ蹴込正而ニ釘付スヘシ

第十三條 檢査證アル車ト雖モ第廿條ノ制限ニ適セス又ハ破損若クハ不潔ニ至リタルヲ認ムルトキ

ハ其使用ヲ差止ムヘシ

第十四條 營業者ハ出願ノ際身元保證トシテ左ノ金額ヲ所轄警察署又ハ分署ニ納ムヘシ 但適宜公價
行預リ券ヲ以テ
代納スルコトヲ得

一 人力車一輛ニ付金壹圓十一輛以上ニ係ル分ハ一輛毎ニ金五拾錢

第十五條 營業中車數ヲ増減シタルトキハ前條ノ例ニ照シ身元保證金ヲ増減スヘシ

第十六條 身元保證金ハ廢業又ハ其組合ヨリ除名シタルトキハ之ヲ還付スヘシ

第十七條 身元保證金ハ營業者若シクハ其輓子營業上ニ關シ他人ニ被ラシメタル損害ノ償ヒ等ニ

充用スルコトアルヘシ

第十八條 身元保證金ニ缺額ヲ生シタルトキハ十日以内ニ完納スヘシ其缺額ヲ納メザルトキハ營業

免許ノ効ヲ失フモノトス

第十九條 營業者ハ檢査證鑑札各一箇ニ付手数料金五錢ヲ納ムヘシ其書換又ハ再渡ノ時亦同シ

第二十章 車體ノ構造屬具及輓子ノ資格服裝

第二十條 車體ハ堅牢且清潔ニシテ其構造及附屬品ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一 一人乗ハ横幅内法二尺未滿二人乗ハ二尺以上トス

- 二車體ハ無地漆黒塗ニシテ中張ハ革天鵝絨羅紗等ヲ用フヘシ
- 三車體ニ同キ塗色ノ泥除ケヲ備フヘシ
- 四ゴム引又ハ桐油製ノ母衣及前掛ヲ備フヘシ
- 五不潔ナラサル蒲團及膝掛ヲ備フヘシ
- 六營業者ノ町村名姓名及組名番號ヲ記シタル細長弓張提灯ヲ備ヘ且蠟燭摺附木ヲ用意スヘシ
- 第二十一條 輓子ハ左ノ資格ヲ有スル者ニ限ルヘシ
 - 一 年齡十六年以上ニシテ身軀強壯ナル者
 - 二 其土地ノ路程ヲ略知スル者
- 第二十二條 前條ノ資格ニ適合スト雖モ強盜強姦及幼者ヲ奪取誘拐スル罪若クハ過失ヨアラザル殺傷罪ヲ犯シタル者ハ輓子トナルヲ得ス其他ノ犯罪ト雖モ監視中ノ中亦同シ
- 第二十三條 輓子ハ左ノ制限ニ從ヒ服裝ヲ爲スヘシ
 - 一 着服ハ紺又ハ黒色ノ法被又ハ筒袖ヲ着シ胸間及肘ヨリ上ヲ露ハスヘカラス股引又ハ半股引ヲ穿テ膝ヨリ上ヲ露ハスヘカラス但法被筒袖ノ丈尺ハ膝部ニ垂ルハテ度トシ組名及番號ハ縫付又ハ染抜掛袴ヲ以テ記入スヘシ
 - 二 冠リ物ハ帽子又ハ實樂笠(色淺ヒニシテ前面ニ組名)
 - 三 雨具ハ「ゴム」引又ハ桐油製ニシテ背部ニ組名番號ヲ記スヘシ
- 第三章 輓子就業制限
- 第二十四條 輓子ハ鑑札及營業人力車取締規則ヲ所持シ警察官吏又ハ乘客ニ於テ見ノコトヲ求メタル時ハ直ニ之ヲ示スヘシ
- 第二十五條 類冠リ鉢巻其他不躰裁ノ形裝ヲ爲スヘカラス
- 第二十六條 吳坐其他見苦シキ物品ヲ車軀ニ纏フヘカラス

- 第二十七條 路上ニ彷徨シ又ハ停止シテ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス
- 第二十八條 乘客ノ承諾ヲ得ス途中ニ於テ他車ニ載セ替ヘ又ハ濫リニ駐車スヘカラス
- 第二十九條 駐車場アル場所ニ於テハ其場外ヘ人力車ヲ置クヘカラス但乘客乗用ノ爲メ往來ノ妨害ト爲ラサル場所ニ駐車スルハ妨ケナシ
- 第三十條 何レノ場所ト雖モ人力車ヲ置クニハ必ス横付ケニ置クヘシ
- 第三十一條 乘客ノ指定セサル宿泊店飲食店其他ノ場所ニ輓入ヘカラス
- 第三十二條 制止ヲ背ヒスシテ出火場其他群集シタル場所ニ輓入ヘカラス
- 第三十三條 行人ニ對シ言語動作ヲ以テ乗車ヲ勸メ又ハ侮慢ノ言行ヲ爲スヘカラス
- 第三十四條 車ヲ並ヘ輓キ又ハ濫ニ疾驅シテ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス
- 第三十五條 人力車ノ通行及避讓方ハ左ノ例ニ從フヘシ
 - 一 馬車道ノ設ケアル場所ハ左側其設ケキ場所ハ中央ヲ通行スヘシ
 - 二 車馬及歩行者ニ行進フトキハ左ニ避ケ軍隊并砲車輻重車ニ對シテハ右ニ避クヘシ
 - 三 貨車ニ對シテハ空車ニ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ
 - 四 前車徐行シ後車疾行セントスル時ハ後車ヨリ懸ケ聲ヲ爲シ前車ハ左ニ避ケ後車ハ右ヲ通過スヘシ
- 五 郵便用消防用ニ供スル車馬及葬送等ニ行進フトキハ避讓スヘシ
- 第三十六條 往來雜踏又ハ狹隘ノ場所及街角橋上ヲ通過スルトキハ徐行スヘシ且街角ヲ過クル時ハ右ハ大廻リヲ爲シ左ハ小廻リヲ爲スヘシ
- 第三十七條 二輛以上ノ車ヲ連繫シテ輓クヘカラス
- 第三十八條 夜中燈火ナクシテ車ヲ疾驅スヘカラス
- 第三十九條 街角橋上其他往來ノ妨害ト爲ルヘキ場所ニ於テ客ヲ昇降セシムヘカラス